

ソフトウェア操作ガイド

(Windows 98インストール)

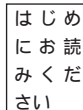
- アプリケーションを利用する
- 便利な機能を利用する
- 添付アプリケーションの削除と追加
- Windows 98と添付アプリケーションの再セットアップ
- 他のOSを利用する



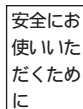
98 MATE

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

添付品の確認、本機の接続、Windows 98のセットアップ
『はじめにお読みください』



本機を安全に使うための情報
『安全にお使いいただくために』



Windows 98の基礎知識、基本的な操作方法
『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』
または、Windows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の
『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』



本機の各部の名称・機能・増設方法、システム設定
『ステップアップガイド』



このマニュアルです

本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、
再セットアップ
『ソフトウェア操作ガイド』



トラブル解決方法
『困ったときにお読みください』



ビジネスでお使いになるお客様向けのメンテナンスとサポート情報の紹介
『NEC PCあんしんサポートガイド ~ビジネスでお使いのお客さまへ~』



NECのパソコンに関する相談窓口や受講施設、故障時のサービス網などの紹介
『NEC PCあんしんサポートガイド』



Microsoft関連製品の情報について

次のWebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響については、(3) 項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
 - ・ 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。

安全にお使いいただくために



警告

本機に添付のCD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。
大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカを破損する恐れがあります。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

OS/2、OS/2 Warp、WIN-OS/2は、米国IBM Corporationの商標です。

NetWareは米国Novell, Inc.の登録商標です。

TGU19682はTrident Microsystems, Inc.の商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

pcANYWHERE32はSymantec Corporationの米国における登録商標です。

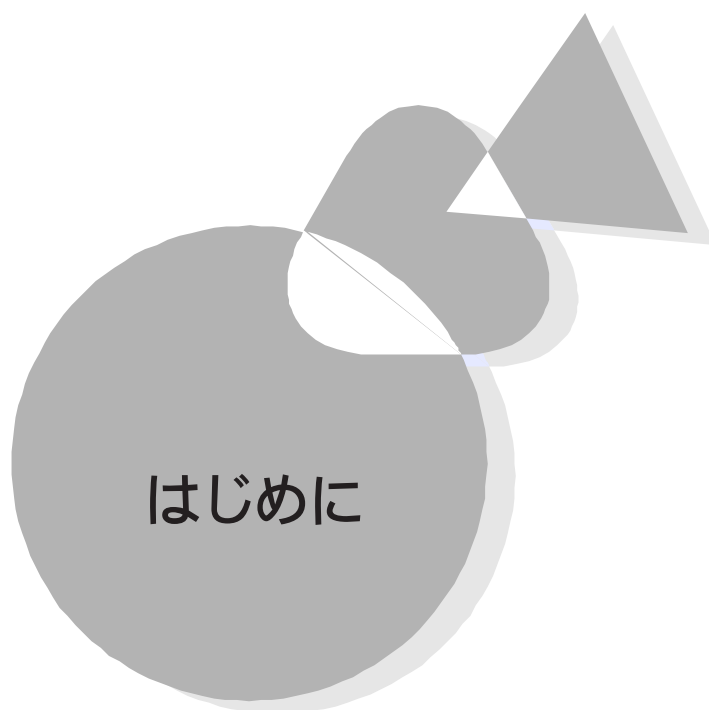
その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

AN061A

808-884762-001-A



はじめに

本機には、さまざまなアプリケーションが添付されており、購入したその日から使いはじめることができるようになっています。

本書では、それらのアプリケーションの紹介と基本的な使い方について説明しています。

さらに、本機添付の「バックアップCD-ROM」、「アプリケーションCD-ROM」または「システムインストールディスク」を使って、Windows 98のシステムと添付アプリケーションを復元する手順を説明しています。

また、他のOSを利用するためのアップグレードや注意事項についても説明しています。

・対象機種

このマニュアルは、PC-9821 Ra43を対象にしています。

2000年 6月 初版

このマニュアルの構成

このマニュアルは次の内容で構成されています。



Part 1 アプリケーションを利用する

マルチメディアCD-ROMを再生するのに便利なソフトや本機を管理・保守したり、ウイルスを発見・除去するソフトなどについて説明しています。



Part 2 便利な機能を利用する

以前からPC-9800シリーズのコンピュータをご利用の方のために、本機を使いこなすのに便利なツールについて説明しています。



Part 3 添付アプリケーションの削除と追加

本機に標準でインストールまたは添付されているアプリケーションの削除方法と追加方法について説明しています。



Part 4

Windows 98と 添付アプリケーションの再セットアップ

Windows 98のシステムと添付アプリケーションの復元方法について、本機添付の「バックアップCD-ROM」1、「システムインストールディスク」を使って、ご購入時の状態に戻す手順を説明しています。また、独自に本機のハードディスク内のシステムやアプリケーションの環境を設定したい方もご覧ください。なお、このマニュアルでは、本機のハードディスクの内容をご購入時の状態に戻すことを「再セットアップする」または「再インストールする」といいます。



Part 5

他のOSを利用する

MS-DOSやWindowsの知識をもっているユーザの方を対象に、Windows 98以外の別売のOSを本機で利用するための必要な知識や注意事項について説明しています。

対象は次のとおりです。

- ・MS-DOS
- ・Windows NT
- ・OS/2
など
- ・Windows 3.1
- ・Windows 2000
- ・NetWare



付録

固定ディスク起動メニューやFAT32ファイルシステムを利用する際の必要事項について説明しています。

ソフトウェアの最新情報のお知らせ

1. 西暦2000年問題について

ご利用になるOSの西暦2000年対応状況は次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

なお、記載されている情報は更新されますので、定期的にアクセスして確認してください。各アプリケーションが2000年問題に対応しているかどうかは、アプリケーションの製造元にお問い合わせください。

2. アップデートサービスについて

製品の最新情報、ソフトウェアのアップデートサービスの情報(ソフトウェアの強化・修正情報、モジュールの入手情報)を、FAXサービス、パソコン通信、インターネットでご案内しております。

- ・ NEC パソコン情報FAXサービス

FAX 東京 : (03) 8769-9821

大阪 : (06) 6644-9821 (2000年5月現在)

- ・ インターネット

98 Information URL <http://www.nec.co.jp/98/>

また、最新のウイルスに対応するために、次のURLより最新のウイルスデータを手入れしてください。なお記載されている情報は更新されますので、定期的にアクセスして確認してください。

VirusScan(エンジン・バージョン4.X用DATファイル)

<http://www.nai.com/japan/>

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合によっては、本機が故障したり、本機で使用しているソフトウェアや、お客様が作成されたデータが壊れたりする可能性もあります。



参考にしていただきたいことを説明しています。



参照ページを表しています。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。

Windows	Windows 98を指します。
Windows NT	別売のWindows NT 4.0を指します。
Windows 2000	別売のWindows 2000 Professionalと別売のWindows 2000 Serverを指します。
MS-DOS	別売のMS-DOS® 全般を指します。 特に必要な場合は、バージョン名を記載します。
MS-DOS モード	Windows 98のMS-DOS プロンプトの状態を指します。
[スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル]	[スタート] ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから [設定] を選択し、横に現れるサブメニューから [コントロールパネル] を選択する操作を指します。
[XXX]	[] で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。例：[OK] ボタン
ESC キー	キーボードのキーは、枠で囲んで表記しています。
『XXX』	『 』 で囲んである文字は、画面に表示されるマニュアルの名称、メッセージなどを表しています。(例：『ステップアップガイド』)

MS-DOSモードで使用できるコマンドのコマンド書式の記号には、次のような意味があります。

< >	この中の項目は、必ず入力します。
[]	この中の項目は、必要に応じて入力します。
	この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

記載されているアプリケーションなどの製品の正式名称は、以下のとおりです。

本文中の表記	正式名称
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System日本語版
Windows 3.1	Microsoft® Windows® Operating System Version 3.1
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system および Microsoft® Windows® 2000 Server

このマニュアルに記載の画面は、実際の画面とは異なる場合があります。

本文中で使われている用語で、わからない用語が出てきた場合は、『ステップアップガイド』の付録の「パソコン用語集」または、『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』、Windows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の「Microsoft® Windows® 98 ファーストステップガイド」の「用語集」をご覧ください。

目次

ご注意	ii
はじめに	iii
このマニュアルの構成	iv
このマニュアルの表記について	vii
目次(このページです).....	ix



Part 1 アプリケーションを利用する

オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する ~ 98プレーヤ	2
CDを再生する	3
オーディオCDを聴く	4
ビデオCD(カラオケCD)を見る	6
オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する	9
フォトCDを見る	10
MPEG動画を再生する	12
NEC Soft MPEG1.0に関する注意事項	13
98Timerを使う	14
コンピュータウイルスに備える ~ VirusScan	19
スキャンワクチンを使ってウイルスを検査する	20
ウイルスを除去する	22
エマージェンシーディスクを作成する	23
大切なデータを保存する ~ Masty Data Backup	25
データのバックアップ	25
バックアップデータのリストア	27
本機のハードウェア、ソフトウェア情報を管理する ~ DMITOOL	29
他のパソコンからのリモートコントロールを受ける ~ pcANYWHERE32 EX	41




Part 2 便利な機能を利用する

英語モードフォントを使用する	46
DOS APインストーラ	48
MS-DOSアプリケーションをインストールして ショートカットを作成する	49
MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する	54
DOS APインストーラの注意事項	55
手作業によるアプリケーションの登録	56
アプリケーションを利用する際の注意	58
海外ゲーム対応ユーティリティ	60



Part 3 添付アプリケーションの削除と追加

アプリケーションを削除する	62
コントロールパネルを使って削除する	63
アンインストール機能を使って削除する	68
アプリケーションを追加する	70



Part 4 Windows 98と添付アプリケーションの再セットアップ

再セットアップする前に	80
再セットアップする手順	84
標準再セットアップ	85
簡単に再セットアップする	85
Windows 98の設定をする	88
カスタム再セットアップ	89
領域を削除する	89
領域を確保する	94
ドライブをフォーマットする	102
システムを再セットアップする	104
Windows 98の設定をする	106



Part5 他のOSを利用する

MS-DOSを利用する	108
MS-DOS 6.2の利用	108
Windows 3.1を利用する	121
Windows 3.1の利用	121
Windows NTを利用する	130
Windows NT 3.51の利用	130
Windows NT 4.0の利用	144
Windows 2000を利用する	153
OS/2を利用する	154
OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、 OS/2 Warp 4-日本語版の利用	154
NetWareを利用する	161
NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用	161
NetWare® 4.1J(ファイルサーバ)の利用	168
IntranetWare/NetWare® 4.11J(ファイルサーバ)の利用	172
NetWare® 3.12J/4.1J(クライアント)の利用	174
その他のソフトウェアを利用する	176
Nss-日本語BASIC(86 J MS-DOS版)Ver6.2の利用	176
MS LANマネージャの利用	177
TCP/IP通信制御ドライバの利用	183
プラグ&プレイサポートソフトウェアの利用	185



付録

固定ディスク起動メニューの利用	188
FAT32ファイルシステムの利用	191
索引	193

アプリケーションを利用する

本機のマルチメディア機能や、管理・保守機能などを利用する手順や注意事項について説明します。

なお、これらのアプリケーション(98Timerを除く)は、工場出荷時には本機にインストールされていません。お使いになる場合は、「Part3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」(P.70)の手順を参照してインストールしてください。

オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する～98プレーヤ

MPEG動画を再生する

98Timerを使う

コンピュータウイルスに備える～VirusScan

大切なデータを保存する～Masty Data Backup

本機のハードウェア、ソフトウェア情報を管理する～DMIT00L

他のパソコンからのリモートコントロールを受ける

～pcANYWHERE32 EX

オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する～98プレーヤ

オーディオCD、ビデオCD(カラオケCD)やフォトCDに対応した再生用のアプリケーションが起動します。



- ・ 98プレーヤは工場出荷時には本機にインストールされていません。98プレーヤのインストール方法については「Part 3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」をご覧ください。
- ・ 98プレーヤでMPEG1のファイルやVideoCDのファイルを再生する場合は、NEC Soft MPEG 1.0が必要です。NEC Soft MPEG 1.0のインストール方法については「Part 3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」をご覧ください。
- ・ [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の「アプリケーションの追加と削除」でCDプレーヤ(または98プレーヤ)を削除または追加すると、音楽CDをセットしても98プレーヤ(またはCDプレーヤ)は自動起動しません。音楽CDをセットして98プレーヤ(またはCDプレーヤ)を自動起動させる場合は、CDプレーヤ、98プレーヤの順でCDプレーヤを追加してください。



98プレーヤ終了後、再度起動させるときは、[スタート]ボタン [プログラム] [アクセサリ] [エンターテイメント] [98プレーヤ(CDプレーヤ)]をクリックします。

CDの規格

98プレーヤが対応しているCDの規格は次のとおりです。規格外のCDは再生できない場合があります。

- ・ オーディオCD
- ・ ビデオCD(Ver1.1)/カラオケCD(Ver1.1)
- ・ ビデオCD(Ver2.0)
- ・ フォトCD
- ・ フォトCDポートフォリオ



CDを再生する.....

オーディオCDの場合、CDをCD-ROMドライブにセットすると、自動的に98プレーヤが起動し、次のような画面が表示されます。自動的に起動しない場合およびビデオCD(カラオケCD)、フォトCDの場合は、CDをCD-ROMドライブにセットして、[スタート]ボタン [プログラム] [アクセサリ] [エンターテイメント] [98プレーヤ(CDプレーヤ)]をクリックすると98プレーヤが起動します。

オーディオCDの場合

総トラック数と総演奏時間が表示されています。
ボタンの操作方法については、後述する「オーディオCDを聴く」をご覧ください。



ビデオCD(カラオケCD)の場合

総トラック数が表示されます。
ボタンの操作方法については、後述の「ビデオCD(カラオケCD)を見る」をご覧ください。



プレイバックコントロール機能付きのビデオCDの場合は、プレイバックコントロールウィンドウも表示されます。詳しくは、「ビデオCD(カラオケCD)を見る」をご覧ください。

フォトCDの場合

1枚目の写真が表示されます。
ボタンの操作方法については、「フォトCDを見る」をご覧ください。






オーディオCDを聴く.....

オーディオCD再生時のボタン操作について説明します。
[Option] をクリックすると、98プレーヤの下に、拡張ボタンが表示されます。



基本的な使い方

- ・ 再生 / 一時停止
 - [▶] ボタン ・ クリックすると、再生が始まります([||] に変わる)
 - [||] ボタン ・ クリックすると、一時停止します([▶] に変わる)
再度 [▶] をクリックすると、一時停止した場所から再生します。
-  オーディオCDを再生中に、[スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] [マルチメディア] の [音楽CD] タブで、音楽CDの音量 を変更した場合、その変更が有効になるのは、次回の起動時からです。
- ・ 停止
 - [■] ボタン ・ クリックすると再生を停止、または一時停止状態を解除します。
-  [■] ボタンで停止させた後 [▶] をクリックすると先頭の曲に戻って再生を始めます。
- ・ 巻き戻し / 早送り
 - [◀◀] ボタン ・ 再生中、または一時停止中にクリックし続けると巻き戻し、ボタンを離すと再生します。
 - [▶▶] ボタン ・ 再生中、または一時停止中にクリックし続けると早送り、ボタンを離すと再生します。
-  画面の時間表示が変化します。ボタンを離すとそのとき表示されている時間から再生を開始します。



- ・ 曲の頭出し
[◀] ボタン
 - ・ 再生中、または一時停止中にクリックすると、再生中の曲の先頭に戻って再生します。
 - ・ 再生中、または一時停止中に連続してクリックすると、一曲ずつ再生する曲番号が戻ります。
 - ・ 停止中に連続してクリックすると、クリックした数だけ戻って再生します。
- ・ [▶] ボタン
 - ・ 再生中、または一時停止中にクリックすると、再生中の次の曲から再生します。
 - ・ 再生中、または一時停止中に連続してクリックすると、一曲ずつ曲番号が先に進んで再生します。
- ・ CD-ROMトレイのイジェクト
[▲] ボタン
 - ・ 停止中にクリックするとトレイがイジェクトされます。






- ・ 別売のCD-ROMドライブを使用する場合、イジェクト機能はご利用できない場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにCD-ROMをセットしていない状態では、[▲] ボタンをクリックしてもCD-ROMドライブのトレイは出てきません。トレイを出すには、CD-ROMドライブのディスクトレイイジェクトボタンを押すか、[マイコンピュータ] をダブルクリックして起動し、お使いのCD-ROMドライブを右クリックして [取り出し] をクリックしてください。

- ・ 98プレーヤーの終了
[X] をクリックすると、98プレーヤーを終了します。

[Option] ボタンの使い方

- ・ リpeat [↺] ボタン
クリックするたびに、リpeat再生モードが1曲のみ、全曲へと切り替わり、インジケータが表示されます。
- ・ 演奏時間表示切り替え [⌚] ボタン
クリックするたびに、表示ディスプレイ部分の時間表示が、現在のトラック内の演奏経過時間が残り演奏時間に切り替わります。
- ・ [Program] ボタン
再生順序を指定できます。詳しくは、「オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する」をご覧ください。
- ・ ミューt [⏸] ボタン
左右の音声出力を同時にOFFします。音声出力が左右ともOFFの場合に、このボタンをクリックすると、左右同時にONになります。
ただし、CDの再生中は使用できません。

- ・ 音声チャンネル[] ボタン
[] ボタンは、左チャンネル、[] ボタンは右チャンネルの音声出力のON/OFFを切り替えます。
ただし、CD再生中は使用できません。
- ・ [状態設定] ボタン
[自動再生] チェックボックスを選択すると、98プレーヤの起動時に自動的に再生が始まります。



[元の画像サイズで表示] ボタンと [カラオケ一覧表示] ボタンは利用できません。

ビデオCD(カラオケCD)を見る.....

ビデオCD再生時のボタン操作について説明します。
[Option] をクリックすると、98プレーヤの下に、拡張ボタンが表示されます。



基本的な使い方

基本的な操作は、オーディオCDとほとんど同じです。
前述の「オーディオCDを聴く」の「基本的な使い方」をご覧ください。



- ・ ビデオCDの再生中にウィンドウサイズをひんぱんに変更すると、ビデオの表示が乱れることがあります。このようなときは、98プレーヤをいったん終了させて再起動すると、表示が正常に戻ります。
- ・ プレイバックコントロール機能に対応したビデオCDの再生時には、頭出し機能は利用できません。



[Option] ボタンの使い方

- ・ リpeatのボタン
クリックするたびに、リpeat再生モードが1プログラムのみから全プログラムへと交互に切り替わり、インジケータが表示されます。
- ・ [Program] ボタン
再生順序を指定できます。詳しくは、「オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する」をご覧ください。
- ・ ミューtのボタン
左右の音声出力を同時にOFFします。音声出力が左右ともOFFの場合に、このボタンをクリックすると、左右同時にONになります。
- ・ 音声チャンネルのボタン
[] ボタンは、左チャンネル、[] ボタンは右チャンネルの音声出力のON/OFFを切り替えます。



カラオケCDでは、カラオケ演奏とボーカル音声は、左右どちらかのチャンネルに分かれて録音されています。ボーカル音声を消すときは、左右どちらか、ボーカル音声録音されているチャンネルの音声を消す必要があります。左右どちらかの音声を消すときは、[] または [] をクリックします。また、[] をクリックすると、両方の音声を消すことができます。

- ・ [元の画像サイズで表示] ボタン
ビデオCDの再生時に、ウィンドウのサイズを起動時のサイズに戻します。
- ・ [カラオケ一覧表示] ボタン
カラオケCDの曲目が一覧表示されます。再生した曲目をクリックし、さらに [演奏] ボタンをクリックすると、すぐに再生が始まります。
- ・ [状態設定] ボタン
[自動再生] チェックボックスを選択すると、98プレーヤの起動時に自動的に再生が始まります。
[画像再生時にスクリーンセーバを起動しない] チェックボックスを選択すると、ビデオCDの再生時にスクリーンセーバを起動させないようにします。












- ・ [演奏時間表示切り替え] ボタンは、利用できません。
- ・ プレイバックコントロール機能を用いて独自のメニュー表示を行っているカラオケCDでは、[カラオケ一覧表示] ボタン、[リpeat] ボタン、および [Program] ボタンは利用できません。

プレイバックコントロールの使い方

プレイバックコントロール機能付きのビデオCDの再生時には、98プレーヤとともにプレイバックコントロールウィンドウが表示されます。



-  ボタン
画面を表示します。
-  ボタン
前画面に戻ります。
-  ボタン
次画面に進みます。
-  ボタン
メニュー画面に戻ります。
-  ボタン
数値を選択するときに使います。
 の数字ボタンで番号を決定して  ボタンをクリックすると、画面を表示します。
-  ボタン
プレイバックコントロールウィンドウをアイコン化します。
-  **00**
番号表示部分をクリックすると、数字ボタンで選択された番号をキャンセルします。



各ボタンの機能は、CD-ROMにより多少異なっていますので、CD-ROM添付の説明書を参照してください。

ビデオCD(カラオケCD)を再生する場合のご注意

本機には、ビデオCDなどの動画データを再生するためのソフトウェアが標準添付されていますが、98プレーヤやメディアプレーヤなどで動画データを再生中に、他のソフトウェアを実行させることなどにより、音飛びや画面の乱れが発生する場合があります。



オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する.....

- 1** 98プレーヤの [Option] ボタンをクリック
98プレーヤの下に拡張ボタンが表示されます。
- 2** [Program] ボタンをクリック
[プログラム予約] ダイアログボックスが表示されます。



- ・ プログラムの再生中と一時停止中は、[Program] ボタンは使用できません。
- ・ プレイバックコントロール機能に対応したビデオCDでは利用できません。

- 3** [トラック]の一覧に表示されているプログラムのどれかをクリックし、[追加] ボタンをクリック
[予約された曲]へ、選択したプログラムが登録されます。



予約済みのプログラムを解除するときは、[予約された曲]の一覧から解除したい曲を選択し、[削除] ボタンをクリックします。また、すべての予約を解除するときは、[全削除] ボタンをクリックします。

- 4** [OK] ボタンをクリック
予約内容を設定しない場合は [Cancel] ボタンをクリックします。
- 5** 98プレーヤの [▶] ボタンをクリック
登録した順序で再生を始めます。

フォトCDを見る.....

フォトCD再生時のボタン操作について説明します。
[Option] をクリックすると、98プレーヤの下に拡張ボタンが表示されます。



基本的な使い方

- ・ 自動表示 / 停止
[▶] ボタン クリックすると、自動表示を行います。
[■] ボタン クリックすると、自動表示を停止します。
- ・ 表示
[◀◀] ボタン クリックすると、巻き戻します(ポートフォリオの再生時のみ)。
[▶▶] ボタン クリックすると、早送りします(ポートフォリオの再生時のみ)。
[◀] ボタン クリックすると、1つ前の写真に戻ります。
[▶] ボタン クリックすると、次の写真を表示します。
- ・ CD-ROMトレイのイジェクト
[▲] ボタン 停止中にクリックすると、トレイがイジェクトされます。



別売のCD-ROMドライブを使用する場合、イジェクト機能はご利用できない場合があります。

- ・ 98プレーヤの終了
[X] をクリックすると、98プレーヤを終了します。

[Option] ボタンの使い方

- ・ [Open] ボタン
フォトCDに記録されている写真のファイル名一覧を表示します。表示したいフォトCDのファイル名を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
- ・ [List] ボタン
フォトCDに記録されている写真を縮小一覧表示します。写真をクリックすると、拡大表示します。



- [Size]ボタン
クリックすると[PhotoCD画面サイズの設定]ダイアログボックスが表示されます。画面サイズを指定できます。
- [Color]ボタン
クリックすると[表示色数の設定]ダイアログボックスが表示されます。表示色数を指定できます。
- [Copy]ボタン
クリックすると、表示されている写真をクリップボードビューアへコピーします。



[Copy]ボタンをクリックするたびに、新しい写真データがクリップボードに上書きされ、前にコピーしたデータは消えてしまいます。コピーしたデータは次のコピーを行う前に必ず保存してください。

- [Save]ボタン
クリックすると[ファイル名を指定する]ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を指定して、写真をビットマップ形式のファイル(.BMP)として保存できます。
- [Extension]ボタン
JPEGに関する各種設定を行います。詳しくは[Help]ボタンをクリックして、オンラインヘルプをご覧ください。



フォトCDポートフォリオを再生している場合、[Open]ボタン、[List]ボタンの機能は利用できません。

フォトCDポートフォリオのCDで、[Open]ボタン、[List]ボタンの機能を利用するときには[Extension]ボタンを選び、ダイアログボックス中の [PhotoCDポートフォリオのときはポートフォリオモードで再生]チェックボックスをOFFにして、通常の98プレーヤとして利用してください。

MPEG動画を再生する

MPEG動画を再生するには、以下の方法があります。

- ・ エクスプローラを利用する
- ・ メディアプレーヤーを利用する

それぞれの手順について説明します。



NEC Soft MPEG 1.0は、工場出荷時には本機にインストールされていません。NEC Soft MPEG 1.0のインストール方法については、「Part 3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」をご覧ください。



MPEGでも形式によっては再生できないものもあります。

エクスプローラを利用する

- 1** [スタート]ボタン [プログラム] [エクスプローラ] をクリック
エクスプローラが起動します。
- 2** 拡張子が ".mpg" のファイルをダブルクリック
MPEG 動画が再生されます。

メディアプレーヤーを利用する

メディアプレーヤーを利用すると、音声データ、MIDIによる音楽データ、CDオーディオ、AVI 動画データ、MPEG 動画データなどを再生できます。メディアプレーヤーを利用するには、再生機器に対応したデバイス ドライバの組み込みが必要な場合があります。詳しくは、再生機器に添付されているマニュアルをご覧ください

- 1** [スタート]ボタン [プログラム] [アクセサリ] [エンターテイメント] [メディアプレーヤー] をクリック
メディアプレーヤーが起動します。
- 2** [デバイス]メニューから「NEC Soft MPEG 1.0」をクリック
- 3** [ファイルを開く]ダイアログボックスで再生したいMPEGファイルを選択し、[開く]ボタンをクリック
- 4** 再生ボタンをクリック
再生が始まります。



MPEGファイルとしては拡張子が“.mpg”のものほかにビデオCD内の拡張子が“.dat”のものを再生することができます。



メディアプレーヤーで動画を再生中にウインドウの大きさを変えたりすると、画面が乱れる場合があります。この場合は、ウインドウサイズを元の大きさに戻してください。

NEC Soft MPEG1.0に関する注意事項.....

- ・ビデオのみのデータあるいはビデオCDの静止画を含むデータは、現在の再生位置を示すスクロールバーの位置と実際の再生位置は必ずしも一致しません。
- ・メディアプレーヤーのスクロールバーの右側にある小さなボタンは、インジケータがフレームのときのみ、こま送りとなります(順方向ボタン)。逆再生方向のボタンは戻る場合と戻らない場合があります。
- ・画質優先モードで再生時、画像サイズを変更すると再生が遅くなる場合があります。
- ・メディアプレーヤー、98プレーヤーでプルダウンメニューを表示すると再生が停止します。再生中にキーボードから[GRPH]キーを押したときも同様に停止します。

98Timerを使う

98Timerを使うと、指定した時間、および電話/FAX受信時に本機の電源をON/OFFしたり、アプリケーションを起動したりできます。

98Timerは、ご購入時にすでにインストールされていますので、すぐにご利用になれます。

98Timerの使い方

[スタート]ボタン [プログラム] [98Timer] をクリック

[98Timer] 画面が表示されます。



- ・ 98Timerを使用するときは、表示される日付と時刻が正しいことを確認してください。日付と時刻が正しくないときは[コントロールパネル]の[日付と時刻] を起動して日付と時刻を設定し直してください。
- ・ 指定した実行ファイルが、実行ファイルのあるフォルダ以外の他のフォルダにあるファイルを利用する場合は、正しく起動できない場合があります。

自動電源ONタイマーの設定を行う

自動電源ONタイマーでは、本機の自動電源ON時刻の設定/解除と、そのときに起動するアプリケーションや終了時間を指定できます。

1 [スタート]ボタン [プログラム] [98Timer] をクリック

2 [98Timer] 画面で、自動的に電源をONにしたい曜日ををクリック

3 自動的に電源をONにしたい時刻を設定する

[98Timer] 画面に表示されている数字の上を左クリックすると時刻表示が1ずつ大きくなり、右クリックすると1ずつ小さくなります。表示時間は24時間モードです。

- 4** 電源ON時に起動したいアプリケーションを指定するので、[実行ファイル] ボタンをクリック
 ファイルを指定する画面が表示されますので、起動したいファイルを指定してください。

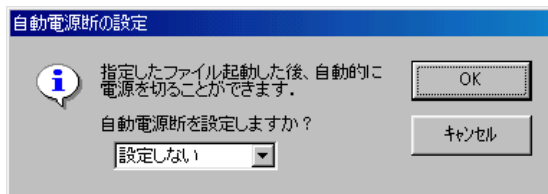


[任意指定] でプログラムファイル以外のマルチメディアファイルなどを選択することもできます。その場合は、関連付けるプログラムの設定を行ってください。関連付けるプログラムが設定されていないと、電源ON時に、エラーが発生します。関連付けるプログラムの設定については、Windowsのヘルプをご覧ください。

- 5** 曜日、時刻などを設定したら、タイマーセットボタンをクリック
 ボタン上のアイコンが黄色く表示され、タイマーが設定されます。
 もう一度ボタンをクリックするとボタンの色がもとに戻りタイマーが解除されます。

一度タイマーを設定すると、もう一度タイマーを解除しない限り、毎回設定された曜日の同じ時刻に電源がONになります。

- 6** 自動的に電源をONにした後、自動的に電源をOFFにしたい場合は、終了時間設定ボタンをマウスでクリック
 次の画面が表示されます。

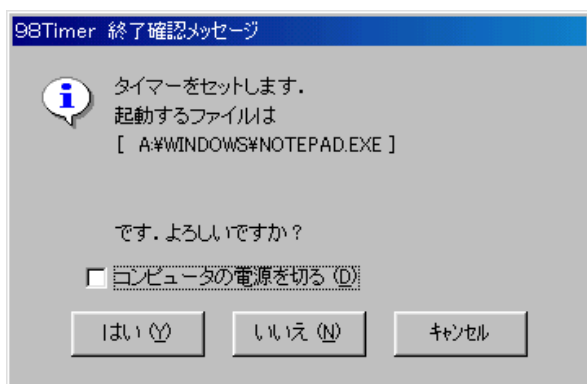


10分間隔で終了時間を設定します。自動的に電源をONにした後、設定した時間が経過すると電源をOFFにします。



通信が終了しても通信ポートを使用し続けるアプリケーション(例えば、着信指定されたFAXソフト等)を使用する場合、[通信ポートを監視する] を設定すると、いつまでも電源がOFFされません。そのようなアプリケーションを使用する場合には、[通信ポートを監視する] を設定しないようにしてください。

- 7** 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリック
[終了確認メッセージ] 画面が表示されます。



- 8**
- ・ 98Timerを終了した後もコンピュータを使う場合は、[コンピュータの電源を切る]のチェックをしていない状態で、[はい] ボタンをクリック
タイマーがセットされ、98Timer が終了します。
 - ・ 98Timerを終了した後ですぐに電源をOFFにする場合は、[コンピュータの電源を切る]をチェックして [はい] ボタンをクリック
 - ・ [いいえ] ボタンをクリックすると、タイマーをセットせずに98Timerを終了します。
 - ・ [キャンセル] ボタンをクリックすると、タイマー設定の画面に戻ります。



- ・ [コンピュータの電源を切る] を設定している場合、電源がOFFにならず、メッセージが表示される場合があります。その場合はメッセージに従って処理を終了させ、Windowsを終了させてください。
- ・ パワーオンパスワードを忘れると、本機を使用できなくなります。設定したパスワードを忘れないように注意してください。パスワードを書き留め、安全な場所に保管することをお勧めします。また、セキュリティの面からも、自分の名前など、他の人から推測できるようなパスワードを設定しないようにしてください。
パスワードを忘れてしまった場合は、『ステップアップガイド』の「Part1 本機の基礎知識」の「セキュリティ機能」をご覧ください。パスワードを解除してください。

自動電源ONリングの設定を行う

自動電源ONリングでは、電話/FAX受信時の自動電源ONの設定/解除と、そのときに起動するアプリケーションや終了時間を指定できます。



- ・ 98Timerでは、モデム着信時に電源ONした後、一定時間で自動で電源をOFFにする設定を行うことができますが、通信中に電源をOFFにしないように電源をOFFにするまでの時間は十分に長く設定してください。
- ・ この機能を利用するには別売りのボード(PC-9801-123、PC-9801-125、PC-9801-127又はその他リングに対応したボード)が必要です。

・ リングの設定

98Timerを起動して、リングセットボタンをクリックするとボタンが黄色く表示され、リングが設定されます。

もう一度ボタンをクリックするとボタンの色がもとに戻りリングが解除されます。

起動アプリケーションの指定、98Timerの終了、終了時間の設定は自動電源ONタイマーと同じように行います。「自動電源ONタイマーの設定を行う」の手順4および手順6以降の手順で設定してください。

自動電源ON タイマーを設定するときの注意

- ・ タイマー設定を行っても、以下の場合はタイマーによる自動電源ONは起こりません。再度、98Timerを使用してタイマー設定を行ってください。ただし、もう一度電源をONにすれば、タイマーは再設定されます。
- ・ タイマー設定をした後も継続して本機を使用し、設定した時刻より先後で電源をOFFにした場合
- ・ タイマー設定を行い電源をOFFにしても、タイマー設定をした時刻より先前に電源スイッチで電源をONにし、そのままタイマー設定をした時刻を過ぎてしまった場合
- ・ 本体の電源ケーブルがACコンセントに接続されていないときや停電時はタイマーによる自動電源ONは起こりません。
- ・ ハードディスクを複数のドライブに区切って使用し、固定ディスク起動メニューを自動起動に設定していない場合は、自動電源ONは起こりません。

自動起動に設定するには、

[TAB]キーを押しながら、本機の電源スイッチを押す

固定ディスク起動メニュープログラムで、Windowsディレクトリのあるドライブを選択して**[F1]**キーを押し、自動起動に設定する

- ・ パワーオンパスワードを設定している場合は、自動電源ONは起こりません。
- ・ Windowsパスワードを設定している場合は、自動電源ONは起こりません。

自動電源OFFタイマーの設定を行う

自動電源OFFタイマーを使うと、指定した時間に本機の電源をOFFにすることができます。

自動電源OFFタイマーの使い方

- 1** [スタート]ボタン [プログラム] [98Timer] をクリックし、[オフタイマー] ボタンをクリック
OffTimer画面が表示されます。
- 2** 画面の数字上をマウスでクリックして、時刻設定を行う
数字上を左クリックすると時刻表示が1ずつ大きくなり、右クリックすると1ずつ小さくなります。表示時間は24時間モードです。
- 3** [OK] [キャンセル] の各ボタンを左クリックして、98Timerの設定/解除を行う
[OK] : タイマーの設定を行います。
このボタンを選択した時点で電源OFFのタイマーがセットされます。
[キャンセル] : タイマーの解除を行います。



- ・ 自動電源OFFが行われた場合、電源がOFFにならず、メッセージが表示される場合があります。その場合はメッセージに従って操作し、Windowsを終了させてください。
-

自動電源OFFタイマーを設定するときの注意

- ・ タイマー設定を行っても、以下の場合は、タイマーによる自動電源OFFは起こりません。
 - ・ 無条件に終了できないアプリケーションが起動されていた場合
 - ・ OffTimerを終了させてしまったりWindowsを終了させてしまった場合

コンピュータウイルスに備える ～VirusScan

コンピュータを使用した日常業務で、フロッピーディスクや光ディスクを使用したデータの受け渡しや、ネットワークを通じてデータのやりとりを繰り返していると、コンピュータウイルスに感染したデータを受け取る危険性があります。コンピュータウイルスの感染に備えて、VirusScanを使ってウイルスの検査が行えます。



・ VirusScanは、工場出荷時には本機にインストールされていません。VirusScanのインストール方法については、「Part 3 添付アプリケーションの削除と追加」アプリケーションを追加するをご覧ください。

・ 本機に添付されているVirusScanでは、新種のウイルスを検出できない場合があります。

新種ウイルスに対応するため、ウイルスデータファイルを更新する必要があります。

ウイルスデータファイルは「DATファイル」という名称でネットワークアソシエイツ社のホームページに掲載されています。DATファイルは毎週最新のものにアップデートされています。下記のホームページで最新版のDATファイルを入手することができます。

<http://www.nai.com/japan/>

また、インターネットに接続できる場合(プロバイダに入会済みの場合)は、「VirusScanセントラル」で「アップデート」ボタンをクリックすることにより最新版のDATファイルをダウンロードすることができます。アップデート時に「インターネットアクセス可能ですか?」と表示されたら、「はい」を選択してください。「いいえ」を選択すると、日本国外に電話をかける画面が表示されますので十分にご注意ください。なお、アップデートを中止する場合は「キャンセル」ボタンまたは「OK」ボタンをクリックしてください。

・ 新種のウイルスの一部にはVirusScanそのものを最新版にバージョンアップしないと発見できないものがあります。本機に添付されているVirusScanは最新版へのバージョンアップはできません。別売のVirusScanをご購入ください。

別売のVirusScanはBIGLOBEにてオンライン販売も行っております。

スキャンワクチンを使ってウイルスを検査する...

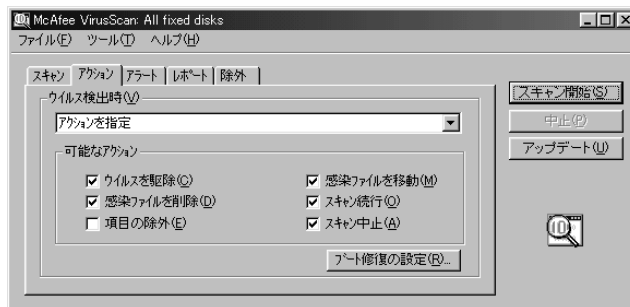
ウイルスの検査

ウイルススキャンを起動して、本機に接続されているディスク内のウイルスを検査します。

- 1 [スタート ボタン] [プログラム] [McAfee VirusScan] [McAfee VirusScan セントラル] をクリック
- 2 ウイルススキャンの起動画面が表示されたら、[スキャン] ボタンをクリック
「ウイルススキャン」の画面が表示されます。



- 3 検査の対象となる範囲を [編集] ボタンをクリックして設定し、[OK] ボタンをクリック
[アクション] タブをクリックすると、[アクション] タブのウィンドウが表示されます。



- 4 [▼] をクリックすると「ウイルス検出時」の一覧が表示されるので、一覧から、アクションをクリック



5 [ブート修復の設定] ボタンをクリックして、修復方法をクリック
ブート修復の設定ダイアログでは、あらかじめブートを修復するOSの種別を指定します。選択項目は次の4項目です。

- ・「ウイルス発見時に指定する」
ブートウイルスを検出したときに、「修復するディスクの選択」ウィンドウを表示して、ブートの修復を行います。
 - ・「MS-DOS」
MS-DOSのディスクとしてブートを修復します。この設定は不要です。
 - ・「IBM-DOS」
IBM PC-DOSのディスクとしてブートを修復します。この設定は不要です。
 - ・「NEC PC-98」
NEC PC-9800のディスクとしてブートを修復します。
- 選択項目を指定したら、[OK] ボタンをクリックします。

6 [レポート] タブをクリック
[レポート] タブのウィンドウが表示されます。



ここでは次の設定を行います。

- ・「ファイルのログ」
用意されたテキストボックス内にログファイル名を入力するか、[参照] ボタンをクリックして任意のファイルを指定します。
入力できない場合は、チェックボタンをクリックして にしてください。
- ・[ログファイルのサイズを制限]
用意されたフィールド内に、10K から999Kまでの数値を入力します。
ただし、制限値を越える場合があります。
- ・[ログ項目]
ファイルのログの詳細設定です。指定したい項目のチェックボタンをクリックして にしてください。

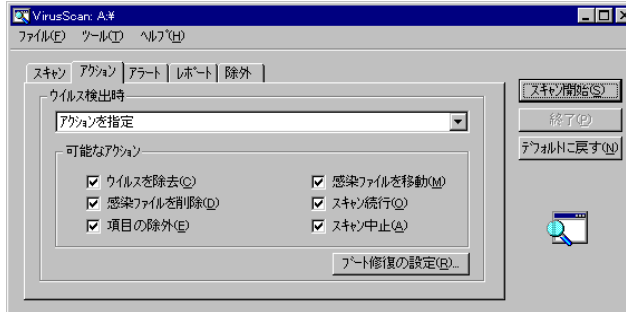
7 [スキャン開始] をクリック
スキャンが始まります。

ウイルスを除去する

検出されたウイルスを除去するには、自動的に行う方法と、手動で行う方法があります。

自動的にウイルスを除去する

- 1 「VirusScan」の初期画面で、[アクション] タブをクリック
[アクション] タブのウィンドウが表示されます。



- 2 「ウイルス検出時」の一覧から「感染しているファイルからウイルスを除去」を選択する
感染ファイルを削除するには、「感染しているファイルの削除」を選択します。

- 3 [スキャン開始] をクリック
ウイルスが検出されると、自動的に除去されます。

手動でウイルスを除去する

- 1 「VirusScan」の初期画面で、[アクション] タブをクリック
[アクション] タブのウィンドウが表示されます。



- 2 「ウイルス検出時」の一覧から「アクションの指定」を選択する

- 3 [スキャン開始] をクリック
ウイルスが検出されると、[ウイルスが見つかりました] ウィンドウが表示されます。



4 「ウイルスを除去する」を選択する

以上でウイルスの除去は終了です。



ウイルスの検査には、この他に「常にファイルのアクセスを監視」したり、「あらかじめ設定した時間にウイルスが感染していないか検査」することができます。詳しくは、VirusScanのヘルプをご覧ください。

エマージェンシーディスクを作成する

エマージェンシーディスクはハードディスクのシステムファイルが未知のウイルスに感染した場合に、システムを安全に起動することができます。

以下の手順でエマージェンシーディスクを作成してください。



エマージェンシーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクが2枚必要です。

- 1 [スタート ボタン] [プログラム] [McAfee VirusScan] [McAfee VirusScan セントラル] をクリック
VirusScanの起動画面が表示されます。
- 2 [ツール ボタン]をクリックし、ツールメニューから[エマージェンシーディスク] ボタンをクリック
- 3 [エマージェンシーディスクウイザード] の画面が表示されたら[次へ] ボタンをクリック
- 4 「エマージェンシーディスク#1を作成します。」と表示されたら、[フォーマットしない] のチェックが外れていることを確認し、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れて、[次へ] ボタンをクリック
- 5 [フォーマットダイアログ] の画面が表示されたら、[フォーマットの種類] [通常のフォーマット] [オプション] [システムファイルのコピー] にチェックを付け、開始ボタンをクリック
フォーマット結果の画面が表示された場合は、[閉じる] ボタンをクリック
- 6 [フォーマットダイアログ] が表示されたら[閉じる] ボタンをクリック
エマージェンシーディスク#1の作成が始まります。
- 7 「エマージェンシーディスク#2を作成します。」と表示されたら、[フォーマットしない] のチェックが外れていることを確認し、フロッピーディスクドライブに2枚目のフロッピーディスクを入れて、[次へ] ボタンをクリック

- 8** [フォーマットダイアログ]の画面が表示されたら、[フォーマットの種類]に[通常のフォーマット]にチェックを付け、開始ボタンをクリック
フォーマット結果の画面が表示された場合は、[閉じる]ボタンをクリック
- 9** [フォーマットダイアログ]が表示されたら[閉じる]ボタンをクリック
エマージェンシーディスク#2の作成が始まります。
- 10** 「エマージェンシーディスクが作成されました」と表示されたら[完了]ボタンをクリック

大切なデータを保存する ～Masty Data Backup

Masty Data Backup(マスティデータバックアップ)は、Windows98対応の高機能バックアップツールです。

ハードディスクが突然クラッシュした時の損害は計り知れないものがあります。そのため、データのバックアップは不可欠です。Masty Data Backupは、このような万が一の事態にもデータを保全し、お客様の損害を最小限におさえるツールです。

Masty Data Backupには、次のような特徴があります。

- ・ OSがサポートしている装置(MO、PD、HDおよびTAPEなど)にバックアップできます。
- ・ 日付/曜日/時間を指定すれば、好きな時に自動実行するスケジューリングができます。
- ・ データの圧縮を行いながらバックアップができます。
- ・ 複数枚の媒体に分けてバックアップができます。
- ・ 世代管理ができます。



- ・ Masty Data Backupは、工場出荷時の状態ではインストールされていません。Masty Data Backupのインストールについては「Part 3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」をご覧ください。
- ・ 本機ではS.M.A.R.T機能を利用したバックアップはできません。

データのバックアップ

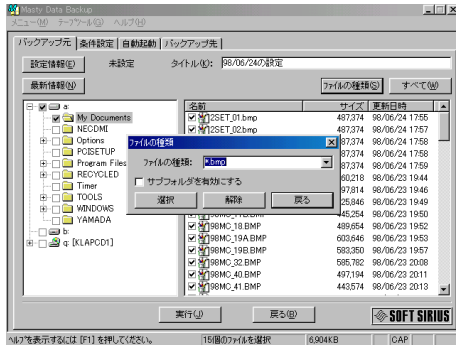
バックアップを行う場合、以下の手順で行います。

- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [Masty Data Backup 1.0] [Masty Data Backup 1.0] をクリック
以下の画面が表示されます。バックアップを行う場合バックアップボタンをクリックします。

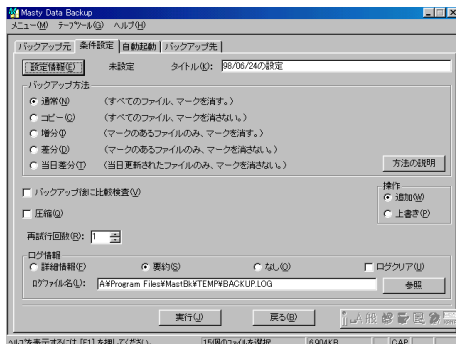


バックアップボタンをクリック

- 2** [バックアップ元] タブをクリックし、バックアップするファイルをクリック
 バックアップ元の選択は、ドライブ、フォルダ、ファイル単位に加え、拡張子による選択ができます。



- 3** [条件設定] タブをクリックし、バックアップ方法の指定を行う
 バックアップ方法は、通常、コピー、増分、差分、当日差分と5つのパターンを指定することができます。また、データを圧縮してバックアップすることができます。

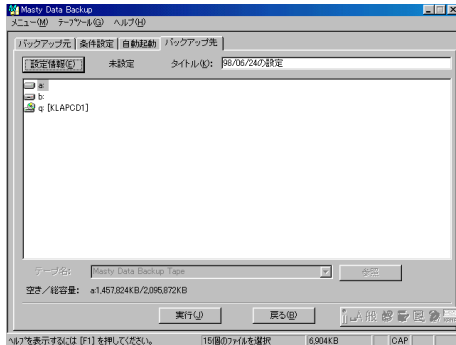


- 4** [自動起動] タブをクリックし、バックアップのスケジュールリングの設定を行う
 本バックアップツールでは、日付/曜日/時間/S.M.A.R.T機能の指定により自動実行するスケジュールリングが可能です。





- 5** [バックアップ先]タブをクリックし、バックアップ先のドライブの指定を行う
バックアップはOSがサポートしている装置(MO、PD、HDなど)に可能です。
バックアップのメディアは未フォーマットのままでは、バックアップできません。あ
らかじめフォーマットをしておいてください。



- 6** バックアップの設定は以上で完了です。直ちにバックアップを実行する場合は、
[実行]ボタンをクリックしてください。
スケジュールングでバックアップを自動実行する場合は、[設定情報]ボタンをクリ
ックし、今までの手順で設定した内容を保存します。スケジュールングは5通りの設
定が可能です。

バックアップデータのリストア

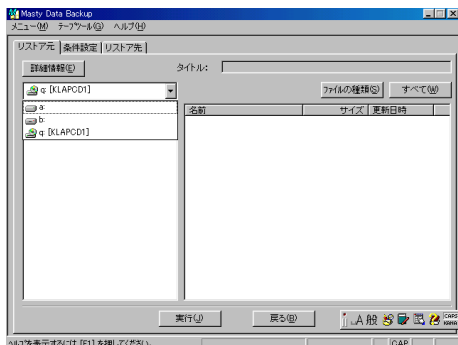
バックアップしたファイルのリストアを行う場合、以下の手順で行います。

- 1** [スタート]ボタン [プログラム] [Masty Data Backup 1.0] [Masty Data Backup 1.0] をクリック
以下の画面が表示されます。リストアを行う場合、リストアボタンをクリックします。

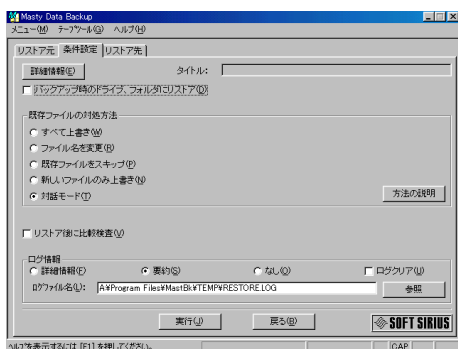


リストアボタンをクリック

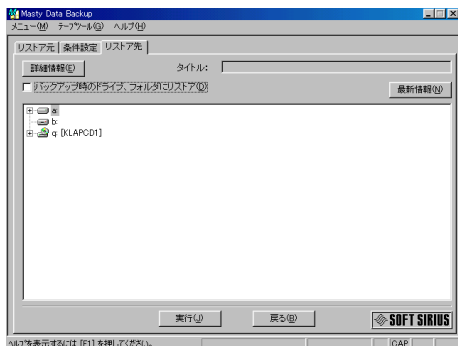
2 [リストア元] タブをクリックし、データのバックアップを行ったドライブまたはフォルダを指定する



3 [条件設定] タブをクリックし、ログファイルの設定等リストア時の設定をする



4 [リストア先] タブをクリックし、リストア先のドライブ、フォルダを指定する



5 [実行] ボタンをクリック リストアが開始されます。

Masty Data Backup 1.0の詳細な使い方については、オンラインヘルプを参照してください。

本機のハードウェア、ソフトウェア情報を管理する～DMIT00L

DMIT00Lは、パーソナルコンピュータや接続されているハードウェア情報およびインストールされているソフトウェア情報を管理するものです。管理方法として、標準化団体DMTF(Desktop Management Task Force)が規定したDMI(Desktop Management Interface)を採用しております。

DMIT00Lは、以下の5つの機能により構成されます。

- ・ システムビューア
- ・ 状態監視
- ・ MIFブラウザ
- ・ リモート電源制御
- ・ WWW Extension

操作方法・表示画面の詳細については添付のオンラインヘルプ、およびご使用前に「Readme.txt」をご覧ください。



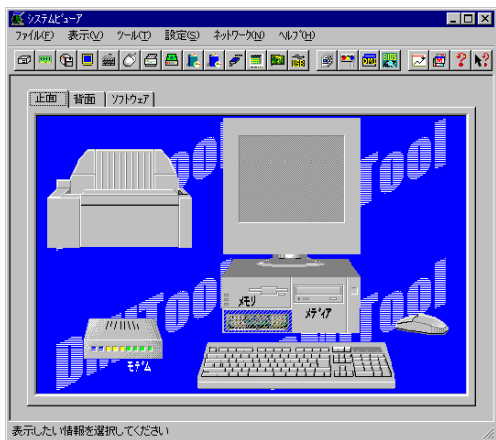
- ・ DMIT00Lは、工場出荷時には本機にインストールされていません。DMIT00Lのインストール方法については「Part 3 添付アプリケーションの削除と追加」アプリケーションを追加する」をご覧ください。
- ・ DMIT00Lをインストールすると、ハードディスクの省電力機能が働かなくなることがあります。

システムビューア

システムビューアは、パーソナルコンピュータや周辺機器についての情報を提供します。

システムビューアの起動

[スタート ボタン] [プログラム] [Dmtool] [システムビューア] をクリック
システムビューア画面が表示されます。



DMIT00Lのアプリケーションは、98Timerから起動することはできません。

基本的な使い方

- ・ パーソナルコンピュータや周辺機器の情報が知りたい

画面上の [正面] タブまたは [背面] タブをクリック

画面の中で示される領域をクリックすることで各部の情報や現在の状態を表示します。

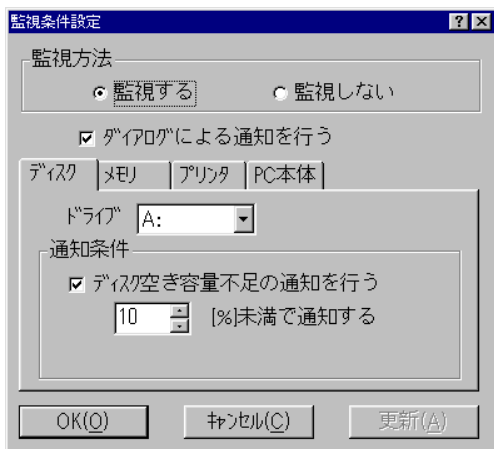
- ・ インストールされているソフトウェアの情報が知りたい

画面上の [ソフトウェア] タブをクリック

画面の中で示される領域をクリックすることでインストールされているソフトウェアの情報を表示します。

・HDDの空き容量を監視したい

[設定]メニュー [監視条件設定]コマンドをクリック
[監視条件設定]画面が表示されます。



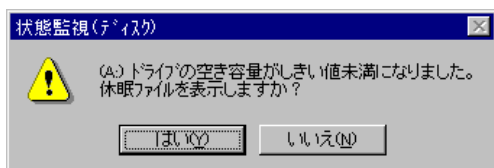
[監視条件設定]画面で「監視する」を選択した場合、以下の点に注意してください。

- ・ ディスクの監視やプリンタの監視において、ネットワークドライブやネットワークプリンタの監視を行っている場合、ネットワークドライブやネットワークプリンタの情報を取得するために定期的(約5秒間隔)にパケットが送信されます。
パケットの送信を行いたくない場合はネットワークドライブの「ディスク空き容量不足の通知を行う」およびプリンタのすべての監視項目のチェックをはずしてください。
- ・ ディスクドライブが省電力モードに切り替わらない場合があります。
- ・ スキャンディスク実行時に著しく時間を要するか、エラーとなる場合があります。

[監視方法]の「監視する」をチェックします。

[監視条件設定]画面上の「ディスク」タブをクリックして、監視するドライブと通知条件を設定してください。

[ダイアログによる通知を行う]チェックボックスをチェックしておけば、空き容量が不足した場合、次のようなダイアログボックスにより利用者に通知します。



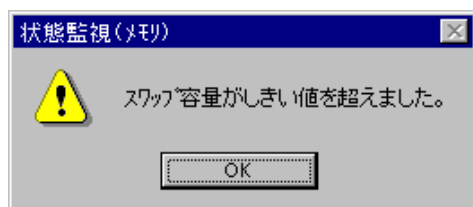
ここで、[はい] ボタンをクリックすれば、休眠ファイル 画面を表示し、長期間使用していないファイルを削除することができます。[休眠ファイル] または [情報表示 - メディア] 画面からでも表示できます。

- メモリのスワップ状態を監視したい

前述の [監視条件設定] 画面を表示します。

画面上の [メモリ] タブをクリックして、通知条件を設定してください。

[ダイアログによる通知を行う] チェックボックスをチェックしておけば、スワップ容量がオーバーした場合、次のようなダイアログボックスにより利用者に通知します。



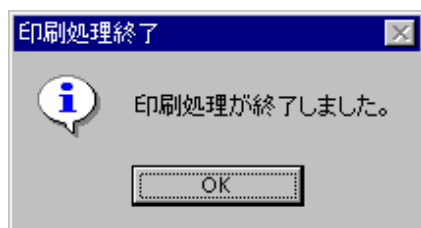
大容量のスワップはパフォーマンスの低下を招きます。パーソナルコンピュータの利用者にとって、通常の使用環境で容量の大きなスワップの発生頻度が高い場合はメモリの絶対量が不足していると思われます。

- プリンタの状態を監視したい

前述の [監視条件設定] 画面を表示します。

画面上の [プリンタ] タブをクリックして、通知条件を設定してください。

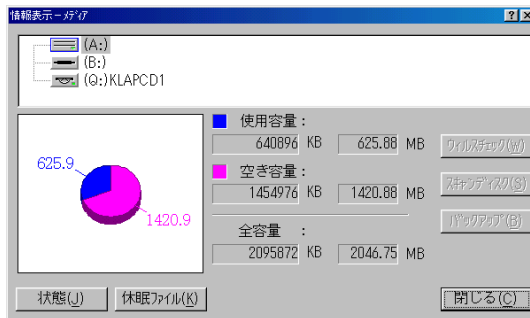
[ダイアログによる通知を行う] チェックボックスをチェックしておけば、通知条件にしたがって [印刷処理終了] [プリンタ異常] などのダイアログボックスにより利用者に通知します。



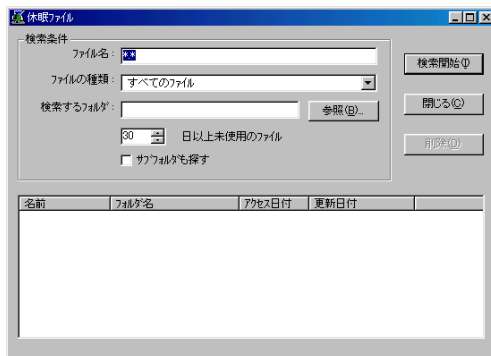
PC-9800シリーズでは、PC本体の状態を監視することはできません。

- HDDの空き容量が少なくなってきた.....長期間使っていないファイルを検索し削除したい

[表示]メニュー [正面] [メディア情報] をクリック
[情報表示 - メディア] 画面を表示します。



[休眠ファイル] ボタンをクリック
[休眠ファイル] 画面が表示されます。



ここで、検索条件を入力して [検索開始] ボタンをクリックすれば指定した日数以上利用されていないファイルの一覧を表示します。

一覧の中から不要なファイルを選択すれば削除することができます。



ファイルを削除する場合は十分注意しておこなってください。特にシステムファイル等、システムにとって重要なファイルを削除した場合はシステムが起動できなくなる場合があります。

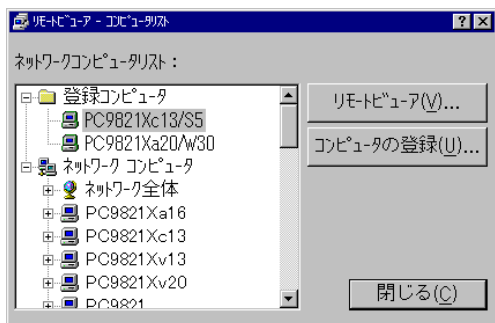
ネットワークコンピュータの情報を参照する

ネットワークに接続されているコンピュータのハードウェアやソフトウェアの情報を表示することができます。

・コンピュータの選択

[ネットワーク]メニュー [コンピュータリスト]コマンドをクリック

[ネットワークコンピュータリスト]画面が表示されます。



[ネットワークコンピュータリスト]から情報を参照したいコンピュータをクリックし、[リモートビュー]ボタンをクリック



・リモートビューの使い方

画面上の参照したい情報のタブをクリックすることで、表示内容が切り換わります。

リモートビューは、タブ選択時に一度だけ情報の収集を行います。

最新の情報を収集するには、[最新情報更新]ボタンをクリックしてください。



- ・ 情報を参照できるコンピュータはDMIT00L Ver2.0以上がインストールされている機種に限ります。
- ・ 使用可能な通信プロトコルは「TCP/IP」「NetBEUI」「IPX/SPX互換プロトコル」のいずれかです。
- ・ DMIT00Lでは「TCP/IP」を標準のプロトコルとしています。その他のプロトコルを使用する場合は、添付のオンラインヘルプの「リモートビューア」の章を参照してください。

なお、必ず以下のネットワークの設定を行ってから使用してください。

TCP/IPを使用する場合

自コンピュータおよび接続先コンピュータにTCP/IPプロトコルをインストールしてから使用してください。

NetBEUIを使用する場合

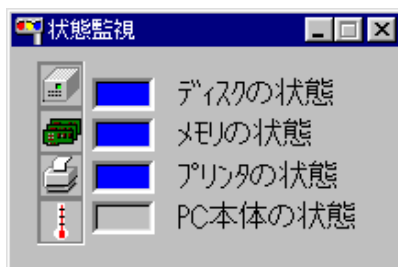
NetBEUIプロトコルを使用する場合には、自コンピュータのダイヤルアップネットワークプロトコルを削除してから使用してください。ダイヤルアップネットワークがインストールされていると正常に接続されない場合があります。

状態監視

状態監視は、システムビューアの監視条件設定で設定された条件にしたがって、HDDの空き容量やメモリのスワップ状態および通常使うプリンタに設定されているプリンタの状態を監視し、リアルタイムに利用者に通知します。

状態監視の起動

- [スタート ボタン] [プログラム] [Dmitool] [状態監視] をクリック
- [状態監視] 画面が表示されます。



基本的な使い方

- ・HDDの空き容量の状態やメモリのスワップ状態およびプリンタの状態を常に表示しておきたい

システムビューアの監視条件設定で、しきい値および通知条件を設定しておけば、状態がリアルタイム表示されます。青色が正常な状態で、赤色が何らかの異常が発生している状態です。

監視条件にしたがって何らかの異常を検出すれば、状態監視画面の表示を赤色にし、異常のあることを利用者に知らせます。

復旧すれば表示を青色に戻します。

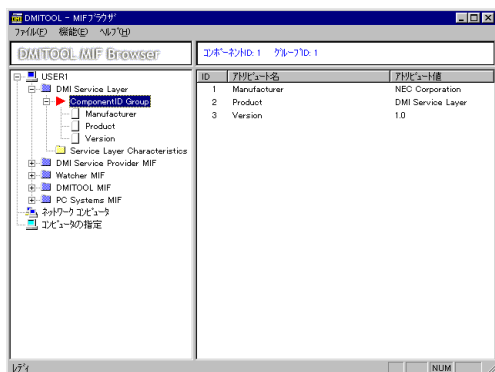
監視条件が設定されていない場合は、表示を灰色にします。

MIF ブラウザ

MIFブラウザとは、コンポーネント(DMIによる管理対象となっているコンピュータ本体やソフトウェアなど)がどのような管理情報を持っているかを表示したり、それらを管理したりするものです。

MIFブラウザの起動

- [スタート] ボタン [プログラム] [Dmimotool] [MIFブラウザ] をクリック
- [MIFブラウザ] 画面が表示されます。



基本的な使い方

- ・コンポーネントの管理情報を表示する

- [MIFブラウザ] 画面左側に表示されているツリー上で表示したい項目をクリック

WWW Extension

WWW Extensionは、パーソナルコンピュータや周辺機器の情報をWWWブラウザで表示できるようにします。

WWW Extensionの起動

[スタート ボタン] [プログラム] [DMITOOL] [WWW Extensionセットアップ] をクリック

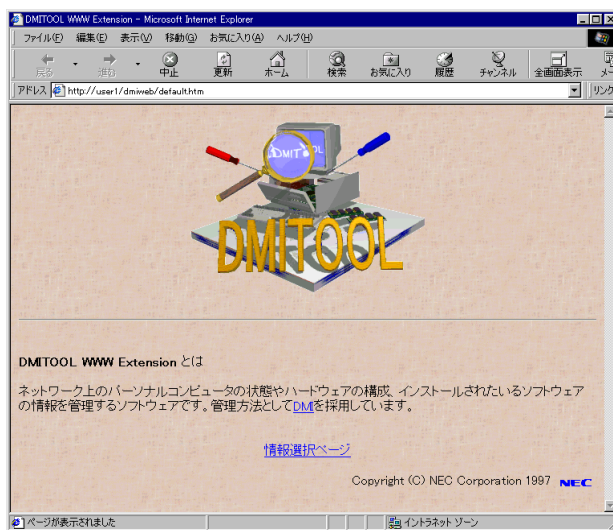
セットアップが完了しましたら、システムを再起動してください。WWW Extensionを組み込みます。

WWWブラウザを起動し、以下のページを表示してください。

http://IPアドレス/dmiweb/default.htm

IPアドレス:WWW ExtensionがセットアップされているマシンのIPアドレスを入力してください。

DMITOOL WWW Extensionのページが表示されます。



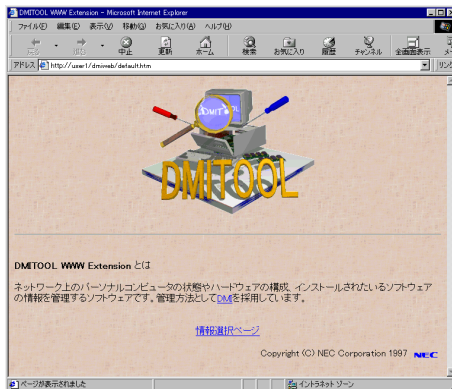


WWW Extensionをセットアップする前に、次の手順でPWS(Personal Web Server)をインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 2 「名前」に「c:\¥windows¥options¥cabs¥pws¥setup.exe」と入力する
- 3 「OK」ボタンをクリック
- 4 Personal Web Server セットアップの指示に従ってインストールする

基本的な使い方

- ・自分の席から離れた所の身近なマシンからDMIT00Lの情報を見たい
身近なマシンにインストールされているWWWブラウザを起動します。WWWブラウザで見たいマシンのページ(http://IPアドレス/dmiweb/default.htm)を指定し、実行します。DMIT00L WWW Extensionのページが表示されます。

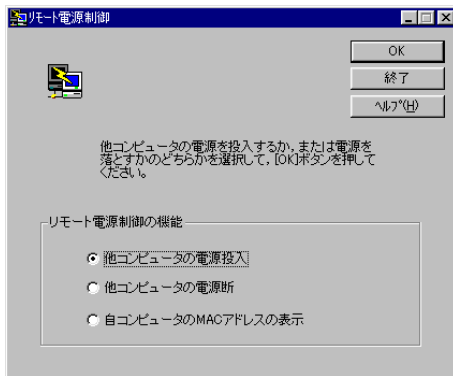


リモート電源制御

リモート電源制御は、ネットワークに接続されている他のパソコンに対して電源の投入や電源断、および自分のパソコンのMACアドレスを表示することができます。

リモート電源制御の起動

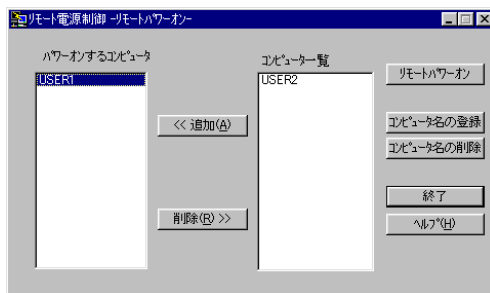
[スタート ボタン] [プログラム] [Dमितool] [リモート電源制御] をクリック
[リモート電源制御] 画面が表示されます。



基本的な使い方

・ネットワークに接続された他のコンピュータの電源を入れたい

[リモート電源制御] 画面の [リモート電源制御の機能] から [他コンピュータの電源投入] を選択し、[OK] ボタンをクリック



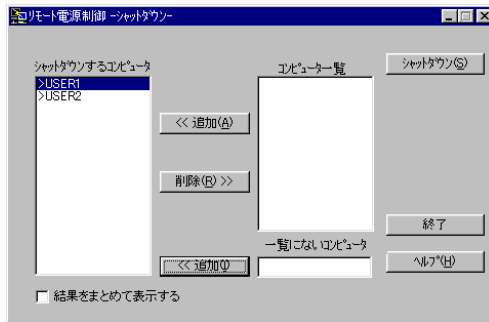
[コンピューター一覧] からコンピュータを選択し、[<<追加] ボタンをクリック
[リモートパワーオン] ボタンをクリックすると [パワーオンするコンピュータ] に表示されているコンピュータの電源を入れます。



リモート電源制御を使用して電源が投入されるパソコンは、リモートパワーオン機能をサポートしたハードウェアで構成され、リモートパワーオンできるように設定されていなければなりません。

・ネットワークに接続された他のコンピュータをシャットダウンしたい

[リモート電源制御]画面の[リモート電源制御の機能]から[他コンピュータの電源断]を選択し、[OK]ボタンをクリック



[コンピューター一覧]からのコンピュータを選択し[<<追加]ボタンをクリック、または[一覧にないコンピュータ]にコンピュータ名を入力し[<<追加]ボタンをクリック [シャットダウン]ボタンをクリックすると[シャットダウンするコンピュータ]に表示されているコンピュータをシャットダウンします。

・自分のコンピュータのMACアドレスを表示したい

[リモート電源制御]画面の[リモート電源制御の機能]から[自コンピュータのMACアドレスの表示]を選択し、[OK]ボタンをクリック



MACアドレスが表示されます。

他のパソコンからのリモートコントロールを受ける ~ pcANYWHERE32 EX

ネットワーク接続された他のパソコンに、本機の画面をそのまま表示し、遠隔地から本機を自由に操作することができます。また、遠隔地からの保守作業などに使用することもできます。



- ・ pcANYWHERE32 EXは、工場出荷時には本機にインストールされていません。
pcANYWHERE32 EXのインストール方法については、「Part 3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」をご覧ください。
- ・ 本機に添付されているpcANYWHERE32 EXを使って、本機から他のパソコンを操作することはできません。
- ・ 接続デバイスは、IPX、SPX、NetBIOS、Banyan VINES、TCP/IPが設定できます。
- ・ 他のパソコンから本機をリモートコントロール（遠隔操作）するためには、相手側のパソコンに、別売の「DMIT00L（pcANYWHERE32 EX コンプリート版付）」または「pcANYWHERE（Symantec社製）がインストールされている必要があります。詳細な使用方法については、別売の「DMIT00L（pcANYWHERE32 EX コンプリート版付）」などのマニュアルをご覧ください。

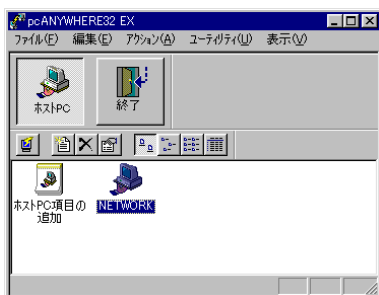
pcANYWHERE32 EXの起動

[スタートボタン] [プログラム] [pcANYWHERE32 EX] [pcANYWHERE32 EX] をクリック

ホスト接続項目の作成

pcANYWHERE32 EXを使用して、他のパソコンから本機をリモートコントロールするためには、まずホスト接続項目を作成する必要があります。
ホスト接続項目を作成するには、次の手順で行います。

1 [ホストPC]ボタンをクリック



2 次のいずれかの手順を実行する

- ・ [ホストPC項目の追加] アイコンをダブルクリックし、ウィザードを使って新しい接続項目を作成する
- ・ ファイルメニューで [新規作成] をクリック

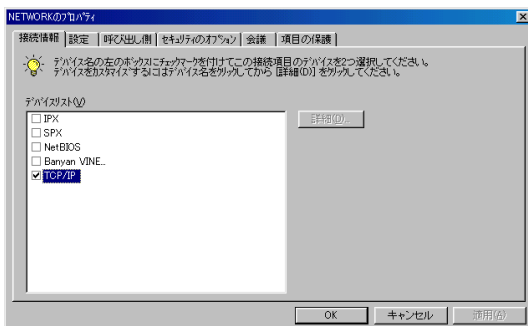
ネットワークプロトコルの設定

pcANYWHERE32 EXは、次の5種類の通信プロトコルを選択することができます。

- ・ IPX
- ・ SPX
- ・ NetBIOS
- ・ Banyan VINES
- ・ TCP/IP

これらのプロトコルから1つを選択して設定してください。
設定は次の手順で行います。

- ## 1 [接続項目] をクリックし、[ファイル]メニュー [プロパティ] をクリック または [接続項目] を右クリックし、コンテキストメニュー [プロパティ] をクリック ホスト接続項目のプロパティシートが表示されます。



- ## 2 [デバイスリスト] のリストから使用するプロトコルをクリックし、[OK] ボタンをクリック これで、設定は完了です。




オンラインメニューの使用

オンラインメニューを使うと、通信の切断、文字による会話(チャット)などを行うことができます。各機能の実際の使用方法については、別売のpcANYWHERE32 EXなどのマニュアルをご覧ください。

オンラインメニューの表示方法は次の通りです。

1 リモート制御接続をする

2 pcANYWHERE のセッションアイコン  pcANYWHERE [セッション中] を右クリック [ホストオンラインメニュー] が表示されます。



Part 2

便利な機能を利用する

このPartでは、以前からPC-9800シリーズのコンピュータを使用している方にとって、便利な機能について説明します。

なお、これらのアプリケーションは、工場出荷時には、本機にインストールされていません。

お使いになる場合は、「Part3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」(P.70)の手順を参照してインストールしてください。

英語モードフォントを使用する

DOS APインストーラ

海外ゲーム対応ユーティリティ

英語モードフォントを使用する

日本語モードフォントのまま、海外製Windows 98アプリケーションをWindows 98で利用する場合、著作権(©)や登録商標(®)が正しく表示されません。そのため、使用するフォントの一部を英語モードフォントに切り替えて正しく表示する必要があります。また、その逆に英語モードのまま、日本語版Windows 98アプリケーションをWindows 98で利用する場合も、正しく表示されない文字があります。

それぞれのモードでの表示状態については、次の通りです。

	海外製Windows 98 アプリケーションを使用	日本語版Windows 98 アプリケーションを使用
日本語モードフォント	「©」 「ウ」 「®」 「ヨ」 「\」 「¥」	正しく表示される
英語モードフォント	正しく表示される	「ウ」 「©」 「ヨ」 「®」 「¥」 「\」

英語モードフォントへの切り替え

使用するフォントを日本語モードから英語モードに切り替えます。

- 1** [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の[フォント]をダブルクリック
[Fonts]フォルダが開きます。
- 2** [ファイル]メニュー [新しいフォントのインストール]コマンドをクリック
[フォントの追加]ダイアログボックスが表示されます。
- 3** CD-ROMドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットする
- 4** [ドライブ]にCD-ROMドライブ(通常は「Q :」)を指定し、[フォルダ]に
「¥usefulpk¥usfont」ディレクトリを指定する
- 5** [フォントの一覧]のリストボックスに、「EnglishModeFixedSys (Set #6)」
「EnglishModeSystem (Set #6)」 「EnglishModeTerminal (Set #6)」
が表示されることを確認し、[すべて選択]ボタンをクリックした後、[OK]ボタンを
クリック
[Fonts]フォルダ内に英語モードフォントが追加され、英語モードフォントに切り替
わります。



使用しているフォントが英語モードのまま、日本語版Windows 98アプリケーションをWindows 98で利用すると、「ウ」「ヨ」「¥」が正しく表示されなくなります。この場合、英語モードを日本語モードに切り替えてください。

日本語モードフォントへの切り替え

使用するフォントを英語モードから日本語モードに切り替えます。

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル] [フォント] をクリック
[Fonts] フォルダが開きます。
- 2 [Fonts] フォルダ内の「EnglishModeFixedSys (Set #6)」、「EnglishModeSystem (Set #6)」、「EnglishModeTerminal (Set #6)」(実際には名前が短く表示される場合もあります) を選択し、[ファイル]メニューの「削除」をクリック
「これらのフォントを削除してもよろしいですか?」というメッセージが表示されます。
[はい] ボタンをクリックすると英語モードフォントが削除され、日本語モードフォントに切り替わります。



使用しているフォントが日本語モードのまま、海外版Windows 98アプリケーションをWindows 98で利用すると、著作権(©)や登録商標(®)(\)が正しく表示されなくなります。この場合、日本語モードを英語モードに切り替えてください。

DOS APインストーラ

Windows 98の動作環境を変更せず、MS-DOSアプリケーションのインストールを行うことができます。また、既にインストールされているMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成したり、使用しているデバイスドライバの内容を確認/修正することもできます。



DOS APインストーラは工場出荷時にはインストールされていません。DOS APインストーラのインストール方法については、「Part3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」をご覧ください。



ここで「ショートカットを作成する」とは、「[スタート]メニューにアプリケーションを登録する」という意味です。

DOS APインストーラをお使いになる前に

次のようなMS-DOSアプリケーションは、Windows上では実行できません。

- ・ フロッピーディスクからの起動が必要なアプリケーション
このようなアプリケーションは、Windowsを終了してMS-DOSモードで再起動してから実行してください。起動方法の詳細については、アプリケーションに添付しているマニュアルをご覧ください。
- ・ ADDDRVコマンドに対応していないかな漢字変換機能を利用するアプリケーションや、終了後MS-DOSに戻らないアプリケーション
このようなアプリケーションは、後述の「アプリケーションを利用する際の注意」をご覧ください。

また、次のようなアプリケーションはDOS APインストーラではインストールできません。

- ・ インストール中またはインストール後にコンピュータを自動的に再起動するアプリケーション
このようなアプリケーションは、MS-DOSモードでコンピュータを再起動して、手作業でインストールしてください。
手作業によるアプリケーションのインストールについては後述の「手作業によるアプリケーションの登録」をご覧ください。
インストール中またはインストール後にコンピュータを自動的に再起動するかどうかは、アプリケーション添付のマニュアルをご覧ください。

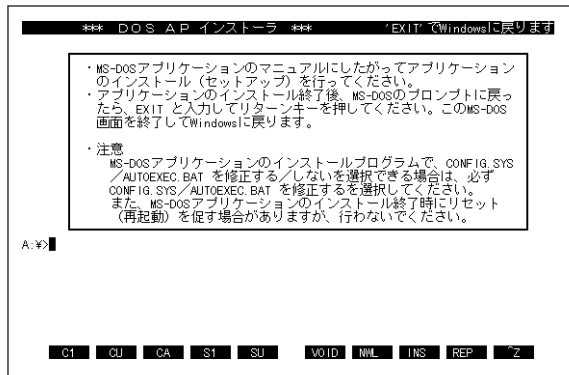
MS-DOSアプリケーションをインストールして ショートカットを作成する.....

DOS APインストーラを使用して、新しくMS-DOSアプリケーションをインストールした後、ショートカットを作成するには、次の手順で行ってください。

DOS APインストーラでのインストール

MS-DOSアプリケーションをDOS APインストーラを使用してインストールします。

- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [DOSアプリケーション] [DOS APの登録] をクリック
[DOSアプリケーションの登録] ダイアログボックスが表示されて、インストールに必要な手順や注意事項が説明されますので、確認しながら [次へ] ボタンをクリックして進めてください。
- 2 MS-DOSプロンプトが起動して、MS-DOSプロンプトのDOS APインストーラの画面が表示されます。インストールするMS-DOSアプリケーションのインストール手順にしたがって、インストールを行ってください。




- MS-DOSアプリケーションのインストール中にCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの変更を選択する場面がある場合は、必ず「変更する」を選択してください。
- インストールに際して必要なファイルがハードディスクに存在しない場合、以降の操作が正しく実行できない場合があります。
- MS-DOSアプリケーションのインストールプログラムは必ずフルスクリーンで実行してください。


Part 2
便利な機能を利用する



MS-DOSアプリケーションのインストール方法については、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルをご覧ください。

- 3 MS-DOSアプリケーションのインストール終了後、「EXIT」と入力する
Windows 98の画面に戻ります。



MS-DOSアプリケーションのインストール後、リセット(再起動)の指示がある場合がありますが、絶対に行わないでください。必ずインストール終了後は、「EXIT」と入力して、Windows 98の画面に戻ってください

DOS APインストーラでインストールできなかった場合は、後述の手作業によるアプリケーションの登録を参照してインストールしてください。

- 4 引き続き、「DOSアプリケーションの登録」ダイアログボックスが表示されて、インストールしたMS-DOSアプリケーションを「スタート」メニューの「プログラム」-「DOSアプリケーション」フォルダに登録する作業が行われるので、「次へ」ボタンをクリック
これ以降は「インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットの作成」の手順に進んでください。また、登録しない場合は、「終了」ボタンをクリックして「DOS APインストーラ」を終了してください。

インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットの作成

インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成します。

- 1 MS-DOSアプリケーションの起動方法を選択する画面で、「コマンドで起動」または「自動的に起動」のどちらかを選択した後、「次へ」ボタンをクリック
- 2 MS-DOSアプリケーションを起動するコマンド名を入力する画面で、コマンド名にはMS-DOSアプリケーションの起動コマンドを入力するか、「参照」ボタンをクリックして起動用に作成、インストールした実行ファイル(*.EXE)、バッチファイル(*.BAT)またはコマンドファイル(*.COM)を選択した後、「OK」ボタンをクリック
選択したコマンドを表示しますので、確認した後、「次へ」ボタンをクリックしてください。



MS-DOSアプリケーションの起動コマンドについては、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルをご覧ください。

- 3 起動するMS-DOSアプリケーションの登録名を指定する画面が表示されますので、アプリケーション名を入力した後、「次へ」ボタンをクリック
- 4 MS-DOSアプリケーションの起動に必要なデバイスドライバや環境変数を設定する作業が行われますので、これ以降の「MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集」の処理を進める
ショートカットの作成が必要ない場合は、「終了」ボタンをクリックして「DOS APインストーラ」を終了してください。

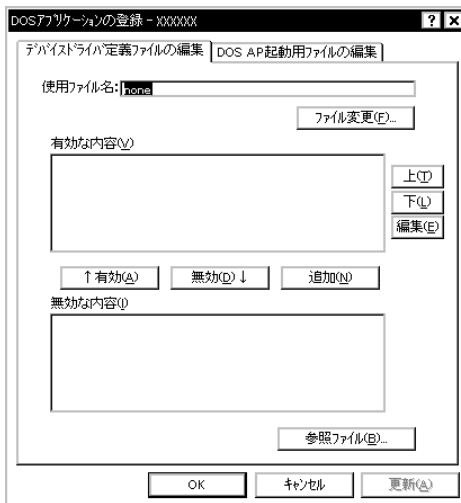


MS-DOSアプリケーションの起動に必要なデバイスドライバや環境変数については、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルをご覧ください。

MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集

インストールしたMS-DOSアプリケーション起動用デバイスドライバ、環境変数を設定します。ただし、MS-DOSアプリケーションのインストール時にCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATが変更された場合は、この処理は行えません。

- 1 [オプション] ボタンをクリック
[DOSアプリケーションの登録]の[デバイスドライバ定義ファイルの編集]タブの画面が表示されます。



- 2 デバイスドライバを新規に追加する場合は、[追加] ボタンをクリック
デバイスドライバを選択する画面が表示されます。[ファイルの場所] [ファイル名] (デバイスドライバ名: *.DRV) を選択した後、[開く] ボタンをクリックすると [有効な内容] に新規に追加したデバイスドライバが表示されます。



[追加] は、Windowsの[マイ コンピュータ]または[エクスプローラ]の[表示]メニュー [フォルダオプション]の[表示]タブの[ファイルの表示] [すべて]のファイルを表示]をクリックしてから行ってください。

- 3 すでに設定されているデバイスドライバを削除する場合は、[有効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[無効] ボタンをクリック
デバイスドライバが [無効な内容] に移動します。
一度、削除したデバイスドライバを設定する場合は、[無効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[有効] ボタンをクリックします。

- 4** デバイスドライバの設定内容が変更できたら、[更新] ボタンをクリック
デバイスドライバの設定内容が更新されます。引き続き、環境変数の設定内容の変更を行いたい場合は、[DOS AP 起動用ファイルの編集] タブをクリックしてください。[DOS AP 起動用ファイルの編集] タブの画面が表示されますので、これ以降の「 MS-DOS アプリケーションの起動用ファイルの編集 」の処理を進めてください。必要ない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして「 MS-DOS アプリケーションの起動用メモリサイズの設定 」の処理に進んでください。



- ・すでに設定されているデバイスドライバを編集したり、パラメータを変更する場合は、[有効な内容] に表示されているデバイスドライバを選択した後、[編集] ボタンをクリックします。[指定行の修正] ダイアログボックスが表示されます。行の修正をした後、[更新] ボタンをクリックすると、デバイスドライバのパラメータが更新されます。
- ・他のアプリケーションで使っているデバイスドライバ定義ファイルを共有する場合は、[ファイル変更] ボタンをクリックして共有するファイルを選択してください。

MS-DOS アプリケーションの起動用ファイルの編集

インストールしたMS-DOSアプリケーション起動用環境変数を設定します。

- 1** [DOS AP 起動用ファイルの編集] タブの画面で環境変数を新規に追加する場合は、[追加] ボタンをクリック
環境変数を入力するための画面が表示されます。環境変数を入力した後、[更新] ボタンをクリックすると [有効な内容] に表示されます。
- 2** すでに設定されている環境変数を削除する場合は、[有効な内容] に表示されている環境変数を選択した後、[無効] ボタンをクリック
環境変数が [無効な内容] に移動します。
削除した環境変数を設定する場合は、[無効な内容] に表示されているデバイスドライバを選択した後、[有効] ボタンをクリック
- 3** 環境変数の設定内容が変更できたら、[更新] ボタンをクリックして、[OK] ボタンをクリック
環境変数の設定内容が更新されて、メモリサイズを設定する画面に進みます。メモリサイズの設定が必要な場合は、「 MS-DOS アプリケーションの起動用メモリサイズの設定 」の処理を進めてください。

MS-DOS アプリケーションの起動用メモリサイズの設定

インストールしたMS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズを設定します。



1 [オプション] ボタンをクリック

MS-DOSアプリケーションを実行するディレクトリを設定する画面が表示されます。



2

実行するディレクトリ名を入力した後、[次へ] ボタンをクリック
設定内容が有効になり、メモリサイズを設定する画面に進みます。



3

[コンベンショナルメモリ][EMSメモリ][XMSメモリ][環境変数の初期サイズ]を設定した後、[次へ] ボタンをクリック
コマンド、実行ディレクトリ、メモリサイズの設定を確認する画面が表示されます。

4

設定を確認した後、[次へ] ボタンをクリック
MS-DOSアプリケーションが、[スタート]メニューからアイコンを選択することで起動できるようになります。

MS-DOSアプリケーションのショートカットの起動

MS-DOSアプリケーションのショートカットを起動するには、次の2つの方法があります。

- ・ [スタート] ボタン [プログラム] [DOSアプリケーション] からMS-DOSアプリケーションのショートカットをクリック
- ・ [マイ コンピュータ] や [エクスプローラ] から¥Windows¥スタートメニュー¥プログラムにある [DOSアプリケーション] フォルダを開いて、MS-DOSアプリケーションのショートカットをダブルクリック

MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する.....

DOS APインストーラを使用して、新しくMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成するには、次の手順で行ってください。

MS-DOSアプリケーションのショートカットの作成

MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成します。

- 1** [DOS APショートカットの作成] を起動すると、[DOSアプリケーションの登録] ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 画面に表示される指示にしたがって、[次へ] ボタンをクリック
ハードディスクにインストールされているMS-DOSアプリケーションを起動するコマンドを入力する画面が表示されます。起動コマンドを入力するか、[参照] ボタンをクリックして起動用に作成、またはインストールされている実行ファイル(*.EXE)、バッチファイル(*.BAT)またはコマンドファイル(*.COM)を選択した後、[OK] ボタンをクリックしてください。
- 3** アプリケーション名を設定する画面が表示されますので、アプリケーション名を入力した後、[次へ] ボタンをクリック
以降のデバイスドライバ、環境変数、メモリサイズの設定は、前述の「MS-DOSアプリケーションをインストールしてショートカットを作成する」で行ったのと同じ手順で設定してください。MS-DOSアプリケーションのショートカットが、[スタート]メニューの[プログラム] から [DOSアプリケーション] に登録されます。

MS-DOSアプリケーションのショートカットの起動

MS-DOSアプリケーションのショートカットを起動するには、次の2つの方法があります。

- [スタート]メニューの[プログラム]-[DOSアプリケーション] からMS-DOSアプリケーションのショートカットをクリック
- [マイ コンピュータ] や [エクスプローラ] から¥Windows¥スタートメニュー¥プログラムにある [DOSアプリケーション] フォルダを開いて、MS-DOSアプリケーションのショートカットをダブルクリック

MS-DOSアプリケーションのショートカットのデバイスドライバ、環境変数を変更する

ショートカットのデバイスドライバの内容を変更します。

- 1** デバイスドライバの内容を確認するショートカットアイコンをクリックし、ショートカットアイコンにマウスカースルを近づけたまま右クリックするか、または [エクスプローラ] の [ファイル] メニューをクリックして、[デバイスドライバの変更] をクリック
使用しているデバイスドライバの一覧が表示されます。

- 2** 以降のデバイスドライバと環境変数の設定については、「MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集」と「MS-DOSアプリケーションの起動用ファイルの編集」の手順を繰り返す

DOS APインストーラの注意事項.....

- かな漢字変換ドライバのみの登録はできません。
- MS-DOSアプリケーションのインストール終了後、自動的にリセットを行う(電源スイッチを押す以外の操作を受け付けない場合も含みます)MS-DOSアプリケーションは登録できません。
- MS-DOSアプリケーションのインストール途中でエラーが発生した場合は、環境設定ファイル(CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BAT)は変更されたままの状態になります。
- ブロックデバイスを使用するMS-DOSアプリケーションは、正常に動作しないことがあります。
- 起動コマンドにバッチファイル(*.BAT)を指定しているアイコンを起動した場合、アプリケーションを終了してもMS-DOSプロンプトが終了しないことがあります。EXIT(Ⓚ)と入力してMS-DOSプロンプトを終了させてください。
- MS-DOSアプリケーション固有のかな漢字変換ドライバを使用するMS-DOSアプリケーションは、MS-DOSプロンプトが起動した後でかな漢字変換ドライバを使用する環境を作成(CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを変更)、MS-DOSアプリケーションのインストールを行ってください。
- MS-DOSアプリケーションの動作時に必要な設定を手作業で行う場合は、MS-DOSプロンプト終了前に行ってください。
- Windows 98で使用できないドライバをCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATに追加するMS-DOSアプリケーションを登録しようとする、「MS-DOSアプリケーションのインストール時に変更したCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATファイルの内容を元に戻しますか」という確認ダイアログボックスが表示されます。この場合、通常は「はい」を選択してください。「いいえ」を選択すると、Windowsが起動しなくなることがあります。
- MS-DOSアプリケーションのインストールを行ったことによりWindowsが起動しなくなった場合は、次の手順で環境を元に戻してください。

CTRLキーを押した状態で本機を再起動し、WindowsをSafeモードで起動する

[スタート]ボタン [プログラム] [エクスプローラ] をクリックし、[表示]メニュー [フォルダオプション] をクリック

[表示] タブをクリックし、[ファイルの表示] [すべてのファイルを表示] をクリックして [OK] ボタンをクリック

[エクスプローラ] から ¥Windows ¥スタートメニュー ¥プログラム ¥DOSアプリケーションにある [DATA] フォルダを開く

次のファイルがあることを確認する

確認するファイルは、手順 7 の操作を行ったときの状況によって異なります。

- MS-DOSアプリケーションのインストール中に再起動した場合
x_CONF.SYS
x_AUTO.BAT
(xはドライブ名)
- MS-DOSアプリケーションのインストール後に環境を元に戻さなかった場合
x_CONF.yyy
x_AUTO.yyy
(xはドライブ名、yyyはファイル番号を示します。同じファイル名でファイル番号が異なるファイルが複数ある場合はファイル番号の大きいファイルを選択してください)

手順 7 で選択した2つのファイルを、ドラッグアンドドロップでドライブのルートディレクトリにコピーする

元のCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATは削除しておきます。

コピーしたファイルを選択し、[ファイル] メニュー [名前の変更] をクリックし、ファイル名を次のように変更する

x_CONF.SYS / x_CONF.yyy	CONFIG.SYS
x_AUTO.BAT / x_AUTO.yyy	AUTOEXEC.BAT

手作業によるアプリケーションの登録.....

DOS APインストーラでインストールできないアプリケーションは、本項の説明を参考にして登録してください。以下に具体的な操作手順を説明します。あらかじめ、フォーマット済みのフロッピーディスクを1枚用意してください。なお、説明は以下の前提で行います。お使いのシステム構成と異なる場合は、読み替えてください。

- Windowsがインストールされている内蔵ハードディスク :Aドライブ
- フロッピーディスクドライブ :Bドライブ

DOS APインストーラでインストールしようとして成功しなかった場合は、手順1から、そうでない場合は手順7からお読みください。



- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [エクスプローラ] をクリック
[エクスプローラ] ウィンドウが表示されます。
- 2 [表示]メニューの[フォルダオプション] をクリック
[フォルダオプション] ウィンドウが表示されます。[表示] タブを選択し、[ファイルの表示]で[すべてのファイルを表示]を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
- 3 エクスプローラから¥Windows¥スタートメニュー¥プログラム¥DOSアプリケーションにある[DATA] フォルダを開く
- 4 [X_AUTO.BAT] [X_CONF.SYS] (Xはドライブ名)の2つのファイルをドラッグアンドドロップでドライブのルートディレクトリにコピーする
(元のCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATは削除しておきます)
- 5 コピーしたファイルをクリックし、[ファイル]メニュー [名前の変更] をクリックして、X_AUTO.BATはAUTOEXEC.BATに、X_CONF.SYSはCONFIG.SYSに名前を変更する
- 6 コピーしたファイルをクリックし、[ファイル]メニュー [プロパティ] をクリックして、[属性]の[隠しファイル]のチェックマークを消す
- 7 フォーマット済みのフロッピーディスクをBドライブに挿入し、Windowsの[エクスプローラ]を利用して、AドライブのルートディレクトリにあるCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの2つのファイルをBドライブにコピーする
- 8 Bドライブにコピーしたファイルの名前を、それぞれCONFIG.NEC、AUTOEXEC.NECに変更する
- 9 フロッピーディスクを取り出す
- 10 起動中のアプリケーションをすべて終了し、[スタート]ボタン [Windowsの終了] をクリックし、[MS-DOSモードで再起動する] をクリックして[OK] ボタンをクリック
- 11 MS-DOSモードで再起動したらアプリケーションをインストールする



インストール中にCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATを書き替えてもよいかどうか確認されたら、「書き替えない」を選択してください。確認メッセージが表示されなかった場合は、アプリケーションのインストール終了後、手順7で用意したフロッピーディスクをドライブに挿入して、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
COPY B: ¥CONFIG.NEC A: ¥CONFIG.SYS 
```

```
COPY B: ¥AUTOEXEC.NEC A: ¥AUTOEXEC.BAT 
```

また、アプリケーションのインストール先や起動ドライブとしてAドライブ以外のドライブを指定した場合、そこにCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATが存在するとそれらのファイルが書き替えられる可能性があります。その場合は、上記手順を参考にして、該当ドライブのCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを復元してください。

- 12** 「EXIT[Ⓜ]」と入力してコンピュータを再起動する
これ以降は前述の「MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する」を参照してください。

アプリケーションを利用する際の注意.....



市販のMS-DOSアプリケーションには、使用するMS-DOSのバージョンを指定しているものがあります。ご使用の際には、アプリケーションが動作するMS-DOSのバージョンを確認してください。

- ADDDRV コマンドでかな漢字変換用デバイスドライバが組み込まないアプリケーション、または終了してもMS-DOSに戻らないアプリケーションの実行方法

- 1** [エクスプローラ] で目的のプログラムのアイコンをクリック
- 2** [ファイル] メニュー [プロパティ] をクリック
- 3** [プロパティ] ウィンドウで [プログラム] タブを選択し、[詳細設定] ボタンをクリック
- 4** [MS-DOS モード] にチェックマークをつけ、[新しいMS-DOS設定を指定する] をクリック
- 5** [MS-DOS モード用CONFIG.SYSファイル] と [MS-DOS モード用AUTOEXEC.BATファイル] を記述する



- 6 [OK] ボタンをクリック
[プロパティ]のウィンドウに戻ります。
- 7 [OK] ボタンをクリック
[プロパティ]のウィンドウを閉じます。
- 8 [スタート] ボタン [Windowsの終了] をクリックし、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する] をクリックして、[はい] ボタンをクリック
- 9 コンピュータが再起動したらアプリケーションを実行する

- 登録したアプリケーションの実行環境を詳細に設定するには
各プログラムの[プロパティ]で設定を行います。詳細はヘルプの[キーワード]画面で
[MS-DOSプログラム]の項目を検索し参照してください。

- 登録したアプリケーションにオリジナルのアイコンを割り当てるには
各プログラムの[プロパティ]で設定を行います。次の手順でアイコンを割り当ててください。

- 1 [エクスプローラ]で目的のプログラムを選択する
- 2 [ファイル]メニュー [プロパティ] をクリック
- 3 [プロパティ]ダイアログボックスで[プログラム] を選択し、[アイコンの変更] ボタン
をクリック
- 4 [アイコンの変更]ダイアログボックスでアイコンを選択し、[OK] ボタンをクリック
- 5 [OK] ボタンをクリックし、[プロパティ]のウィンドウを閉じる

海外ゲーム対応ユーティリティ



海外製ゲームを本機でご利用になる場合、対応するキーボードの違いによって正しいキー入力が行えません。海外ゲーム対応ユーティリティは、海外製ゲームをPC-9821シリーズのキー入力で正常に行うことができます。




海外ゲーム対応ユーティリティは、工場出荷時には本機にインストールされていません。

海外ゲーム対応ユーティリティのインストール方法については、「PART3 添付アプリケーションの削除と追加」の「アプリケーションを追加する」をご覧ください。

海外ゲーム対応ユーティリティの使い方

- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [海外ゲーム対応ユーティリティ] [海外ゲーム対応ユーティリティ] をクリック
タスクバーに海外ゲームユーティリティが表示されます。
- 2  をクリックして  にする
- 3 海外製ゲームを起動する

海外ゲーム対応ユーティリティの終了

- 1 海外製ゲームを終了する
- 2 タスクバーの  を右クリックし、[終了] をクリック



- ・ アプリケーションソフトによっては、海外ゲーム対応ユーティリティを使用しても、キーボードからの入力が正しく行えないものもあります。
- ・ 海外ゲーム対応ユーティリティの機能がONになっていると、日本語入力ができなくなります。



Part 3

添付アプリケーションの削除と追加

本機に標準でインストールまたは添付されているアプリケーションの削除方法と追加方法について説明します。

ここではWindows 98およびインストールされているアプリケーションについての知識が必要になります。よくご理解のうえ、ご利用ください。

アプリケーションを削除する

アプリケーションを追加する

アプリケーションを削除する

本機に標準で添付されているアプリケーションの削除の方法について説明します。

削除の方法は、アプリケーションによって異なります。

なお、購入後にインストールされた別売のアプリケーションの削除方法については、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。



- ・ アプリケーションによっては、削除したときに、一部のディレクトリおよびデスクトップやスタートメニューのショートカットが残ることがあります。この状態でも本機を操作する上では支障はありませんが、アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法にしたがって操作してください。
- ・ アプリケーションを削除する時「共有ファイルを削除するかどうか」のメッセージが表示される場合がありますが、共有ファイルは削除しないでください。削除すると、他のアプリケーションに影響を及ぼす場合があります。

コントロールパネルを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションが削除できます。手順については「コントロールパネルを使って削除する」を参照してください。

- ・ ユースフルパックセットアップ
 - DOS コマンド
 - ユースフルパックユーティリティ
- ・ 98Timer
- ・ 98プレーヤ
- ・ DMITOOL
- ・ Masty Data Backup
- ・ VirusScan
- ・ 海外ゲーム対応ユーティリティ

アプリケーションのアンインストール機能を使うもの

次のアプリケーションが削除できます。手順については「アンインストール機能を使って削除する」を参照してください。

- ・ pcANYWHERE32 EX
- ・ NEC Soft MPEG1.0

コントロールパネルを使って削除する.....



コントロールパネルを使ってアプリケーションを削除する場合、以下の「削除の準備」の手順後にアプリケーションをクリックし、[追加と削除]ボタンをクリック後は、アンインストールを中断してもそのままではアプリケーションをご使用になれない場合があります。その際はコンピュータの再起動を行ってからアプリケーションをご使用ください。

削除の準備

- 1** Windows 98を起動する
- 2** [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル] をクリック
- 3** [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリック
[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] 画面が表示されます。
- 4** [インストールと削除] タブをクリック

この画面では、次のアプリケーションを削除できます。すでに削除しているアプリケーションはこの画面には表示されません。

- ・ ユースフルパックセットアップ
- ・ 98Timer
- ・ 98プレーヤ
- ・ DMIT00L
- ・ Masty Data Backup
- ・ VirusScan
- ・ 海外ゲーム対応ユーティリティ

ユースフルパックについては、ユースフルパックのすべてのアプリケーションを削除後にも[インストールと削除]画面に残ります。

ユースフルパックを削除する

次の手順でユースフルパックを削除します。

- 1 「削除の準備」の手順1～4を行ってください(P. 63)
- 2 [インストールと削除]画面の一覧から[ユースフルパックセットアップ]をクリック(反転表示)、[追加と削除]ボタンをクリック
- 3 [ユースフルパックセットアップ]画面が表示されるので、[次へ]をクリック
- 4 [セットアップ方法の選択]画面で、[カスタム]を選択して、[次へ]をクリック
- 5 表示された画面の削除したいアプリケーションのチェックボックスをクリックして、チェックを外す



- ・ [詳細]ボタンが表示されている場合は、それぞれのアプリケーションに含まれる機能を個別に削除できますが、お使いの環境によっては[DOSコマンド]中に、選択できない機能があります。
- ・ コントロールパネルを含めて、実行中のアプリケーションはすべて終了してから削除を行ってください。

次のアプリケーションが削除できます。

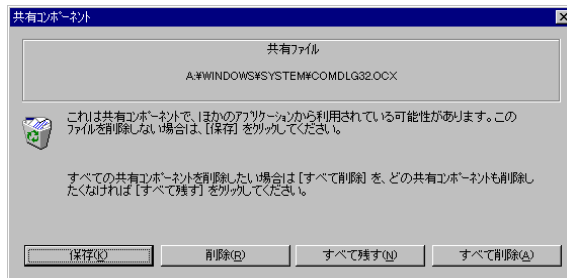
DOSコマンド	MS-DOSモード用グラフィックドライバ MS-DOSモード用サウンドドライバ (Mate-X/CanBeシリーズ用サウンドドライバ) MS-DOSモード用基本グラフィックドライバ NECAI FEP USKCGM コマンド
ユースフルパックユーティリティ	98環境設定ユーティリティ DOS APインストーラ DOS環境設定ユーティリティ

- 6 チェックボックスのチェックを外したら、[次へ]ボタンをクリック
アプリケーションの削除がはじまります。
- 7 [セットアップが完了しました]と表示されたら[完了]ボタンをクリック
システム設定が変更された場合、再起動を促すメッセージが表示されます。
[はい]を選択して、システムを再起動してください。

98Timerの削除

次の手順で98Timerを削除します。

- 1 「 削除の準備 」の手順1～4を行な(P. 63)
- 2 [インストールと削除]画面の一覧から「 98Timer 」をクリックし、[追加と削除]ボタンをクリック
- 3 「 98Timerとそのすべてのコンポーネントを削除しますか? 」のメッセージが表示されるので、削除する場合には「 はい 」ボタンをクリック
98Timerの削除がはじまります。
- 4 [共有コンポーネント]画面が表示されたら、[すべて残す(N)]ボタンをクリック



- 5 「 削除されました 」のメッセージが表示されたら「 OK 」ボタンをクリック

98プレーヤの削除

次の手順で98プレーヤを削除します。

- 1 「 削除の準備 」の手順1～4を行な(P. 63)
- 2 [インストールと削除]画面の一覧から「 98プレーヤ 」をクリックし、[追加と削除]ボタンをクリック
- 3 「 選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか? 」と表示されたら「 はい 」ボタンをクリック
削除が始まります。
- 4 「 共有ファイルを削除しますか? 」と表示された場合は「 すべていいえ 」ボタンをクリック
- 5 「 アンインストールが完了しました 」と表示されたら「 OK 」ボタンをクリック

DMIT00Lの削除

DMIT00L WWW Extensionをセットアップしていない場合には、7の手順から初めてください。

- 1** PWS(Personal Web Server)を停止する
- 2** 「削除の準備」の手順1~4を行う(☞P.63)
- 3** [インストールと削除]画面の一覧から[DMIT00L WWW Extension]をクリック(反転表示し、[追加と削除]ボタンをクリック)
- 4** DMIT00L WWW Extention常駐プログラム終了を確認する画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリック
- 5** PWSプログラム終了を確認する画面が表示されたら[OK]ボタンをクリック
- 6** [ファイル削除の確認]画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリック
DMIT00L WWW Extensionプログラムの削除が開始されます。
- 7** DMIT00L関連のアプリケーションが起動されていないことを確認する次のアプリケーションがDMIT00L関連のアプリケーションです。
 - ・ システムビューア
 - ・ 状態監視
 - ・ リモートビューア
 - ・ MIFブラウザ
 - ・ BIOSブラウザ
 - ・ リモート電源制御
 - ・ 休眠ファイル
- 8** 「削除の準備」の手順1~4を行う(☞P.63)
- 9** [インストールと削除]画面の一覧から[DMIT00L]をクリック(反転表示し、[追加と削除]ボタンをクリック)
- 10** [DMIT00L削除]画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリック
- 11** [ファイル削除の確認]画面が表示されたら[はい]ボタンをクリック
プログラムの削除が開始されます。



[いいえ]を選択し、削除を中断した場合には、システムを再起動してからDMIT00Lを使用してください。

- 12 削除を開始して間もなく共有ファイルの削除を確認する画面が表示されたら、必ず「すべていいえ」ボタンをクリック
- 13 [コンピュータからプログラムを削除]画面に「アンインストールが完了しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリック

Masty Data Backupの削除

- 1 Masty Data Backupを終了させる
タスクバーの右下に時計アイコンが存在する場合は、時計アイコン上で右クリックして、「閉じる」をクリックしてください。
次に、タスクバーのMasty Data Backupを右クリックし「閉じる」を選び、終了してください。
- 2 [「削除の準備」]の手順1～4を行な(☞P. 63)
- 3 [インストールと削除]画面の一覧から「Masty Data Backup/F」を選び、「追加と削除」ボタンをクリック
- 4 画面の指示に従い、削除をおこなう



- ・ アンインストーラ(アンインストールをするプログラム)は、Windows 98の登録情報とプログラムファイルを削除します。お客様が作成されたログファイル等は削除しません。このため、アンインストーラがディレクトリの削除に失敗することがあります。この場合には、エクスプローラ、またはファイルマネージャなどを使用して削除してください。
- ・ 再セットアップ時以外にMasty Data Backupにて作成されるファイルにはログファイル以外にもいくつかあります。ログファイル以外は全て隠しファイルとなっています。

VirusScanの削除

- 1 「「削除の準備」]の手順1～4を行な(☞P. 63)
- 2 [インストールと削除]画面の一覧から「McAfee VirusScan v4.0.3a(プレインストール版)」をクリック(反転表示)して「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 「McAfeeVirusScanの削除が選択されました、本当にMcAfee VirusScanを削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
- 4 「削除後はシステムを再起動することをお勧めします。続行しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック

- 5 「共有ファイルを削除しますか?」と表示されたら「すべていいえ」ボタンをクリック
- 6 「アンインストールが完了しました」と表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 7 コンピュータを再起動する

海外ゲーム対応ユーティリティの削除

次の手順で海外ゲーム対応ユーティリティを削除します。

- 1 「削除の準備」の手順1～4を行う(☞P.63)
- 2 「インストールと削除」画面の一覧から「海外ゲーム対応ユーティリティ」を選び、「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 「海外ゲーム対応ユーティリティを削除します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 4 「海外ゲーム対応ユーティリティの削除を開始します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 5 「海外ゲーム対応ユーティリティの削除が終了しました。」と表示されたら「終了」ボタンをクリック

アンインストール機能を使って削除する.....

pcANYWHERE32 EXの削除

- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [pcANYWHERE32 EX] [pcANYWHERE32 EXの削除] をクリック
- 2 [ファイル削除の確認]画面で、「はい」ボタンをクリック



共有ファイルの削除を確認する画面が表示された場合、「すべてはい」ボタンをクリックしてください。すぐに削除の継続を確認する画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックしてください。

- 3** 「アンインストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] ボタンをクリック



共有コンポーネントの削除を確認する画面が表示された場合、すべて [はい] ボタンをクリックしてください。

- 4** 「pcANYWHEREはコンピュータからインストール解除されました。今すぐに再ブートしますか?」というメッセージが表示されるので、[はい] ボタンをクリック自動的に再起動されます。

以上で削除は完了です。

NEC Soft MPEG1.0を削除する

NEC Soft MPEG1.0の削除は [コントロールパネル] の [マルチメディア] を使用して行います。

- 1** 動作中のアプリケーションをすべて終了する
- 2** [スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] をクリック
- 3** [マルチメディア] アイコンをダブルクリック
- 4** マルチメディアのプロパティから [デバイス] タブをクリック
- 5** [メディアコントロールデバイス] の左のプラス記号 (+) をクリック
デバイスドライバの一覧が表示されます。
- 6** [NEC Soft MPEG1.0] をダブルクリックし、[NEC Soft MPEG1.0のプロパティ] で [削除] ボタンをクリック
- 7** 削除の確認ダイアログボックスが表示されるので、[はい] ボタンをクリック
- 8** [デバイスは削除されました] 画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリック
- 9** 削除後、再起動を促すメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリック
Windowsが再起動します。

以上で削除は完了です。

アプリケーションを追加する

アプリケーションを追加する場合の手順について説明します。



- ・ 「アプリケーションCD-ROM」から、削除したアプリケーションを追加する場合は、アプリケーションのアイコン登録先が、工場出荷時と同じ状態に設定されないことがあります。
- ・ ハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻す場合は、「Part 4 Windows 98と添付アプリケーションの再セットアップ」をご覧ください。

プロダクトの選択

- 1** Windows98を起動する
- 2** CD-ROMドライブに本機添付の「アプリケーションCD-ROM」をセット
- 3** [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル] をクリック
- 4** [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリック
- 5** [インストールと削除] タブをクリック
- 6** [インストール] ボタンをクリック
[フロッピーディスクまたはCD-ROMからのインストール] が表示されます。
- 7** 「アプリケーションCD-ROM」がCD-ROMドライブにセットされていることを確認し、[フロッピーディスクまたはCD-ROMからのインストール] の画面で [次へ] ボタンをクリック
- 8** [インストールプログラムの実行] 画面の「インストールプログラムのコマンドライン」が「<CD-ROMドライブ名>: ¥NSETUP.EXE」になっていることを確認し、[完了] ボタンをクリック
- 9** [プロダクトの選択] 画面が表示される

この画面で次のアプリケーションを追加できます。

- ・ 98Timer
- ・ 98プレーヤ
- ・ DMIT00L
- ・ Masty Data Backup/F
- ・ McAfee VirusScan V4.0.3α(プレインストール版)
- ・ pcANYWHERE32 EX
- ・ 海外ゲーム対応ユーティリティ
- ・ ユースフルパックセットアップ

ユースフルパックの追加

インストールする機能の概要、インストールに必要なハードディスク容量、および追加の手順について説明します。インストールの前に、使ってみたい機能があるかどうかを確認してください。

機能の概要

- ・ 98環境設定ユーティリティ
本機の状態を設定するメモリスイッチを変更することができます。
使い方については『ステップアップガイド』をご覧ください。
- ・ 英語モードフォント
日本語モードフォントのまま、海外製Windows 98アプリケーションをWindows 98で利用する場合、使用するフォントの一部を英語モードフォントに切り替えることにより、正しく表示します。使い方については、Part2の「英語モードフォントを使用する」をご覧ください。
- ・ DOS APインストーラ
MS-DOSアプリケーションのインストールをサポートするユーティリティです。Windows 98でも、MS-DOSのアプリケーションを使いたい場合に便利な機能です。使い方については、Part2の「DOS APインストーラ」をご覧ください。
- ・ DOSコマンド
Windows 98のMS-DOSモードで使用できるコマンドです。グラフィックドライバやサウンドドライバなどがあります。
MS-DOSモードで動作するアプリケーションを、使用する場合などに便利です。使い方については『ステップアップガイド』をご覧ください。
- ・ DOS環境設定ユーティリティ
MS-DOSモード時に使用するCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATの編集ができます。従来からのMS-DOSの環境やMS-DOSアプリケーションを引き続き、本機でも使用したい場合に、便利な機能です。詳しくは『ステップアップガイド』をご覧ください。
- ・ NECAI FEP
MS-DOSプロンプト用NECAI FEPを追加します。

セットアップに必要なハードディスク容量

DOSコマンド	約3.0Mバイト*
MS-DOSモード用グラフィックドライバ	約0.1Mバイト
MS-DOSモード用サウンドドライバ	約0.1Mバイト
MS-DOSモード用基本グラフィックドライバ	約0.3Mバイト
NECAI FEP	約2.6Mバイト
USKCGMコマンド	約0.1Mバイト

ユースフルパックユーティリティ	約0.5Mバイト*
98環境設定ユーティリティ	約0.2Mバイト
DOS APインストーラ	約0.3Mバイト
DOS環境設定ユーティリティ	約0.2Mバイト

*各合計値

ユースフルパックを追加する

- 1 「 プロダクトの選択 」の手順1～9を行う(P.70)
- 2 [プロダクトの選択]画面で[ユースフルパックセットアップ]をクリック(反転表示)して、[OK]ボタンをクリック
- 3 表示された画面で[次へ]ボタンをクリック
- 4 [セットアップ方法]の選択画面が表示されます。[標準] または [カスタム] を選択する
 - ・ [標準] を選択した場合
以下のプログラム一覧の () がついたプログラムだけが追加されます。
 - ・ [カスタム] を選択した場合
セットアップしたいプログラムを、1つずつ選択できます。

DOS コマンド	MS-DOSモード用グラフィックドライバ
	MS-DOSモード用サウンドドライバ
	(Mate-X/CanBeシリーズ用サウンドドライバ)
	MS-DOSモード用基本グラフィックドライバ
	NECAI FEP
	USKCGMコマンド
ユースフルパックユーティリティ	98環境設定ユーティリティ ()
	DOS APインストーラ ()
	DOS環境設定ユーティリティ ()
- 5 [標準] または [カスタム] を選択したら、[次へ]ボタンをクリック
 - ・ [標準] を選択した場合
表示された画面で、そのまま [次へ] ボタンをクリック
アプリケーションの追加がはじまります。
 - ・ [カスタム] を選択した場合
表示された画面で、追加したいアプリケーションのチェックボックスをクリック(チェックボックスにチェックマークをつける)して、[次へ] ボタンをクリック
選択したアプリケーションの追加がはじまります。



[詳細] ボタンが表示されている場合は、それぞれのアプリケーションに含まれる機能を個別に追加できますが、お使いの環境によっては、[DOS コマンド] 中に、選択できない機能があります。



- ・途中で「コピー先に新しい日付のファイルが存在します。上書きしてよろしいですか」のメッセージが表示された場合、[はい] を選択してください。
- ・「このファイルはWindowsが使用中または書き込み禁止であるため上書きできません」のメッセージが表示されても、問題はありませんので、[OK] ボタンをクリックし、そのまま作業を継続してください。

- 6** 「セットアップが完了しました」と表示されたら、[完了] ボタンをクリック
システム設定が変更された場合、再起動を促すメッセージが表示されます。
[はい] を選択して、システムを再起動してください。

DMIT00L の追加

- 1** 「 プロダクトの選択 」の手順1～9を行う(P.70)
- 2** [プロダクトの選択] 画面で「 DMIT00L 」をクリック(反転表示)し、[OK] ボタンをクリック
- 3** [ようこそ] 画面が表示されるので、指示に従い [次へ] ボタンをクリック
- 4** [登録] 画面が表示されるので、あなたの名前と会社名を入力して [次へ] ボタンをクリック
プログラムのインストールが開始されます。
- 5** [情報] 画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリック
- 6** Windowsを再起動する

98Timer の追加

- 1** 「 プロダクトの選択 」の手順1～9を行う(P.70)
- 2** [プロダクトの選択] 画面で「 98Timer 」をクリックし、[OK] ボタンをクリック
- 3** 「98Timerのセットアップを始めます。」と表示されるので、[OK] ボタンをクリック
- 4** パソコンの絵が描かれているボタンをクリック
インストールが始まります。
- 5** 「98Timerのセットアップが完了しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリック

98 プレーヤの追加

- 1 「 プロダクトの選択 」の手順で1～9を行な(P.70)
- 2 「 プロダクトの選択 」画面で「 98プレーヤ 」をクリックし、[OK]ボタンをクリック
- 3 「 ようこそ!98プレーヤの世界へ 」の画面が表示されたら [次へ]ボタンをクリック
- 4 「 Folder Selection 」で [次へ]をクリック
インストールが始まります。
- 5 「 98プレーヤは正しくインストールされました。プログラムグループからアイコンを選択してご使用ください。 」と表示されたら [OK]ボタンをクリック

pcANYWHERE32 EX の追加

- 1 「 プロダクトの選択 」の手順1～9を行な(P.70)
- 2 [プロダクトの選択]画面で [pcANYWHERE32 EX]をクリック(反転表示)し、
[OK]ボタンをクリック
- 3 [ようこそ]画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリック
- 4 [ユーザーの情報]画面で名前と会社名を入力し、[次へ]ボタンをクリック
- 5 [オンライン使用許諾契約]画面が表示されたら、契約内容をよくお読みになり同意の上、[はい]ボタンをクリック
- 6 「 セットアップは次のフォルダにpcANYWHERE32をインストールします。 」と表示されたら、[次へ]ボタンをクリック
- 7 [セットアップレビュー]画面で、[次へ]ボタンをクリック
ファイルのコピーが始まります。
- 8 「 セットアップの完了 」と表示されたら、「 はい、直ちにコンピュータを再起動します。 」
がチェックされていることを確認し、[終了]ボタンをクリック
自動的に再起動されます。

以上でインストールは完了です。

NEC Soft MPEG1.0を追加する

NEC Soft MPEG1.0の追加は [コントロールパネル]の [ハードウェアの追加]を使用して行います。

- 1 CD-ROMドライブに本機添付の「 アプリケーションCD-ROM 」をセットする



- 2** [スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] をクリック
- 3** [ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリック
[新しいハードウェアの追加ウィザード] を起動します。
- 4** [次へ] ボタンをクリック
- 5** [次へ] ボタンをクリック
- 6** [いいえ (一覧から選択する)] をクリックし、[次へ] ボタンをクリック
- 7** [ハードウェアの種類] から [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ] をダブルクリック
- 8** [ディスク使用] ボタンをクリック
- 9** [ディスクからインストール] ダイアログボックスでコマンドラインに <CD-ROMドライブ名> : ¥NECMPEGと入力し、[OK] ボタンをクリック
- 10** [デバイスの選択] 画面に [NEC Soft MPEG1.0] と表示されるので、[OK] ボタンをクリック
- 11** [完了] ボタンをクリック
ファイルのコピーが開始されます。
- 12** ファイルのコピー終了後、再起動を促すメッセージが表示されたら [はい] ボタンをクリック
Windowsが再起動します。

以上でNEC Soft MPEG1.0が追加されます。

VirusScanの追加

- 1** 「 プロダクトの選択 」の手順1~9を行う(P.70)
- 2** [プロダクトの選択] 画面で [McAfee VirusScan v4.0.3a(プレインストール版)] をクリック(反転表示)し、[OK] ボタンをクリック
- 3** [セットアップへようこそ] 画面で [次へ] ボタンをクリック
- 4** [Network Associates使用許諾契約書] 画面が表示されたら契約内容をよく読み、[はい] ボタンをクリック
- 5** [セットアップ方法] 画面が表示されたら、セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリック
ここでは [カスタム] を選択した場合の手順を説明します。



インストール先を変更する場合は、[参照] ボタンをクリックして、[ディレクトリの選択] の画面が表示されたら [パス] にインストール先を入力し [OK] ボタンをクリックします。

- 6** [コンポーネントの選択] 画面が表示されたら [次へ] ボタンをクリック
- 7** [オプションの選択] 画面が表示されたら、[ブート時にシステムをスキャン] [エマージェンシーディスクを作成] のチェックを外し、[次へ] ボタンをクリック
- 8** [プログラムフォルダの選択] 画面が表示されたら [次へ] ボタンをクリック
- 9** [インストール設定の確認] 画面が表示されたら [次へ] ボタンをクリック
- 10** [システム領域のスキャンが完了しました] と表示されたら [OK] ボタンをクリック
- 11** 「この製品についての最新の情報を表示しますか? 」と表示されたら [はい] ボタンをクリック
読まない場合は [いいえ] ボタンをクリックしてください。



最新の情報は [スタート] ボタン [プログラム] [McAfee VirusScan] [ウィルスデータベースの内容] をクリックして読むことができます。

- 12** [変更事項] 画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリック
- 13** [インストールが完了しました] の画面が表示されたら [はい]、直ちにコンピュータを再起動します。 [終了] ボタンをクリック
これでインストールは完了です。

Masty Data Backup の追加

- 1** 「 プロダクトの選択 」の手順1～9を行う (P.70)
- 2** [プロダクトの選択] 画面で [Masty Data Backup/F] をクリック (反転表示)、 [OK] ボタンをクリック
- 3** 画面の指示に従ってセットアップを行う
「セットアップが完了しました。」というメッセージが表示されたらセットアップは終了です。

海外ゲーム対応ユーティリティの追加

次の手順で海外ゲーム対応ユーティリティを追加します。

- 1** 「プロダクトの選択」の手順1～9を行な(字P.70)
- 2** 「プロダクトの選択」画面で「海外ゲーム対応ユーティリティ」をクリック(反転表示)し、「OK」ボタンをクリック
- 3** 「海外ゲーム対応ユーティリティをインストールします。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 4** 「インストールを開始します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 5** 「インストールが終了しました。」と表示されたら「終了」ボタンをクリック

これでインストールは完了です。

Part 4

Windows 98と 添付アプリケーション の再セットアップ

本機に添付されている「システムインストールディスク」や「バックアップCD-ROM」を使って、本機のシステムやアプリケーションを復元する方法を説明しています。

なお、「再セットアップする前に」は必ずお読みください。

再セットアップする前に
標準再セットアップ
カスタム再セットアップ

再セットアップする前に

ここでは、再セットアップを行う際に必要な情報や注意事項について説明しています。再セットアップを始める前に必ずお読みください。

再セットアップが必要になるとき

次のような状況のときに、本機を再セットアップしてください。

- ・ ハードディスク内のプログラムが不正になり、システムが起動できなくなった
- ・ ハードディスク内のシステムファイルを誤って消してしまった
- ・ 電源を入れても、システムが起動しない
- ・ スキャンディスクを使っても修復できない
- ・ Safeモードを起動しても問題が解決しない
- ・ 本機内蔵のハードディスクを購入時と異なるドライブ構成で使いたい

再セットアップに関する注意

- ・ ハードディスク内に非MS-DOS領域がある場合、標準再セットアップは使えません。カスタム再セットアップをご使用ください。
- ・ 再セットアップを行う場合、本機を購入後お客様が接続した周辺機器はすべて外し、標準状態に戻してから再セットアップを実行してください。
- ・ バックアップCD-ROMで再セットアップできるのは、本機に標準で添付されていたソフトウェアのみです。お客様ご自身が、後からインストールされたアプリケーションや、作成されたデータは復元されません。お客様ご自身が後から変更した設定やデータはすべて消え初期状態に戻ります。本機を購入後、お客様が接続した周辺機器の設定はシステムの再セットアップ後にもう一度、設定し直してください。周辺機器の設定については『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』または『ステップアップガイド』や周辺機器のマニュアルをご覧ください。また、再セットアップを行う前に大切なデータは必ずバックアップをとっておいてください。
- ・ ハードディスクの領域が複数ある場合、再セットアップは、第1パーティション(P. 94)の領域に対して行うようになっています。
- ・ 再セットアップ中は、フロッピーディスクから『Windows 98再セットアップ』を起動して行うようになっているため、次のようなドライブ構成となります。

フロッピーディスクドライブ	Aドライブ
ハードディスクの第1パーティション	Bドライブ
CD-ROMドライブ	Qドライブ
- ・ 「再セットアップが終了しました」というメッセージが画面に表示されなかった場合は、再セットアップは正常に終了していません。初めから再セットアップをやりなおしてください。
- ・ 実際に表示される画面は、本文中の画面と一部異なる場合があります。

- ・パーティションを再分割する場合、領域確保できるパーティションあたりの最大サイズは2047Mバイトです。
また、2047Mバイトを超える場合は、複数のパーティションに分割されます。

添付アプリケーションに関する注意

- ・再セットアップするとご購入時の状態に戻りますので、「アプリケーションCD-ROM」から追加したアプリケーションは再度インストールする必要があります。Part 3「添付アプリケーションの削除と追加」をご覧ください。
- ・本機にインストールされているアプリケーションの中にはそれぞれ個々に削除したり追加したりできるものもあります。詳しくはPart 3「添付アプリケーションの削除と追加」をご覧ください。

準備するもの

本機に添付されている、次のCD-ROM、フロッピーディスクを準備してください。

- ・バックアップCD-ROM
- ・システムインストールディスク

必要なハードディスクの空き容量






カスタム再セットアップで領域を複数に分割する場合、ハードディスクの第1パーティションには、940Mバイト以上容量が必要になります。

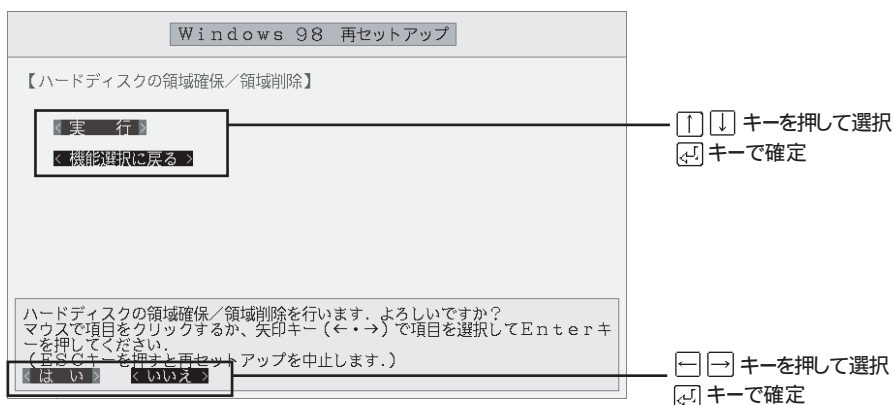
操作方法について

[Windows 98再セットアップ]画面での操作方法

[Windows 98再セットアップ]画面での操作は、キーボードでもマウスでも行うことができます。次に、操作方法について例を示します。

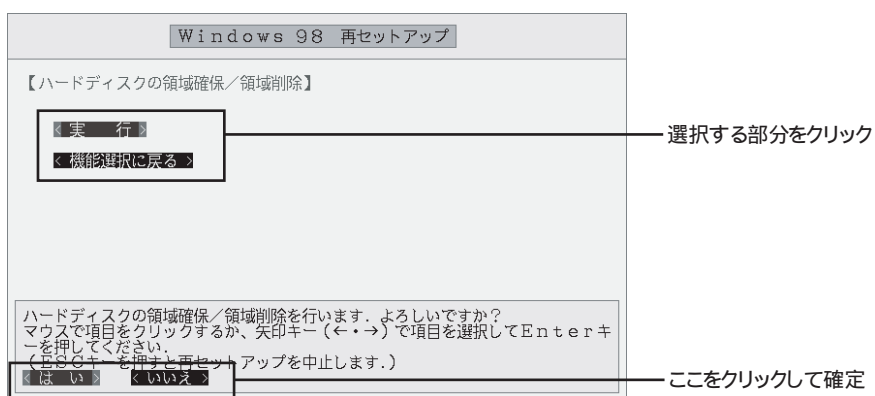
・ キーボードで操作する

本文中で「選択する」と表記されている場合は、    キーを押して選択した項目の表示色を変えます。 キーを押して確定します。



・ マウスで操作する

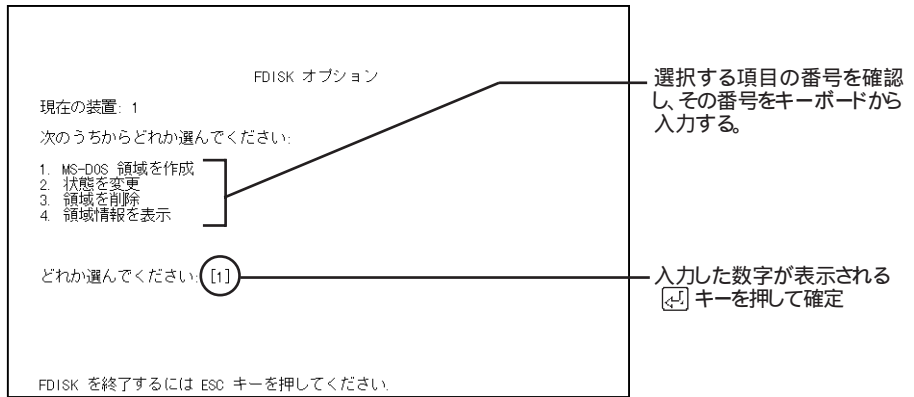
本文中で「選択する」と表記されている場合は、選択する部分をクリックします。



マウスで操作できるのは[Windows 98再セットアップ]の画面のみです。その他の[FDISKオプション]の画面は、マウスでは操作できません。

[Windows 98再セットアップ]画面以外での操作方法

[FDISK オプション]画面などでは、キーボードで操作します。



再セットアップする手順.....

標準再セットアップ(推奨)(P.85)

簡単にセットアップしたい方、または購入時と全く同じドライブ構成で使いたい方は、次の手順でセットアップしてください。

簡単にセットアップする

Windows 98の設定をする

購入時と同じ状態に戻す場合の再セットアップ方法です。

カスタム再セットアップ(P.89)

領域の確保やドライブの初期化(フォーマット)などの作業を自分で行います。ドライブを再構成して、領域のサイズを自分で設定します。購入時と異なるドライブ構成で使いたい方は、次の手順で再セットアップしてください。

必須

どちらかを選択

領域を削除する

領域を確保する

最大のサイズを割り当てる

領域を分割する

ドライブをフォーマットする

システムを再セットアップする

Windows 98の設定をする

独自にシステム環境を設定する場合の再セットアップ方法です。

標準再セットアップ

購入時と全く同じドライブ構成にしたい場合に、この方法で再セットアップしてください。簡単に再セットアップできるので、初心者の方向けの再セットアップ方法です。

実際に表示される画面は、本文中の画面と一部異なる場合があります。

簡単に再セットアップする.....

この手順で再セットアップを行うと、ハードディスクの領域はご購入時と同じ状態に分割されます。

領域の削除や領域の確保からシステムの再インストールまで自動的に行われるので、簡単に再セットアップを行うことができます。



標準再セットアップを行うと、ハードディスク内のパーティション、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルはすべて削除されます。大切なデータやファイルがある場合は、必ずフロッピーディスクなどに保存してください。

本機を購入後、お客様が接続した周辺機器はすべて取り外してから再セットアップを行ってください。

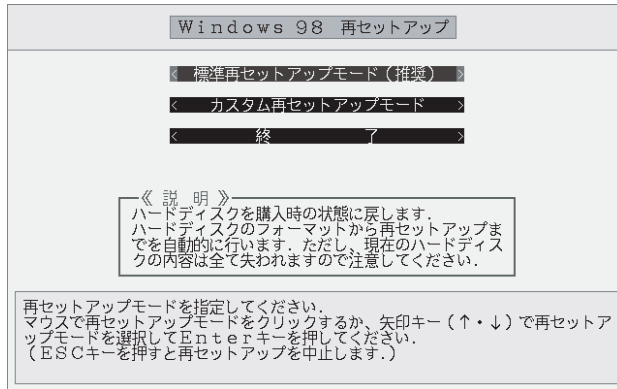
- 1 本体の電源を入れる
- 2 すぐにフロッピーディスクドライブに「システムインストールディスク」をセットする




フロッピーディスクのセットが遅かった場合、手順3の画面は表示されません。その場合は、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源をOFFにして、再度手順1、2の操作を行ってください。


再セットアップについての注意事項を説明した画面が表示されることがあります。内容をよくお読みのうえ、何かキーを押してください。

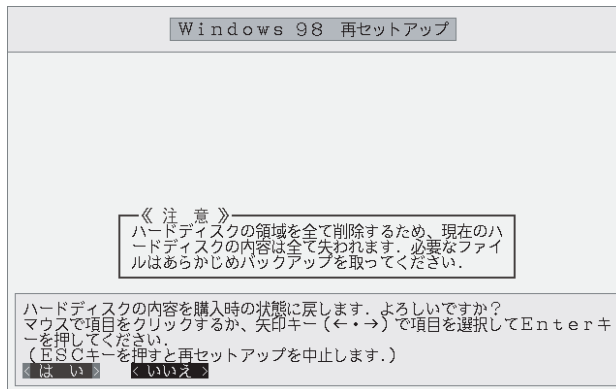
3 次の画面が表示されたら、CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM」をセットする



CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする方法やCD-ROMドライブから取り出す方法については、『ステップアップガイド』をご覧ください。

4 [標準再セットアップモード(推奨)]を選択して  キーを押す

5 [はい]を選択して  キーを押す

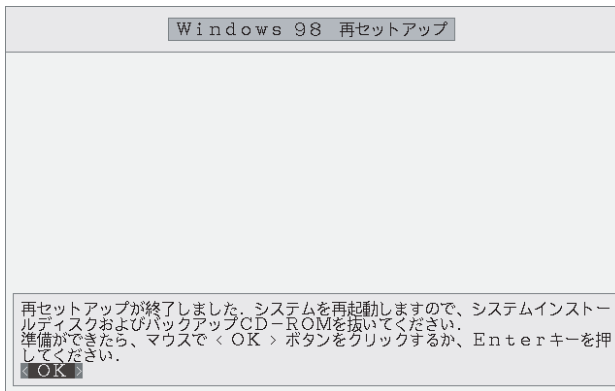


ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップが自動的に始まります。ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップには、約30分かかります。途中でフロッピーディスクを入れ替えるメッセージが表示される場合は、画面の指示に従ってフロッピーディスクを入れ替えてください。



- ・ ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップ中「ファイルの置き換えを行っています。しばらくお待ちください」と表示される画面は、画面からの指示がない限り、CD-ROMを取り出したり、フロッピーディスクを取り出したりしないでください。また電源スイッチを押したりしないでください。
- ・ 再セットアップ中に数回ビープ音が鳴りますが、問題ありませんので無視してください。

- 6** ハードディスクのフォーマットとシステムの再セットアップが終了すると次の画面が表示されるので、フロッピーディスクドライブから「システムインストールディスク」を、CD-ROMドライブから「バックアップCD-ROM」を取り出す



- 7** [OK] をクリックするか、 キーを押す
自動的にシステムが再起動し、しばらくすると Windows 98へようこそ 画面が表示されます。

次に「Windows 98の設定をする」に進んでください。


Windows 98の設定をする

ここで行う操作は、はじめて本機を使ったときの操作『はじめにお読みください』と同じ操作です。

- 1 「Windows 98 へようこそ」の画面が表示されたら、キーボードを使って「名前」と「ふりがな」を入力し、「次へ」ボタンをクリック



- ・ 名前を入力しないと、次の操作に進むことはできません。ここで入力した名前、ふりがなは再セットアップが完了した後は変更できません。変更するには、再セットアップが必要です。
 - ・ 「次へ」などのボタンは画面の右下に隠れています。マウスでスクロールバーを操作してください。
-

- 2 「Windows ユーザー使用許諾契約」の画面を確認する
をクリックするか、キーボードの【PageDown】を押すと、「契約書」の下の方を読むことができます。

- 3 「同意する」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
(同意しない場合、セットアップは続行できません)

- 4 「セットアップの完了」の画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリック

Windows 98のデスクトップ画面が表示されます。

カスタム再セットアップ

パソコンの知識があり、ドライブを再構成して領域のサイズを自分で設定したい場合などに、この方法で再セットアップしてください。

実際に表示される画面は、本文中の画面と一部異なる場合があります。

領域を削除する.....

カスタム再セットアップを行うには、まず再セットアップ先となるドライブの領域の削除の作業が必要です。



ハードディスクのすべての領域を削除すると、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルはすべて削除されます。

大切なデータやファイルがある場合は、必ずフロッピーディスクなどに保存してください。

本機を購入後、お客様が接続した周辺機器はすべて取り外してから再セットアップを行ってください。

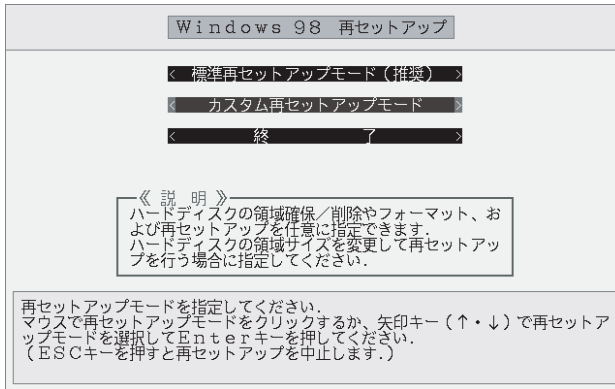
- 1 本体の電源を入れる
- 2 すぐにフロッピーディスクドライブに「システムインストールディスク」をセットする



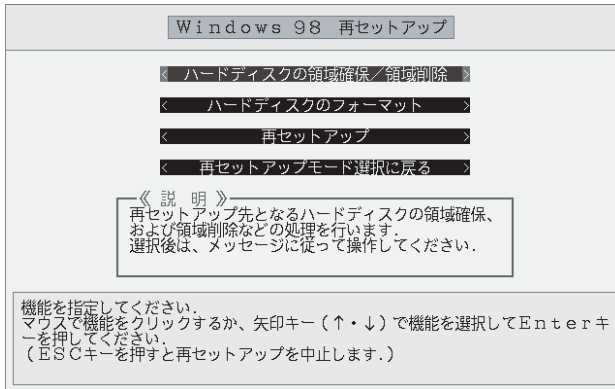
フロッピーディスクのセットが遅かった場合、手順3の画面は表示されません。その場合は、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、電源をOFFにして、再度、手順1、2の操作を行ってください。

再セットアップについての注意事項を説明した画面が表示されることがあります。内容をよくお読みのうえ、何かキーを押してください。

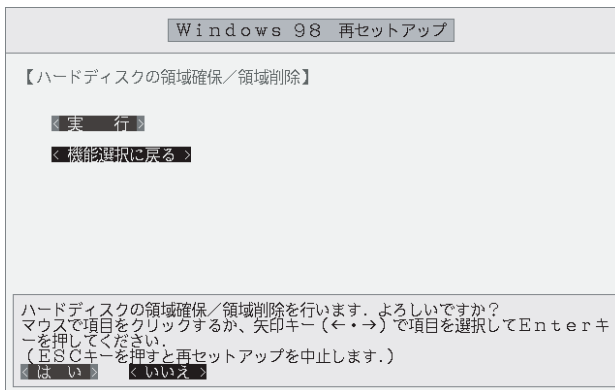
3 [カスタム再セットアップモード] を選択して、 キーを押す



4 [ハードディスクの領域確保/領域削除] を選択して、 キーを押す



5 [実行] を選択して キーを押す



- 6** 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N).....?」と表示されたら、**[N]**キーを押して **[↵]** キーを押す



ここでは、必ず「N」を選択してください。

512 MB以上のディスクがあります。

このバージョンの Windows では、このような大容量ディスクのサポートが強化され、より効率のよいディスク利用やより大きな領域の定義ができるようになりました。古いバージョンの MS-DOS、Windows、ディスク ユーティリティなどはこの大容量ディスク サポートを使用して作成された領域にはアクセスできません。

複数のオペレーティング システム、または異なるバージョンのオペレーティング システムをデュアル ブートする場合は、このサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N).....? [Y]

- 7** [3 領域を削除] を選択して **[↵]** キーを押す

FDISK オプション


現在の装置: 1

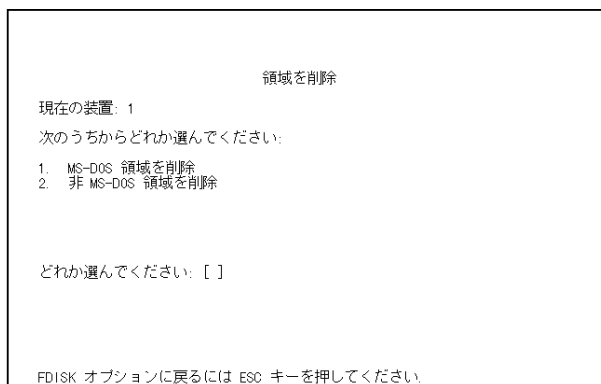
次のうちからどれか選んでください:

1. MS-DOS 領域を作成
2. 状態を変更
3. 領域を削除
4. 領域情報を表示

どれか選んでください: [3]

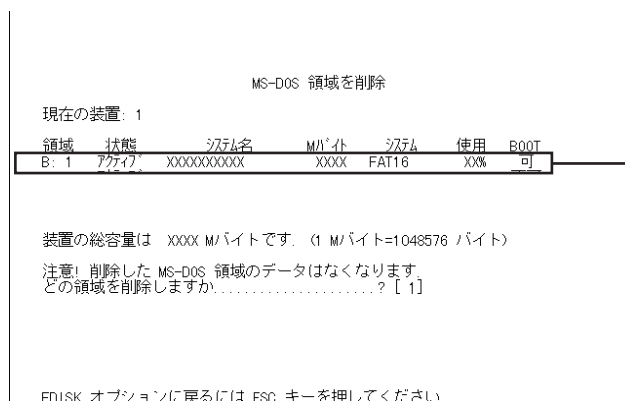
FDISK を終了するには ESC キーを押してください。

- 8** [1. MS-DOS領域を削除 または 2. 非MS-DOS領域を削除]のどちらかを選択した後、 キーを押す
Windows 98を使用していた領域は、MS-DOS領域ですので、通常は [1. MS-DOS領域を削除]を選択してください。



MS-DOS領域が存在しない状態で [1. MS-DOS領域を削除]を選択、または、非MS-DOS領域が存在しない状態で [2. 非MS-DOS領域を削除]を選択すると、「削除するXXX領域はありません」と表示されます。
この場合、**ESC** キーを押すと手順7の画面に戻ります。再度、手順7、8をやりなおしてください。
非MS-DOS領域とは、MS-DOSまたはWindows 98で直接利用できない形式でフォーマットされた領域のことです。

- 9** 削除する領域を選択し、 キーを押す



ハードディスクの第1パーティションの領域は必ず削除する



再セットアップは、ハードディスクの第1パーティションの領域に対して行いますので、必ず第1パーティションの領域は削除してください。

次のようなメッセージが表示されます。

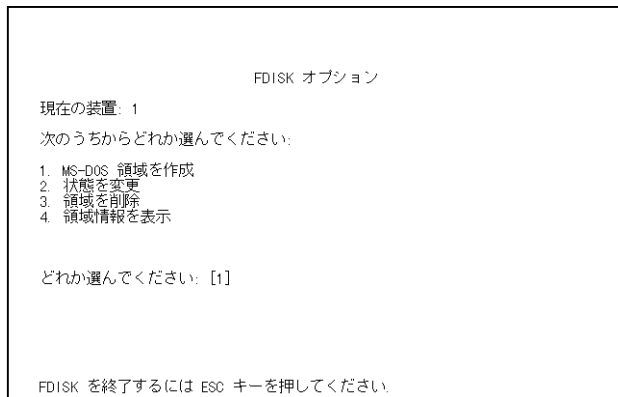
よろしいですか(Y/N).....?

- 10** Y キーを押し、続けて N キーを押す領域が削除されます。
削除したい領域が複数ある場合は、手順9、10を繰り返してください。



システムがセットアップされていた領域は必ず削除してください。それ以外の領域を削除する必要はありません。

- 11** 領域の削除が終了したら、**[ESC]** キーを押して次の「FDISK オプション」画面を表示させる



次に「領域を確保する」に進んでください。

領域を確保する.....

一度削除した領域は、領域を確保する作業が必要になります。領域は削除した領域の容量だけ確保することができます。

ハードディスク内の容量が2Gバイト以下で、すべての領域が削除されていれば、1つの領域として確保することもできます。また、領域は複数に分割することもできます。

例1 最大サイズを割りあてる

- ハードディスクの容量が1000Mバイトある場合

Aドライブ 1000Mバイト

- ハードディスクの容量が3000Mバイトある場合

Aドライブ 2047Mバイト	Bドライブ 953Mバイト
-------------------	------------------



ハードディスクの容量で、MS-DOS 6.2およびWindows 98で確保可能な領域の最大サイズは2047Mバイトです。したがって、内蔵のハードディスクが2047Mバイト以上ある場合は、1つの領域としてハードディスク全体を利用することはできません。

例2 2つの領域に分割する

- ハードディスクの容量が3000Mバイトある場合

Aドライブ 1800Mバイト	Bドライブ 1200Mバイト
-------------------	-------------------



- 再セットアップ中は、フロッピー - ディスクドライブから [Windows 98再セットアップ] を起動しているため、フロッピーディスクドライブがAドライブ、ハードディスクの第1パーティションがBドライブ(以降C、D...)と表示されています。
- ハードディスクを複数に分割した場合、1番目の領域を第1パーティションといいません。

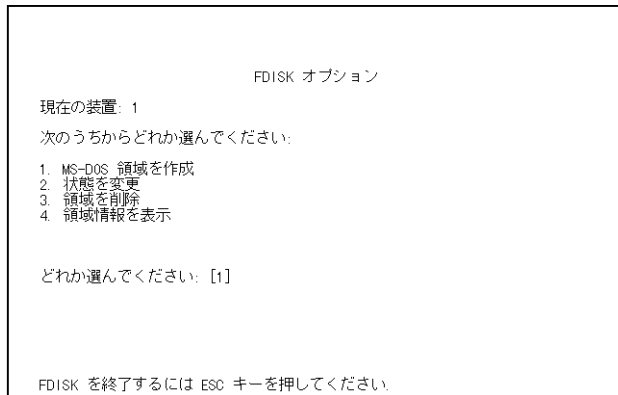


本機では、セットアップ先はAドライブ(第1パーティション)となりますので、購入時の状態に戻すために必要なAドライブのサイズをご確認の上、作業を進めてください。(P.81)

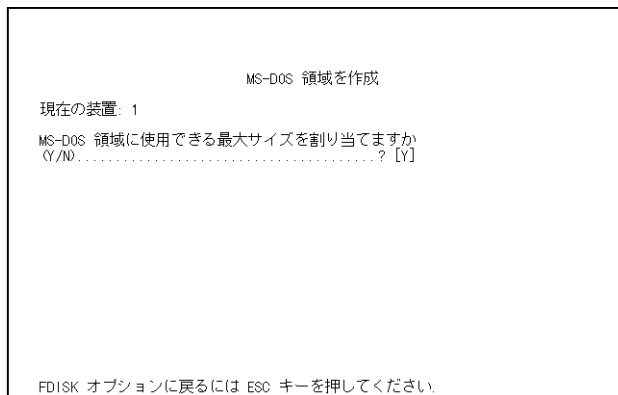
削除した領域に最大のサイズを割りあてる場合には、「最大のサイズを割りあてる」を、複数に分割する場合には、「領域を複数に分割する」をご覧ください。

最大のサイズを割りあてる

- 1** 次の画面が表示されていることを確認し、[1 MS-DOS領域を作成] を選択して キーを押す



- 2** 次の画面が表示されたら、 キーを押して キーを押す



「MS-DOS領域を作成しました」というメッセージが表示されます。

- 3** **[ESC]** キーを押す
[FDISK オプション] の画面が表示されます。



確保すべきハードディスクの容量が2047Mバイト以上ある場合は、**[ESC]** キーを押して、手順1～3をくり返して、残りの容量を確保することもできます。

- 4** [2 状態を変更] を選択して **[↵]** キーを押す

- 5** 変更したい領域の番号を入力して、**[↵]** キーを押す



ハードディスクの第1パーティションの領域は手順6～8の操作を行って、必ずBOOTを「可」にしてください。

- 6** 「1 アクティブ/2 スリープ」と表示されるので、**[1]** キーを押して、**[↵]** キーを押す

- 7** 「システム名を入力してください」と表示されるので、変更がなければ **[↵]** キーを押す
変更したい場合はシステム名を入力し **[↵]** キーを押す

- 8** 「1 B00T可/2 B00T不可」と表示されるので、**[1]** キーを押して、**[↵]** キーを押す
これで、B00Tが「可」になりました。

- 9** **[ESC]** キーを押す
[FDISK オプション] の画面が表示されます。

- 10** [4 領域情報を表示] を選択して **[↵]** キーを押す



- 11** 作成したすべての領域が表示されており、第1パーティションの領域のBOOTが「可」になっていることを確認したら、**[ESC]** キーを押す

領域情報を表示

現在の装置: 1

領域	状態	システム名	M/バイト	システム	使用	BOOT
B: 1	アクティブ	XXXXXXXXXX	XXXX	FAT16	XXX%	可

装置の総容量は XXXX M/バイトです。(1 M/バイト=1048576 バイト)

続けるには ESC キーを押してください。

BOOT
可

「可」になっていることを確認する



お使いのシステムの状況によって、表示される画面の内容は異なります。

- 12** **[FDISK オプション]** の画面が表示されますので、**[ESC]** キーを押す

- 13** 表示されるメッセージをよく読んで、**[ESC]** キーを押す

変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。
変更または作成したドライブは、すべて再起動後にフォーマットする必要があります。

再起動する前に Windows を終了してください。

FDISKを終了するには Esc キーを押してください。

- 14** **[OK]** をクリックするか、**[Enter]** キーを押す

Windows 98 再セットアップ

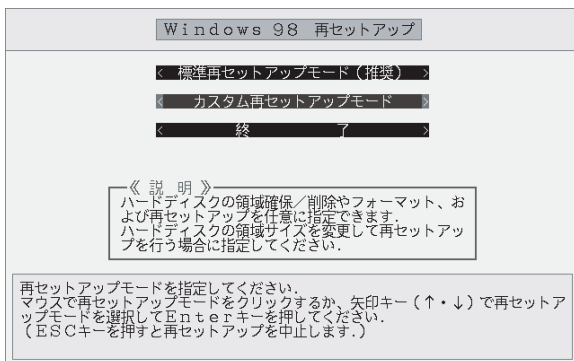
設定を有効にするためにシステムを再起動します。
マウスで < OK > ボタンをクリックするか、Enter キーを押してください。

< OK >

本機が自動的に再起動します。

「再セットアップについて」の画面が表示された場合は、何かキーを押してください。

15 次の手順へ進むため、[カスタム再セットアップモード]を選択して、 キーを押す




これで領域確保は終了しました。

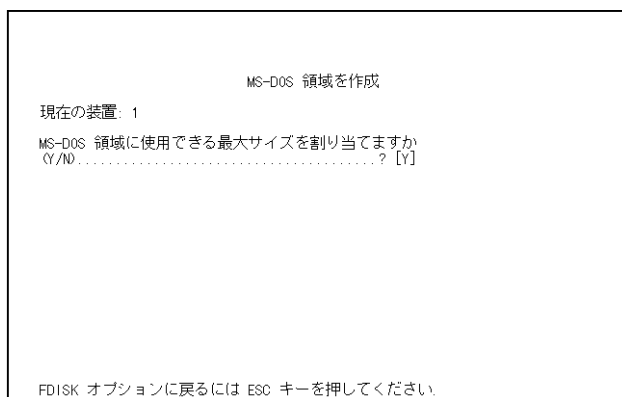
次に「ドライブをフォーマットする」に進んでください。


領域を複数に分割する

ハードディスクの領域は複数に分けることができます。

1 [FDISKオプション]の画面で、[1 MS-DOS領域を作成]を選択して  キーを押す

2 次の画面が表示されたら、 キーを押して  キーを押す



- 3** 「MS-DOS領域を作ります...?」と表示されたら、確保したい領域のサイズを、Mバイト単位または全体に対する割合で入力し、 キーを押す

例 1000Mバイトのハードディスクに、800Mバイトの領域を確保する場合

バイト単位で入力する場合	「800」と入力
全体に対する割合で入力する場合	「80%」と入力






ハードディスクの容量で、MS-DOS 6.2およびWindows 98で確保可能な領域の最大サイズは2047Mバイトです。










領域を確保する際には、システムを再セットアップするために必要なシステム領域のサイズを「必要なハードディスクの空き容量」(P.81)で確認してください。

手順3を繰り返して、複数の領域を確保します。

- 4** 領域の作成が終了した後、 キーを押す
[FDISKオプション]の画面が表示されます。
- 5** [2 状態を変更]を選択して  キーを押す
- 6** 変更したい領域の番号を入力して、 キーを押す

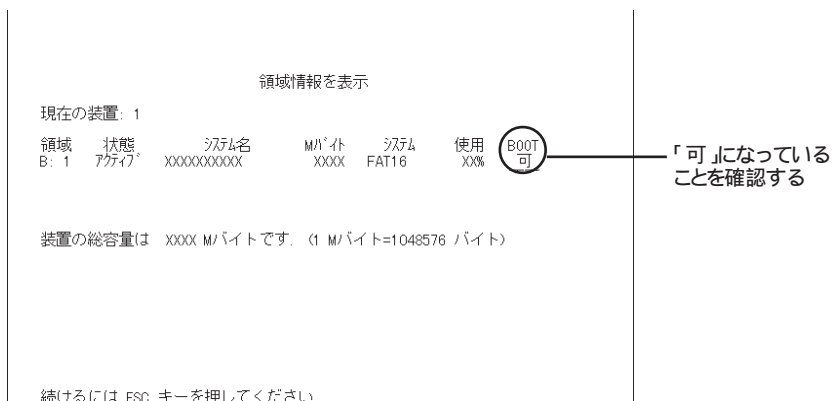


ハードディスクの第1パーティションの領域は7～9の操作を行って、必ずBOOTを「可」にしてください。

- 7** 「1 アクティブ/2 スリープ」と表示されるので、 キーを押して、 キーを押す
- 8** 「システム名を入力してください」と表示されるので、変更がなければ  キーを押す
変更したい場合はシステム名を入力し  キーを押す
- 9** 「1 B00T可/2 B00T不可」と表示されるので、 キーを押して、 キーを押す
これで、BOOTが「可」になりました。
- 10**  キーを押す
[FDISKオプション]の画面が表示されます。

11 [4. 領域情報を表示] を選択して  キーを押す

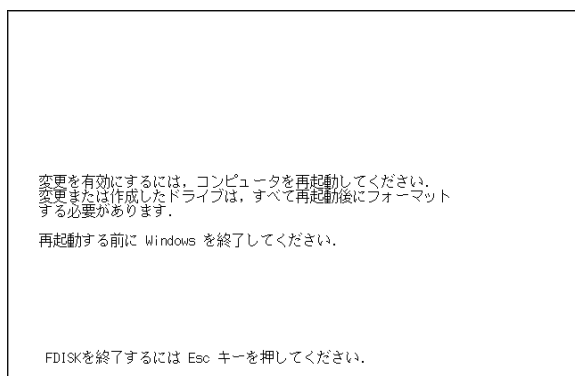
12 削除したすべての領域が作成されており、第1パーティションの領域のBOOTが「可」になっていることを確認したら、**[ESC]** キーを押す



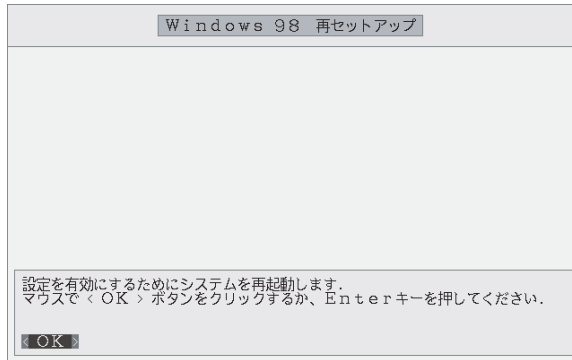
お使いのシステムの状態によって、表示される画面の内容は異なります。

13 [FDISK オプション] の画面が表示されますので、**[ESC]** キーを押す

14 表示されるメッセージをよく読んで、**[ESC]** キーを押す



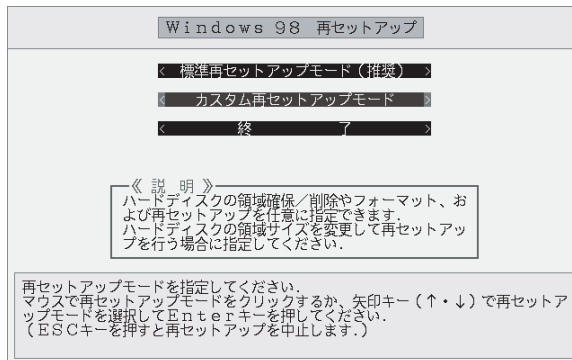
15 [OK] をクリックするか、[Enter] キーを押す



本機が自動的に再起動します。

「再セットアップについて」の画面が表示された場合は、何かキーを押してください。

16 次の手順へ進むため、[カスタム再セットアップモード] を選択して、[Enter] キーを押す



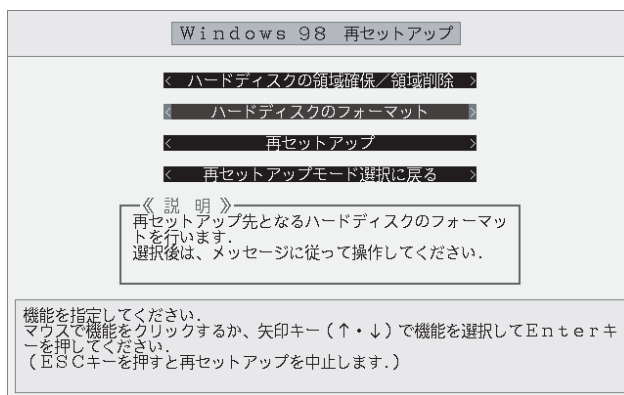
これで領域確保は終了しました。

次に「ドライブをフォーマットする」に進んでください。

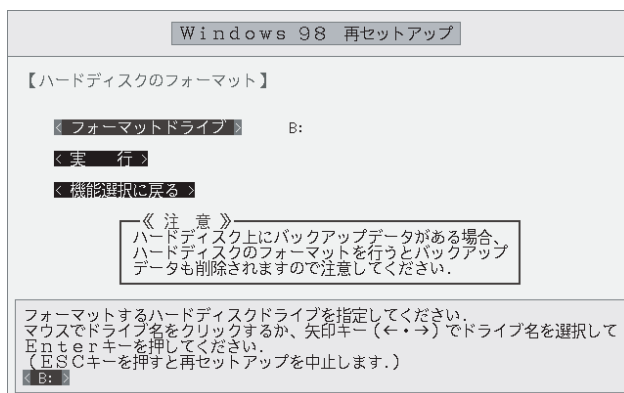
ドライブをフォーマットする.....

新しく確保しなおした領域はフォーマットの作業が必要です。

- 1 次の画面が表示されたら、[ハードディスクのフォーマット]を選択して、 キーを押す



- 2 フォーマットするドライブを選択して  キーを押す



ハードディスクの1番目のドライブ(B:)は、ここで必ずフォーマットしてください。

- 3 [実行]を選択して  キーを押す



4 「注意! ドライブB: の固定ディスクのデータはすべてなくなります。フォーマットしますか(Y/N)?」と表示されたら、**[Y]**キーを押して **[↵]** キーを押す

フォーマットには、5分程度かかります(フォーマットを行うドライブのサイズなどにより、多少異なります)

ドライブのフォーマットが終了すると、次のメッセージが表示されます。

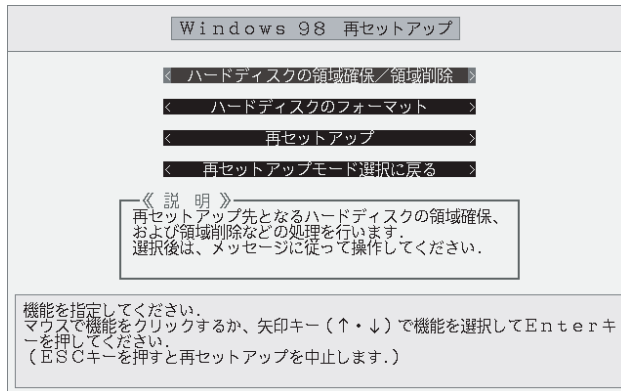
ボリュームラベルを入力してください。
半角で11文字、全角で5文字以内
必要なければ、Enterキーを押してください。

必要であれば、「ボリュームラベル」を入力し、**[↵]** キーを押してください。
必要なければ、**[↵]** キーを押してください。



「ボリュームラベル」は再セットアップ後にも設定できます。

「ボリュームラベル」は、[マイコンピュータ]や[エクスプローラ]でハードディスクの名前として表示されます。



新しく領域を作成しなおしたドライブがある場合は、手順1~4を繰り返してフォーマットしてください。



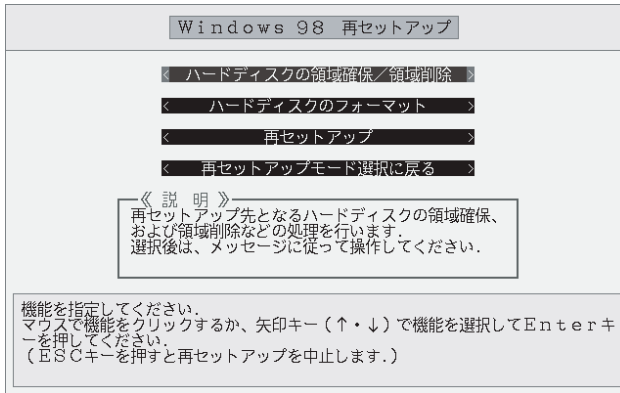
「領域を削除する」で領域の削除をしなかったドライブについては、フォーマットの作業は必要ありません。領域の削除をしなかったドライブをフォーマットすると、ハードディスクのデータがすべて失われるのでご注意ください。

次に「システムを再セットアップする」に進んでください。

システムを再セットアップする.....

ここからは、実際にハードディスクにシステムを再セットアップしていきます。


- 1 画面が次の画面になっていて、フロッピーディスクドライブに「システムインストールディスク」がセットされていることを確認する



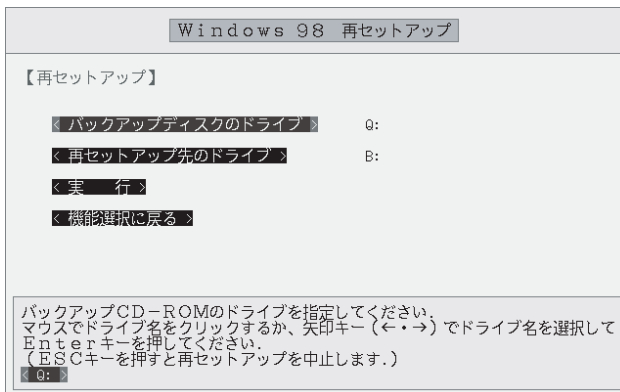
- 2 CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM」をセットする



CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする方法やCD-ROMドライブから取り出す方法については、『ステップアップガイド』をご覧ください。

- 3 [再セットアップ] を選択して  キーを押す

- 4 バックアップディスクのドライブに「Q:」、再セットアップ先のドライブに「B:」と表示されていることを確認する





再セットアップ先のドライブは、必ずハードディスクの1番目のドライブ(B:)を選択してください。

この状態では、フロッピーディスクドライブがAドライブになっているので、ハードディスクの第1パーティションはBドライブとなります。

5 [実行] を選択して キーを押す

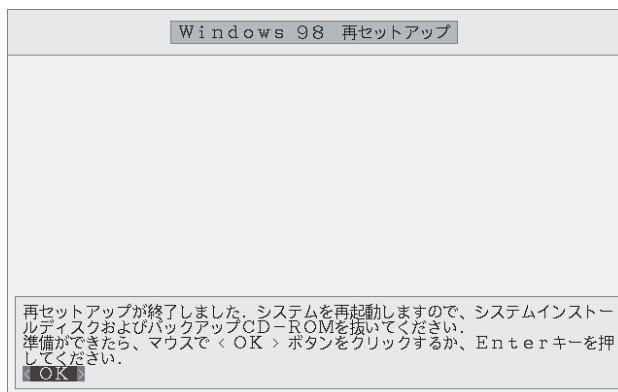
システムの再セットアップがはじまります。システムの再セットアップには、20～60分程度かかります。



- ・システムの再セットアップ中は、画面からの指示がない限り、CD-ROMを取り出したり、フロッピーディスクを取り出したりしないでください。また、電源スイッチを押したりしないでください。
- ・再セットアップ中に数回ビープ音が鳴りますが、問題ありませんので無視してください。

システムの再セットアップの途中でフロッピーディスクを入れ替えるメッセージが表示される場合は、画面の指示にしたがってフロッピーディスクを入れ替えてください。


システムの再セットアップが終了すると次の画面が表示されます。



6 フロッピーディスクドライブから「システムインストールディスク」を、CD-ROMドライブから「バックアップCD-ROM」を取り出す

7 [OK] をクリックするか、 キーを押す



「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動した場合は、そのまま  キーを押してください。

自動的にシステムが再起動し、しばらくすると Windows 98へようこそ 画面が表示されます。

次に「Windows 98の設定をする」に進んでください。


Windows 98の設定をする

ここで行う操作は、はじめて本機を使ったときの操作『はじめにお読みください』と同じ操作です。

- 1 「Windows 98 へようこそ」の画面が表示されたら、キーボードを使って「名前」と「ふりがな」を入力し、「次へ」ボタンをクリック



- ・ 名前を入力しないと、次の操作に進むことはできません。ここで入力した名前、ふりがなは再セットアップが完了した後は変更できません。変更するには、再セットアップが必要です。
- ・ 「次へ」などのボタンは画面の右下に隠れています。マウスでスクロールバーを操作してください。

- 2 「Windows ユーザー使用許諾契約」の画面を確認する
 をクリックするか、キーボードの【PageDown】を押すと、「契約書」の下の方を読むことができます。

- 3 「同意する」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
(同意しない場合、セットアップは続行できません)

- 4 「セットアップの完了」の画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリック

Windows 98のデスクトップ画面が表示されます。

他のOSを利用する

Windows 3.1、MS-DOSやOS/2など、別売のOSを本機で利用するために必要な知識や注意事項について説明しています。

MS-DOSを利用する

Windows 3.1を利用する

Windows NTを利用する

Windows 2000を利用する

OS/2を利用する

NetWareを利用する

その他のソフトウェアを利用する

Windows 98とWindows 98以外のOSを ご利用になる際の注意

Windows 98以外のOSを同時にご利用になる場合は、Windows 98がインストールされている領域とは別の領域に、インストールを行ってください。インストールやアップグレードを行う際にはMS-DOSに関する知識が必要となります。MS-DOSに添付されているマニュアルをよくお読みの上、ご利用ください。

MS-DOSを利用する

本機で別売のMS-DOSを利用する場合に必要なアップグレードの手順について説明します。

また、アップグレードしたことにより、利用できる機能についても説明します。

MS-DOS 6.2の利用.....

本機では、以下のMS-DOSがお使いになれます。

- ・ MS-DOS 6.2基本機能セット (以降、MS-DOS 6.2)

次に、これら別売のMS-DOSを利用する場合に必要なアップグレードの手順について説明します。



- ・ Windows 98がインストールされている領域およびMS-DOSをインストールする領域が圧縮されている場合は、その領域を展開してからインストールやアップグレードを行ってください。
- ・ Windows 98がインストールされている領域を解放して、MS-DOSをインストールする場合は、領域を解放する前に作業が必要となります。後述の「参考 Windows 98の領域を解放してMS-DOSをインストールする」をご覧ください。また、Windows 98がインストールされている領域がMS-DOSから認識できない場合も、同様の手順に従ってアップグレードしてください。なお、MS-DOS 6.2以外のソフトウェアをアップグレードする場合は、Windows 98の領域を解放しないでください。

MS-DOS 6.2のアップグレード

本機で別売のMS-DOS 6.2を利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

- (1) アップグレードモジュールの複製
- (2) システムディスクの複製
- (3) 複製したシステムディスクのアップグレード
- (4) MS-DOSのインストール
- (5) インストールしたMS-DOSのアップグレード

(1) アップグレードモジュールの複製

ここでは、アップグレードに必要なモジュールをCD-ROMからハードディスクへコピーする手順を説明します。

アップグレード作業の前に、必ずこの作業を行ってください。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)

- 1** 本機の電源をONにしてWindows 98を起動する
- 2** [スタート]メニューから[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]をクリック
- 3** カレントディレクトリがWindows 98がインストールされているドライブのルートディレクトリでない場合は、コマンドプロンプトから次のように入力する

CD ¥[↵]
- 4** 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
- 5** コマンドプロンプトから次のように入力し、Windows 98がインストールされているドライブに¥DOS62ディレクトリを作成し、アップグレードに必要なファイルをCD-ROMからコピーする

MD <Windows 98ドライブ名>:¥DOS62[↵]
COPY <CD-ROMドライブ名>:¥DOS62¥*.* <Windows 98ドライブ名>:¥DOS62[↵]
- 6** コマンドプロンプトから次のように入力し、[MS-DOSプロンプト]を終了させる

EXIT[↵]
- 7** Windows 98を終了し、本機の電源を切る

(2) システムディスクの複製

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ MS-DOS 6.2 システムディスク(別売)

- ・ 2HDフロッピーディスク:1枚

2HDフロッピーディスクには、あらかじめ「アップグレード済みシステムディスク#1」と書いたラベルを貼っておいてください。



Windows 98の領域を解放して、MS-DOSをインストールする場合は、別途フロッピーディスクが必要となります。その際は指示にしたがって用意してください。詳しくは後述の「参考 Windows 98の領域を解放してMS-DOSをインストールする」をご覧ください。

はじめに、「MS-DOS 6.2 システムディスク#1」に対してアップグレードを行います。アップグレードによりシステムディスクの内容を書き換えますので、必ずシステムディスクの複製を作成し、複製に対してアップグレードを行ってください。オリジナルのシステムディスクは大切に保存しておいてください。

1 本機の電源を入れたら、キーボードの **[CTRL]** キーを押し続けWindows 98起動メニューを表示させる

2 Windows 98起動メニューから「コマンドプロンプトのみ」を選択する
システムディスクのアップグレードが終了するまでは、起動したコマンドプロンプトのまま続けて作業してください。

3 あらかじめ用意しておいた「アップグレード済みシステムディスク#1」をフロッピーディスクドライブにセット後、コマンドプロンプトから次のように入力し、1.25Mバイトでフォーマットする

```
FORMAT <フロッピーディスクドライブ名>: /U /M 
```

4 DISKCOPYコマンドを使って「システムディスク#1」の複製を作成する
複製はあらかじめ用意した「アップグレード済みシステムディスク#1」に作成します。
DISKCOPYコマンドの使用方法はコマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

```
DISKCOPY /? 
```

(3) 複製したシステムディスクのアップグレード

引き続き、複製したシステムディスク「アップグレード済みシステムディスク#1」に対してアップグレードを行います。

- 1** フロッピーディスクドライブに「アップグレード済みシステムディスク#1」をセットする
- 2** コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードを実行する

```
CD    ¥DOS62 [F1]
UPDOS62 <フロッピーディスクドライブ名> : [F1]
```

(4) MS-DOSのインストール

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使って、ハードディスクまたはフロッピーディスクへのインストールを行います。

MS-DOSのインストール方法については、別売のMS-DOS 6.2 に添付のマニュアルをご覧ください。

なお、MS-DOS6.2をハードディスクにインストールする場合は、必ず20MB以上の容量を確保し、MS-DOS6.2のすべての機能をインストールしてください。



MS-DOS6.2に添付されているWindowsモジュールは、Windows98およびWindows NTではご利用になれません。

なお、Windows3.1でMS-DOS6.2のWindowsモジュールをご利用になる場合は、MS-DOS6.2とWindows3.1のアップグレードをすべて終了してから、INSTWINコマンドを使ってWindowsモジュールをインストールしてください。INSTWINコマンドについては、MS-DOS6.2に添付の「インストールガイド」をご覧ください。



「アップグレード済みシステムディスク#1」はこのディスクを作成した環境でのみ使用できます。CD-ROMドライブなどのハードウェア構成を変更すると、正常にMS-DOSをインストールできない場合があります。そのような場合は、最初からアップグレードをやりなおしてください。

(5) インストールしたMS-DOSのアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOSを、再度アップグレードします。

1 MS-DOSをインストールしたハードディスク、またはフロッピーディスクから起動する
DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの[F3]キーを押して終了してください。

2 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをWindows 98がインストールされているハードディスクのドライブに変更する

ドライブ名 にはWindows 98のドライブを指定してください。

<ドライブ名> : [F] ↵

3 コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントディレクトリを変更した後、アップグレードを実行する

ドライブ名 にはMS-DOSをインストールしたドライブを指定します。
ハードディスクにインストールした場合はディレクトリ名も指定してください。

・ フロッピーディスクにインストールした場合

CD ¥DOS62 [F] ↵

UPDOS62 <フロッピーディスクドライブ名> : [F] ↵

・ ハードディスクにインストールした場合

CD ¥DOS62 [F] ↵

UPDOS62 <ドライブ名> : ¥ <ディレクトリ名> [F] ↵

4 アップグレードが終了したら、再起動する
アップグレードしたMS-DOSをお使いください。

参考 Windows 98の領域を解放してMS-DOSをインストールする
ここではWindows 98がインストールされている領域を解放して別売のMS-DOS 6.2をインストールする場合の手順について説明します。

別売のMS-DOS 6.2をWindows 98がインストールされている領域を解放してインストールするには、必ず次の手順で行ってください。

1. システムディスクの複製

アップグレードに必要なファイルのバックアップを行います。

以下の手順では、MS-DOSでフォーマット済みの2HDフロッピーディスクが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- ・MS-DOS 6.2をインストールする場合:2枚

次に手順を説明します。

- 1 「MS-DOS 6.2 のアップグレード」の「(1)アップグレードモジュールの複製」から「(3)複製したシステムディスクのアップグレード」の手順を行う
- 2 フロッピーディスクドライブに用意したフロッピーディスクをセットし、コマンドプロンプトから次のように入力する
画面の指示にしたがってフロッピーディスクを入れ替えてください。

```
CD ¥DOS62 [F5]  
FBACK62 <フロッピーディスクドライブ名> : [F5]
```

メッセージに従って、作成したフロッピーディスクにラベルを貼ります。

- 3 「MS-DOS 6.2 のアップグレード」の「(4)MS-DOSのインストール」を行う

2. インストールしたMS-DOSのアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOSを、再度アップグレードします。

- 1** MS-DOSをインストールしたハードディスクから起動する
DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの[F3]キーを押して終了させます。
- 2** フロッピーディスクドライブに「参考 Windows 98の領域を解放してMS-DOSをインストールする」の「1. システムディスクの複製」の手順2で作成した「バックアップディスク#1」をセットする
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブを「バックアップディスク#1」をセットしたドライブに変更して、アップグレードに必要なファイルをハードディスクにリストアする
ドライブ名 にはMS-DOSをインストールしたハードディスクのドライブ名を入力します。

 <フロッピーディスクドライブ名> :
 FBACK62 <ドライブ名> :
 <ドライブ名> :
- 4** 以降は、「MS-DOS 6.2 のアップグレード」の「(5) インストールしたMS-DOSのアップグレード」の手順3以降を実行する

MS-DOS 6.2での複数台CD-ROMドライブの利用

ここでは別売の「MS-DOS 6.2」上でCD-ROMドライブを複数台同時に使用する場合に必要となる設定方法や注意事項を説明します。



次のCD-ROMドライブを接続している場合は、複数台接続の設定はできません。

- PC-ODX
- PC-CD800
- PC-CD60/7
- PC-CD400D/4
- PC-ODXD
- PC-ODX66
- NEC製以外のCD-ROMドライブ



MS-DOS 6.2上で接続できるCD-ROMドライブはSCSI接続が4台まで、本体内蔵の専用インターフェイス接続が1台までで、合計最大5台までです。

CD-ROMドライブの複数台接続の設定

CD-ROMドライブの複数台接続の設定は、INSTCDコマンドを使用して行います。INSTCDコマンドは、起動ドライブのCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルにCD-ROMの複数台接続の設定を自動的に行います。INSTCDコマンドを使用するには、次の条件が全て満たされている必要があります。

- 1台目のCD-ROMドライブが使用可能な設定になっている。
- ハードディスクにインストールされているMS-DOS 6.2から起動している。
- MS-DOS 6.2がインストールされているディレクトリが、環境変数DOSDIRに正しく設定されている。
- AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「L:」で指定したドライブ番号が、増設するCD-ROMドライブのドライブ番号を連続して確保できる設定になっている。

INSTCDコマンドを実行するには、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
INSTCD [d]
```



INSTCDコマンドはWindowsのMS-DOSプロンプトおよびDOSシェルからは実行できません。



ネットワークドライブが存在する場合や、SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが存在する場合、INSTCDコマンド実行後に以下の現象が起こることがあります。

- ・ ネットワークドライブが使用できなくなる
- ・ SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが使用できなくなる
- ・ CD-ROMドライブが使用できなくなる

このような場合は、次の手順でCD-ROMドライブの接続設定を再度行くと、従来の環境どおりにご利用になれます。

INSTCDコマンドでCD-ROMドライブの接続設定を行う。

SEDITなどのエディタを使用して、ネットワークドライブや仮想ドライブのドライブ指定やAUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」のドライブ指定を他のドライブの割り当てと重複しないよう変更する。

CD-ROMドライブの複数台接続の解除

CD-ROMドライブの複数台接続の設定を解除するには、次の手順で行ってください。

- 1** SEDITなどのエディタを使用して、CONFIG.SYSファイルおよびAUTOEXEC.BATファイルのCD-ROMの設定行の先頭に、すべて「REM」を追記して、CD-ROMドライブの接続設定を無効にする

例 <CONFIG.SYSファイル>

```
REM DEVICE = A: ¥DOS¥NECCD.SYS /D:CD_101  
REM DEVICE = A: ¥DOS¥NECCDB.SYS /D:CD_B
```

<AUTOEXEC.BATファイル>

```
REM A: ¥DOS¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q /D:CD_B
```

- 2** 本機を再起動する
- 3** CUSTOMコマンドで、再度標準装備されているCD-ROMの設定を行う

- 4** SEDITなどのエディタを使用して、AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」にドライブ名を指定する

例 CD-ROMドライブをQドライブに設定する

```
A: ¥DOS¥MSCDEX /D:CD_101 /L:Q
```

- 5** 本機を再起動する
CD-ROMドライブの複数台接続が解除されます。

複数台接続時のCD-ROMアプリケーション使用上のご注意

- ・ CD-ROMアプリケーションを使用する場合、複数台のCD-ROMドライブのうち先頭以外のドライブにCD-ROMをセットすると、正常に動作しないものがあります。この場合には、CD-ROMアプリケーションを先頭のCD-ROMドライブにセットしなおしてお使いください。
- ・ CD-ROMアプリケーションによっては、CD-ROMドライブが複数割り当てられた状態では動作しないものがあります。この場合には、接続しているCD-ROMドライブを1台にするなど、CD-ROMドライブが1台しか割り当てられていない状態にしてください。

MS-DOS 6.2の強化機能

MS-DOS 6.2をアップグレードしたことにより、本機で使用できる強化機能は次のとおりです。

POWER コマンド

POWERコマンドは、MS-DOSシステムやアプリケーションソフトの動作を監視して、本機をパワーセーブ(消費電力制御)状態にします。

POWERコマンドを使用することで、MS-DOSシステムレベルでのパワーセーブが可能になります。



本体の「省電力の設定」メニューに「CPU自動停止」の設定がある場合は「設定しない」にてご使用ください。「省電力の設定」については『ステップアップガイド』をご覧ください。

・ POWER コマンドの組み込み

POWERコマンドを使用するには、CONFIG.SYSファイルに次の一行を追加して本機を再起動します。

```
DEVICE=A : ¥DOS¥POWER.EXE
```

POWERコマンドは、UMBメモリに十分な空き容量が存在する場合、組み込み時に自動的にUMBメモリを利用します。

また、POWERコマンドには次のようなスイッチがあります。

```
DEVICE=A : ¥DOS¥POWER.EXE [ADV [ : MAX|REG|MIN ]STD|OFF I /LOW ]
```

ADV[: MAX | REG | MIN]

アプリケーションソフトやハードウェアのアイドル(何もしていない時間)を検出して、本機をパワーセーブ動作状態にします。MIN、REG、MAXの順にパワーセーブされる度合いが高くなりますが、本機の動作速度が遅くなる可能性も大きくなります。動作速度に問題が発生する場合は、MINを指定してください。これらの指定を省略した場合は、REG指定の状態で作動します。

STD POWERコマンドの機能を無効にします。本体に省電力機能がある場合は設定された値を有効にします。

OFF POWERコマンドの機能を無効にします。本体に省電力機能がある場合は設定された値を無効にします。

/LOW UMBメモリに十分な空き容量がある場合でも、UMBメモリを使用しません。



POWERコマンドは、ADDDRVコマンドでは組み込まないでください。

・POWERコマンドの動作の変更

POWERコマンド組み込み後に動作の設定を変更する場合は、コマンドラインから次のように指定します。スイッチの内容は組み込み時と同様です。

```
POWER [ADV [ : MAX|REG|MIN ] STD|OFF ] 
```



POWERコマンドを組み込んでいない場合、コマンドラインからの設定変更はできません。

MAXLINK-LITE

ここでは、MS-DOS 6.2に添付されているマニュアルに記述されている「MAXLINK LITE」の補足事項を説明します。

MAXLINK-LITEは最大115.2Kbpsでの高速通信に対応しています。

・MAXLINK.DRVのスイッチ

MAXLINK.DRVのスイッチは次のとおりです。

```
DEVICE=A: ¥DOS¥MAXLINK.DRV [ /1|/2|/3 I /W I /E ]
```

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /W 相手機のMAXLINKコマンドが実行されるまで待機します。
- /E 相手機のドライブをすべて交換可能なドライブとして処理します。

・MAXLINK.EXEのスイッチ

MAXLINK.EXEのスイッチは次のとおりです。

```
MAXLINK [ /1|/2|/3 I /S0|/S5|/S3|/S1|/S9|/S4 ]
```

- /1 本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)
- /2 拡張RS-232C第2回線を使用します。
- /3 拡張RS-232C第3回線を使用します。
- /S0 転送速度を115200bpsに設定します。

- /S5 転送速度を57600bpsに設定します。
- /S3 転送速度を38400bpsに設定します。
- /S1 転送速度を19200bpsに設定します。
- /S9 転送速度を9600bpsに設定します(デフォルトの値)
- /S4 転送速度を4800bpsに設定します。

高分解能クロックデバイス

HRTIMER.SYSは、MS-DOSで1/100秒単位での時刻の取得/設定を行う場合に使用する高分解能クロックデバイスです。

・HRTIMER.SYSの組み込み

高分解能クロックデバイスを使用するにはCONFIG.SYSファイルに次のような一行を追加して本機を再起動します。

```
DEVICE=A:¥DOS¥HRTIMER.SYS
```



・ HRTIMER.SYSは、ADDRVコマンドを使用して組み込まないでください。

また、オンラインヘルプの注意事項も必ずお読みください。

固定ディスク起動メニュープログラムについて

本機の固定ディスク起動メニューで自動起動の設定/解除を行うには、キーボードの **[F1]** キーを使用します。

固定ディスク起動メニュープログラムについて、詳しくは付録の「固定ディスク起動メニューの利用」または、MS-DOSのマニュアルをご覧ください。

Windows 3.1を利用する

本機でWindows 3.1を利用する場合やアップグレードの手順について説明します。また、アップグレードしたことにより、利用できる機能についても説明します。

Windows 3.1の利用.....

本機でMicrosoft Windows 3.1(以降、Windows 3.1)を利用するには、次の手順で、アップグレードや表示解像度、サウンド機能の設定を行ってください。また、本機で利用できるWindows 3.1の強化機能についても説明しています。

アップグレードでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)

Windows 3.1のアップグレード

本機で別売のWindows 3.1を利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

- 1** Windows 3.1をハードディスクドライブにインストールする
Windows 3.1のインストール方法は、Windows 3.1の添付マニュアルの『お使いになる前に』をご覧ください。
- 2** インストール途中でセットアップ方法を選択する画面が表示されたら、[カスタムセットアップ]を選択する



セットアップの際に、[入門セットアップ]や[標準セットアップ]を選択すると、自動的に解像度が選択されますので、これらのセットアップ方法は選択しないでください。

- 3** システムのハードウェア、ソフトウェア構成を選択する画面が表示されたら、ディスプレイの項目で[640×400 16色 12ドット]または、[640×400 16色 16ドット]を選択する



[スワップファイルの設定] ダイアログボックスで [BIOSを経由しないでスワップファイルを利用] に × 印がついている (選択されている) 場合、マウスでこのチェックボックスをクリックするなどして、× 印を消してください。

また、Windows 3.1をインストール、アップグレードした後も、このチェックボックスは選択しないでください。

選択した状態でWindows 3.1をインストールする、またはWindows 3.1を使用すると、正常に動作しない場合があります。

[アプリケーションの登録] ダイアログボックスの [検索するパスかドライブ] で、WindowsNTのインストールされている領域を選択しないでください。

-
- 4** Windows 3.1のインストールが終了したら、一度電源を切る
 - 5** 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動する
Windows 3.1が起動した場合には、終了して、MS-DOS画面にしてください。
 - 6** 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
 - 7** コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをCD-ROMドライブの「WIN31」ディレクトリに変更する

 <CD-ROMドライブ名> :
 CD ¥WIN31
 - 8** コマンドプロンプトから次のように入力して、Windows3.1をアップグレードする
 <ドライブ名>、<ディレクトリ名> にはWindows3.1をインストールしたドライブとディレクトリを入力します。

 UPWIN <ドライブ名> : ¥<ディレクトリ名>
 - 9** アップグレードを終了後、本機を再起動する
 - 10** Windows3.1が起動後、「WIN.INI」ファイルを修正する
 [プログラムマネージャ] の [アイコン] - [ファイル名を指定して実行] を選択し、以下のように入力します。

 notepad <ドライブ名> : ¥windows¥win.ini

 <ドライブ名> には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。



11 [メモ帳]が起動したら、「WIN.INI」ファイルを以下のように修正する

```
[ windows ]
.
.
load = <AP名の並び> wspowoff.exe
.
.
```

このファイル名を追加します。

<AP名の並び> は元々記述されていた実行ファイル名の並びを示しています。

12 [ファイル]-[上書き保存]をクリックして修正内容を保存した後、[メモ帳]を終了させる

13 「SYSTEM.INI」ファイルを修正する [プログラムマネージャ]の[アイコン]-[ファイル名を指定して実行]を選択し、以下のように入力します。

```
notepad <ドライブ名> :¥windows¥system.ini
```

<ドライブ名>には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。

14 [メモ帳]が起動したら、「SYSTEM.INI」ファイルに以下の行を追加する

```
[ 386Enh ]
.
.
device=vpowwach.386
```

この行を追加

15 [ファイル]-[上書き保存]をクリックして修正内容を保存した後、[メモ帳]を終了させる

16 Windows 3.1を再起動する

表示解像度の設定

本機はウィンドウアクセラレータを内蔵しています。内蔵のウィンドウアクセラレータに対応したディスプレイドライバを使用することで、高解像度、多色表示を利用できます。

解像度の種類

本機内蔵のウィンドウアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

解像度	表示色
640×480	26万色中256色
640×480	6万5千色
640×480	1677万色
800×600	26万色中256色
800×600	6万5千色
800×600	1677万色
1024×768	26万色中256色
1024×768	6万5千色
1280×1024	26万色中256色

ディスプレイドライバの組み込み

MS-DOSのコマンドプロンプトから、Windows ディレクトリのSETUPコマンドを起動して、ディスプレイドライバを組み込みます。

ディスプレイドライバを組み込む方法の詳細は、『Microsoft Windows 3.1 機能ガイド』の「第14章 セットアップによるWindowsの利用環境の変更」をご覧ください。

マイクロソフト社製Microsoft Windows 3.1で内蔵ウィンドウアクセラレータを使用する場合の注意

マイクロソフト社製Windows 3.1のSETUPコマンド実行時のディスプレイの項目で、内蔵アクセラレータボード対応のドライバを選択した場合、フロッピーディスクを差し替える旨のメッセージが表示されます。このとき、指定のフロッピーディスクをセットしてもセットアップを継続できない場合は、次のフロッピーディスクと差し替えてください。

画面のメッセージ	セットするフロッピーディスク (マイクロソフト社製の場合)
Microsoft Windows 3.1 DISK #1	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #3	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #8	Windowsディスク #4
Microsoft Windows 3.1 DISK #11	Windowsディスク #9

サウンド機能の設定

ここでは、Windows 3.1でのサウンド機能の利用方法について説明します。

サウンドドライバの組み込み

次の手順でサウンドドライバを組み込んでください。



次のドライバが組み込まれている場合は、あらかじめ削除してください。

- ・ NECサウンドボード(PC-9801-26K)MIDI
- ・ NECサウンドボード(PC-9801-73)Wave & MIDI
- ・ NECサウンドボード(PC-9801-86)Wave & MIDI

削除の手順は以下のとおりです。

[コントロールパネル]の[ドライバ]をダブルクリックします。

表示されたダイアログボックスで上記のドライバを選択し、[削除]ボタンをクリックし削除します(Windowsの再起動は行わないでください)。

[アクセサリ]グループの[メモ帳]を起動して[SYSTEM.INI]ファイルの次の行を削除します。

```
device=vsbd.386
```

Windowsを終了します。

- 1** Windows 3.1を起動する
- 2** [メイン]グループの[コントロールパネル]アイコンをダブルクリックして、さらに[ドライバ]アイコンをダブルクリック
- 3** [ドライバの設定]ダイアログボックスの[追加]ボタンをクリック
- 4** [一覧にない、または更新されたドライバ]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリック
- 5** [ドライバの組み込み]ダイアログボックスが表示されたら、次のように指定する
 <Windows 98のドライブ名> : ¥WIN31
- 6** [OK]ボタンをクリック
- 7** 「NEC PCM Sound Driver」を選択し、[OK]ボタンをクリック
- 8** [現在のものを使う]をクリック

- 9 組み込みが終了したら、[システム設定の変更]ダイアログボックスで [再起動する] をクリック
- 10 Windows 3.1を再起動する
サウンド機能が使えるようになります。

音量の調節

サウンドの音量調節を行うツールとして、[ボリュームコントロール (VOLUME . EXE)]があります。次の手順で音量調節を行ってください。

- 1 [メイン]グループから[ファイルマネージャ]アイコンをダブルクリック
- 2 WindowsディレクトリのVOLUME . EXEをダブルクリックしてボリュームコントロールユーティリティを起動する
- 3 音量を調整する
ボリュームコントロールユーティリティの使用方法は、[ボリュームコントロール]のヘルプをご覧ください。



ボリュームコントロールユーティリティでは、サウンドボードの音量調節はできません。詳しくは、[ボリュームコントロール]のヘルプをご覧ください。

Windows 3.1の強化機能

Windows 3.1をアップグレードしたことにより、本機で使用できる強化機能は次のとおりです。

19200bpsの通信速度の利用

Windows 3.1上では19200bpsまでの通信速度が利用可能です。利用する際の注意事項は、以下のとおりです。

- ・ RS-232Cでの通信は、CPUなどの通信先のハードウェア性能や利用するアプリケーションソフト、またはマルチタスクで使用しているかなどの条件によって大きく影響されます。このため、19200bpsで安定した通信ができない場合があります。
- ・ Windowsの「アクセサリ」グループにある「イメージスキャナ」で指定できるデータ転送速度は9600bpsまでです。19200bpsでのデータ転送はできません。
- ・ 2nd CCUにモデム等を接続して使用する場合には、使用するアプリケーションで接続するポートの指定をCOM4にしてください。
- ・ COM4のシリアルポートを接続した場合は、75bps、150bpsの通信速度は使用できません。



MS-DOSのSPEEDコマンドとSWITCHコマンドでも、従来の通信速度に加えて19200bpsを指定することができます。指定方法は、他の通信速度と同じですので、MS-DOSのマニュアルをご覧ください。

Windows 3.1で19200bpsの通信速度を利用する場合には、次の設定を行います。

・ シリアルポート(コントロールパネル)

シリアルポートの通信条件を設定する場合に使用します。

- 1 「メイン」グループの「コントロールパネル」をダブルクリックし、さらに「シリアルポート」をダブルクリック
「シリアルポートの設定」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 設定を変更するポートを選択して「設定」ボタンをクリックし、設定を行う
- 3 設定したら、「OK」ボタンをクリックして、「終了」ボタンをクリック

・カードファイル

カードファイルに記入した電話番号に電話をかける場合に使用します。

- 1** [アクセサリ]グループの[カードファイル]をダブルクリックし、[カード]メニューを選択する
- 2** [自動ダイヤル]コマンドを選択する
[自動ダイヤル]ダイアログボックスが表示されます。
- 3** [詳細設定]ボタンをクリックして、設定を行う
- 4** 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[ファイル]メニューから[カードファイルの終了]を選択する

・ターミナル

他のコンピュータと接続して情報交換(パソコン通信など)を行う場合に使用します。

- 1** [アクセサリ]グループの[ターミナル]をダブルクリックし、[設定]メニューを選択する
- 2** [通信条件]コマンドを選択する
- 3** [通信条件の設定]ダイアログボックスで設定を行う
- 4** 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[ファイル]メニューから[ターミナルの終了]を選択する



Windows 3.1の注意事項

スワップファイルを利用する場合のご注意

Windowsをエンハンスドモードで実行する場合、情報を一時的にメモリからハードディスクに移し、メモリの空き容量を確保します。その際、情報をスワップファイルに格納します。

スワップファイルの設定は、コントロールパネルの「エンハンスドモード」アイコンで行います。「スワップファイルの設定」ダイアログボックスの「最大のサイズ」、「望ましいサイズ」に表示される容量はハードディスクの空き容量だけで決定されるわけではありません。

「最大のサイズ」はハードディスクの空き容量に依存しますが、「望ましいサイズ」はコンピュータに実装されているメモリが少ない場合や、Windowsを起動する前に大量のメモリを消費している場合、ハードディスクの空き容量に関係なく、「望ましいサイズ」の容量は増加しません。

「新しいサイズ」には、指定したドライブの空き容量分を確保することができますが、メモリ容量が少ない場合には「望ましいサイズ」以上の値を指定しても、実際には「望ましいサイズ」に表示された容量分のみをスワップファイルとして使用します。

Windows NTを利用する

本機で、Windows NT Workstation 3.51*、Windows NT Server 3.51**（以下、Windows NT 3.51）およびWindows NT Workstation 4.0***、Windows NT Server 4.0****（以下、Windows NT 4.0）を利用する場合、通常のセットアップ以外にいくつかのドライバをアップデートする必要があります。

ここではWindows NTが利用できるまでの手順について説明します。

* Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51

** Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51

*** Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0

**** Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0

Windows NT 3.51の利用.....

本機でWindows NT 3.51をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT 3.51のセットアップ

- ・「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する
- ・Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項
- ・Windows NT 3.51をセットアップする
- ・ドライバをアップデートする

2. 内蔵アクセラレータの利用

3. Windows NT 3.51アップデートサービス Service Pack 5の利用

4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用



・「1. Windows NT 3.51のセットアップ」がすべて終了してから、「2. 内蔵アクセラレータの利用」以降を行ってください。

・本機内蔵ネットワークインターフェイスをお使いの場合は、「4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」を行う必要はありません。

・B4680 NIB-PCIネットワークアダプタを接続してWindows NTをセットアップする場合は、次の手順に変わりますので注意してセットアップを行ってください。

1. Windows NTのセットアップ

- ・「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する
- ・Windows NTをセットアップする前の確認事項
- ・Windows NT 3.51をセットアップする
- ・B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用
- ・ドライバをアップデートする



2. 内蔵アクセラレータの利用
 3. Windows NT 3.51 アップデート サービス Service Pack 5の利用
- ・ ドライバのインストールを行う場合は、Administrator 権限を持ったユーザーで行ってください。
 - ・ 本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他機種では使用しないでください。

セットアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・ 1.44 M バイト フォーマット済みのフロッピーディスク:2枚
(注意:フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。)

これらのフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。
「システム修復ディスク」
「Windows NT 3.51アップデートディスク」

1. Windows NT 3.51のセットアップ

「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する

ここでは、「Windows NT 3.51アップデートディスク」の作成を行います。
「アプリケーションCD-ROM」には Windows NT 3.51のドライバが保存されています。これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。

ここでは、CD-ROMドライブをC、フロッピーディスクドライブをBとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** Windows 98の[スタート]メニューから、[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]をクリックして、MS-DOSプロンプトを起動する
- 2** 用意しておいた「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブに、「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
- 3** MS-DOSプロンプトから次のように入力する


```
C: <Enter>
CD ¥NT351<Enter>
```
- 4** カレントディレクトリが「NT351」であることを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力する
このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロンの「:」は付けしないでください。

```
CDNTUP B <Enter>
```

5 画面の表示に従って、ファイルをコピーする



作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 3.51をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項

Windows NT 3.51セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

・本機の設定について

セキュリティの設定は、すべて「使用しない」または「設定しない」にしてセットアップを行ってください。セキュリティの設定については、『ステップアップガイド』を参照してください。

・オプションボードについて

- ・ B4680 NIB-PCIネットワークアダプタをお使いになる場合、「Windows NT 3.51 アップデートディスク」のネットワークドライバを使用してください。B4680 NIB-PCIネットワークアダプタのセットアップ方法は「4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」をご覧ください。
- ・ プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は本体添付の『ステップアップガイド』や、各ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ PC-9801-107、108 B4680インタフェースボードをお使いの場合、Windows NT 3.51をセットアップする前に、ボードのハードウェア設定を行ってください。設定方法については、ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ PC-9801-107、108 B4680インタフェースボードをお使いになる場合、ボード添付の「ドライバディスク」のドライバを使用してください。

・キーボードについて

- ・ 106 キーボード(PC-9801-116)をお使いの場合は、Windows NT 3.51標準の106 キーボードドライバを使用してください。キーボード添付のドライバは使えません。



Windows NT 3.51をセットアップする

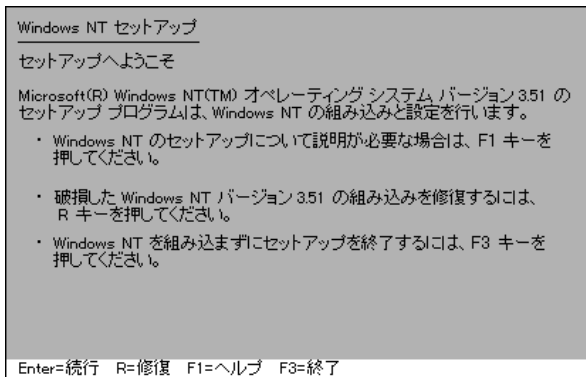
高速セットアップを使って、本機にWindows NT 3.51を新規に組み込む場合について説明します。



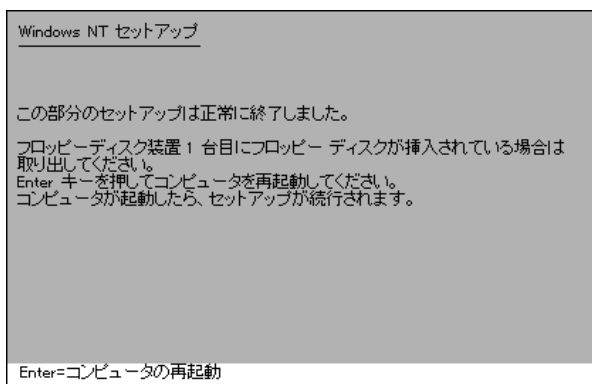
- ・ セットアップは、高速セットアップで行います。
- ・ B4680 NIB-PCI LANアダプタをお使いになる場合は、セットアップはカスタムセットアップで行わなければいけません。B4680 NIB-PCI LANアダプタのセットアップ方法については、「4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」をご覧ください。
- ・ ディスプレイの設定は「解像度 640×400、ノーマルモード 16色」で行ってください。
お使いのWindows NT 3.51によっては、このマニュアルに記載されている画面と異なる場合があります。

ここではセットアップブートディスクを使用したセットアップ手順について説明します。

- 1 「Windows NT 3.51セットアップブートディスク」を、フロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れる
Windows NT 3.51 CD-ROM版をお持ちの場合は、「Windows NT 3.51 セットアップCD-ROM」をCD-ROMドライブに入れておきます。
- 2 画面の指示にしたがって、セットアップディスクを入れ替える
- 3 「Windows NT 3.51 セットアップディスクNo.3」をセットした後で、次の画面が表示されるので、ここでは[続行]を選択する



- 4** セットアップ方式を選択する画面が表示されるので、ここでは、[高速セットアップ] を選択する
認識した大容量記憶装置の一覧が表示されます。
- 5** 画面の指示にしたがって、セットアップディスクを入れ替える
- 6** Windows NT 3.51のセットアップ媒体を選択する画面が表示されたら、ご購入のWindows NT 3.51がCD-ROM版かフロッピーディスク版かを確認して、選択する
- 7** 本機に、その他のWindowsがインストールされている場合、アップグレードするかどうか確認されますが、ここではアップグレードしないでセットアップする
- 8** Windows NT 3.51をインストールするパーティション、ファイルシステム、ディレクトリの設定を行う
ファイルのコピーが自動的に開始されます。
- 9** ファイルのコピー終了後、次の画面が表示されたら、フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して、コンピュータを再起動する



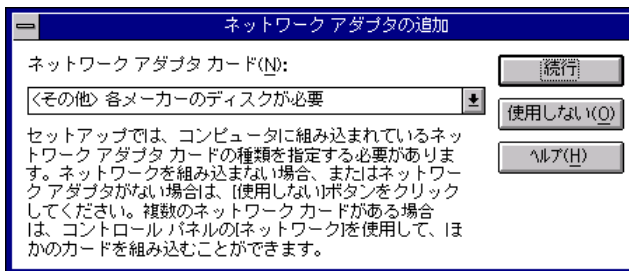
これで、Windows NT 3.51のテキストセットアップは終了しました。続いてグラフィックセットアップを行います。

- 10** グラフィックのセットアップ画面が表示されたら、画面の指示に従って下記の項目について設定を行う
 - ・ 氏名および会社名の登録
 - ・ プロダクト ID の登録
 - ・ セキュリティの役割(ドメイン コントローラとサーバーの役割)
 - ・ ライセンスモードの選択
 - ・ コンピュータ名の登録
 - ・ 各国対応
 - ・ ローカルプリンタのセットアップ



Windows NT Workstation 3.51では、セキュリティの役割、ライセンスモードの設定は出来ません。

- 11 ネットワークアダプタの検出を行う
ここでは、本体内蔵LANアダプタを利用する場合について説明します。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。
- 12 「ネットワークアダプタカードが検出されませんでした」と表示されたら、[続行] ボタンをクリック
- 13 手動でネットワークを組み込むか、リモートのセットアップを行うか確認されるので、[続行] ボタンをクリック
リモートアクセスサービスの設定をする場合は、ここで [リモート] ボタンをクリック
リモートの設定については、Windows NT 3.51のマニュアルを参照してください。
- 14 [ネットワーク アダプタ カード] リストボックスから [<その他> 各メーカーのディスクが必要] を選択し、[続行] ボタンをクリック



- 15 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されるので、「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
フロッピーディスクを入れたドライブのINTELディレクトリを指定して、[OK] ボタンをクリック

C: ¥INTEL
- 16 OEMの一覧から「PC-9821X-B06互換/Intel EtherExpress PRO/100B Adapter」を選択して、[OK] ボタンをクリック
セットアッププログラムがファイルのコピーを行います。
- 17 ファイルコピーが終了すると Adapter Properties(557set) ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリック



ドライバのパラメータを手動で設定する場合は、Windows NT 3.51セットアップ後に行います。パラメータを手動設定、パラメータの詳細い設定については、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のINTELディレクトリにあるREADME.TXTを参照してください。

18 ネットワークの設定を行う

画面の指示にしたがってネットワークの設定を行ってください。

ネットワークの設定については、Windows NT 3.51のマニュアルを参照するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

ネットワークに関する Windows NT 3.51のファイルをコピーします。

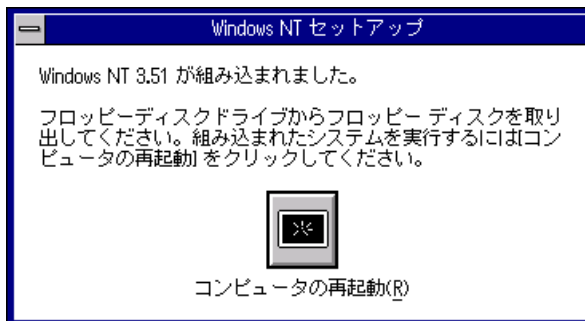
19 アカウント/日付時刻の設定/ディスプレイの設定を行う

画面の指示に従って下記の項目について設定します。

- ・ドメイン/ワークグループの設定
- ・管理者アカウントの設定
- ・ローカルアカウントの設定
- ・日付、時刻および時間帯の設定
- ・ディスプレイの設定(確認のみ)

20 構成情報の保存後、「システム修復ディスク」の作成を行います。用意しておいたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして[はい]ボタンをクリック

21 「システム修復ディスク」の作成が終了すると、Windows NT 3.51セットアップは終了です。フロッピーディスクドライブから、「システム修復ディスク」を取り出して[コンピュータの再起動]ボタンをクリック



Windows NT 3.51本体のセットアップは終了しました。ファイルシステムとしてNTFS を選択した場合は最初のシステム起動でファイルシステムの変換を行い、その後自動起動します。

Windows NT 3.51のセットアップ終了後、「ドライバをアップデートする」に進んでください。



Windows NT 3.51セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、**[TAB]**キーを押しながら本機の電源を入れると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。

ドライバをアップデートする

Windows NT 3.51のドライバをアップデートします。「Windows NT 3.51アップデートディスク」には、本機の機能を有効にお使いいただくため、Windows NT 3.51のドライバが添付されています。ここでは、アップデートの手順について説明します。



ドライバをアップデートする前に、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」を参照してください。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピー ディスクドライブにセットする
- 2** [メイン]グループの[コマンドプロンプト]をダブルクリック
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力する

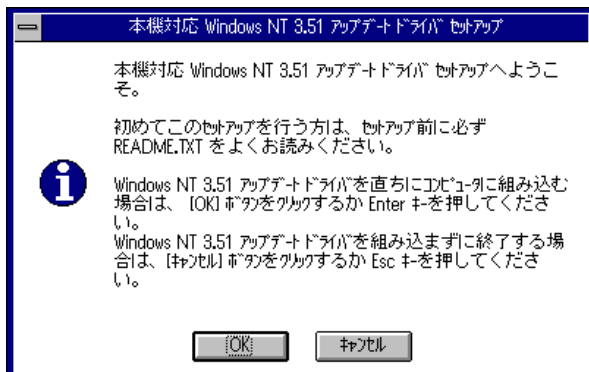
C:

CD ¥

カレントディレクトリがCドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力する

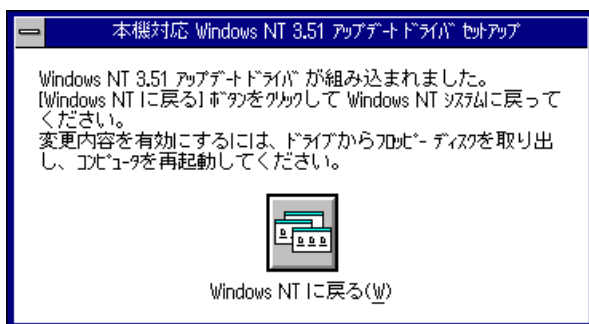
NTUPDATE

- 4** 次のようなセットアップの画面が表示されたら、ダイアログに表示されている内容をよく確認した上で [OK] ボタンをクリック



ファイルのコピーが開始されます。

- 5** ドライバのコピー終了後、次の画面が表示されたら、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51 アップデートディスク」を取り出し、システムを再起動する



以上で Windows NT 3.51 のセットアップは終了しました。「2. 内蔵アクセラレータの利用」に進んでください。



2. 内蔵アクセラレータの利用

ここでは、本機内蔵アクセラレータの設定について説明します。

本機では、「Windows NT 3.51アップデートディスク」に含まれているディスプレイドライバを使って、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、65,536色、TrueColor
800×600	256色、65,536色、TrueColor
1024×768	256色、65,536色
1280×1024	256色

設定は次の手順で行います。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** [メイン]グループにある[コントロール パネル][ディスプレイ]を起動する
- 2** [ディスプレイの変更]ボタンを選択する
- 3** [変更]ボタンを選択する
- 4** [その他]ボタンを選択する
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。
- 5** 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、フロッピーディスクを入れたドライブのTRIDENTディレクトリを指定して、[OK]ボタンをクリック

C: ¥TRIDENT
- 6** [組み込む]ボタンを選択する
- 7** [はい]ボタンを選択する
既存のドライバが存在する場合は、既存のドライバを使用するかどうかを聞いてくるので、[新しいドライバ]ボタンを選択します。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

- 8** ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示するメッセージが表示されたら、ドライブ名とディレクトリ名を確認する
「C: ¥TRIDENT」を指定して「続行」ボタンをクリック
- 9** ドライバ組み込み結果が表示されるので、「OK」ボタンをクリック
- 10** ドライバ起動に関するメッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリック
- 11** 「新しい設定を有効にするにはWindows NTを終了して再起動する必要があります」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出し、「再起動する」ボタンを選択する

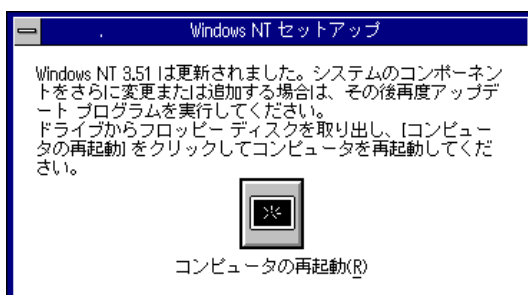
3. Windows NT 3.51アップデートサービスService Pack 5の利用

本機でMicrosoft® Windows NT® 3.51でアップデート サービス「Service Pack 5」(以下 Service Pack 5)を適用する場合、必ず次の手順で行ってください。



- ・ Service Pack 5インストール後は再度起動せずに、ドライバのアップデートを必ず行ってください。
- ・ Service Pack 5をインストールする前に、Service Pack 5の「README.TXT」をご覧ください。

- 1** Service Pack 5をインストールする
- 2** Service Pack 5ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示される



ここでは再起動を行わず、タスク スイッチ(GRPH + TABを何度か押す)でプログラム マネージャに戻り、必ずドライバの再アップデートを行ってください。



- 3 [メイン]グループの[コマンドプロンプト]を起動する
- 4 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
- 5 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力する
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

C:

CD ¥

カレントディレクトリが、Cドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力する

NTUPDATE

- 6 コピー終了後、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出して、コマンドプロンプトを終了する
- 7 タスクスイッチ(GRPH + **TAB**を何度か押す)でService Pack 5のインストール(Windows NT Setup)に戻り、[コンピュータの再起動] ボタンをクリックしてシステムを再起動する



Microsoft® Windows NT® 3.51アップデートサービス「Service Pack 5」についての詳しい内容は、「はじめに」の「ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されている各種サービスにより提供しています。



NEC製以外のWindows NT 3.51並びに Service Pack をご利用の方は、各OSメーカーにお問い合わせください。

4. B4680 NIB-PCI ネットワークアダプタの利用

ここでは、カスタムセットアップでのB4680 NIB-PCIネットワークドライバの追加の手順について説明します。追加手順以外のセットアップについての説明は、「Windows NT セットアップガイド」またはオンラインヘルプを参照してください。また、B4680 NIB-PCI ネットワークアダプタを利用する場合、ドライバはWindows NT標準ネットワークドライバではなく、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のドライバを使用する必要があります。

設定は次の手順で行います。

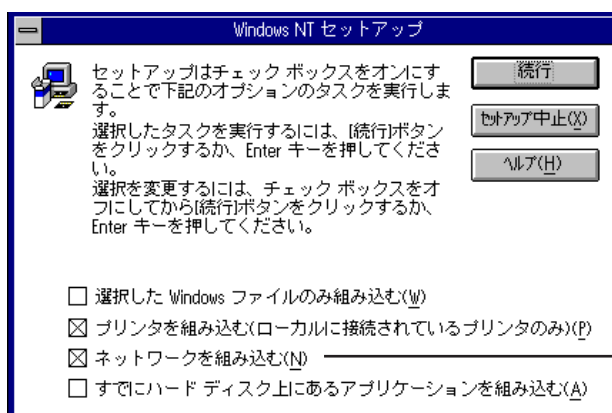
1 Windows NTのテキストセットアップを行う



テキストセットアップ時には次のことに注意してください。

- ・必ずカスタムセットアップ指定を行ってください。
- ・ディスプレイの設定は「解像度640×400 ノーマルモード 16色」で行ってください。
- ・セットアップ時の追加デバイスの指定で、「IDE CD-ROM(ATAPI)デバイス」は必ず設定してください。

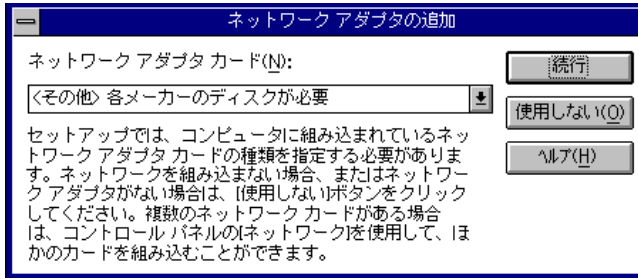
2 テキストのセットアップの終了後、グラフィックのセットアップを行う
本機でB4680 NIB-PCIアダプタを利用する場合、グラフィックセットアップの次の画面で、「ネットワークを組み込む」オプションをチェックしてセットアップしてください。



このチェックボックスをオンにします。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

- 3 ネットワークアダプタカードを自動的に検出するかどうかを聞いてくるので、[検出しない] ボタンをクリック
- 4 手動でネットワークを組み込むか、リモートのセットアップを行うか聞いてくるので、[続行] ボタンをクリック
- 5 [ネットワークアダプタカード] リストボックスから <その他> 各メーカーのディスクが必要] を選択し、[続行] ボタンをクリック



- 6 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されるので、「Windows NT 3.51 アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
フロッピーディスクを入れたドライブ名とディレクトリ名B80PCIAを指定して、[OK] ボタンをクリック

C: ¥B80PCIA

- 7 [B4680 NIB-PCI アダプタ] を選択して、[OK] ボタンをクリック

これでB4680 NIB-PCIアダプタドライバの追加のセットアップは終了しました。

Windows NTのファイルコピーが開始されます。グラフィックセットアップを続行してください。

セットアップが終了したら、「1.Windows NT 3.51のセットアップ」の「 ドライバをアップデートする」に進んでください。

Windows NT 4.0の利用

本機でWindows NT 4.0をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT 4.0のセットアップ
 - ・「Windows NT Setup Disk1<置換版>」を作成する
 - ・ Windows NT 4.0セットアップディスクを作成する
 - ・ Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項
 - ・ Windows NT 4.0をセットアップする
 - ・ ドライバをアップデートする
2. 内蔵アクセラレータドライバのアップデート
3. Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 3の利用



- ・ 「1.Windows NT 4.0のセットアップ」がすべて終了してから、「2. 内蔵アクセラレータドライバのアップデート」以降を行ってください。
- ・ 本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他の機種では使用しないでください。
- ・ ドライバのインストールを行う場合は、Administrator権限を持ったユーザーで行ってください。

セットアップでは、次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・ 1.44 Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:3枚
(注意:フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。)

これらフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

「Windows NT Setup Disk1<置換版>」

「Windows NT 4.0アップデートディスク」

「システム修復ディスク(注意:セットアップ後に手動で作成してください。)



1.Windows NT 4.0のセットアップ

「Windows NT Setup Disk1 <置換版>」の複製を作成する

「Windows NT Setup Disk1」に対して、アップグレードを行います。アップグレードにより、フロッピーディスクの内容を書き換えますので、必ず複製を作成し、複製に対してアップグレードを行ってください。オリジナルの「Windows NT Setup Disk1」は大切に保存しておいてください。

- 1** [スタート]メニューから[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]をクリックして、MS-DOSプロンプトを起動する
- 2** DISKCOPYコマンドを使って「Windows NT Setup Disk1」の複製を作成する
複製はあらかじめ用意した「Windows NT Setup Disk1 <置換版>」に作成します。
DISKCOPYコマンドの使用 방법은 コマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

DISKCOPY /?

Windows NT 4.0セットアップディスクを作成する

ここでは、「Windows NT Setup Disk1 <置換版>」のアップグレードと、「Windows NT 4.0アップデートディスク」の作成を行います。

「アプリケーションCD-ROM」には Windows NT 4.0のドライバが保存されています。これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。

ここでは、CD-ROMドライブをD、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

- 1** 用意しておいた「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブに、「Windows NT Setup Disk1 <置換版>」をフロッピーディスクドライブにセットする
- 2** MS-DOSプロンプトから次のように入力する
D: ↵
CD ¥NT40 ↵
- 3** カレントディレクトリが「NT40」であることを確認し、MS-DOSプロンプトから次のように入力する
このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロンの「:」は付けないでください。

CDNTUP C ↵

- 4** 画面の表示に従って、ファイルをコピーする
途中で「Windows NT 4.0アップデートディスク」と入れ換えるよう指示があります。

作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 4.0をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項

Windows NT 4.0セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

・ **本機の設定について**

セキュリティの設定はすべて「使用しない」または「設定しない」にしてセットアップを行ってください。セキュリティの設定については、『ステップアップガイド』を参照してください。

・ **オプションボードについて**

プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は、各ボード添付のマニュアルを参照してください。

Windows NT 4.0をセットアップする

本機にWindows NT 4.0を新規に組み込む場合について説明します。



セットアップを行う前に「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」、「NECREAD.TXT」をご覧ください。

ここではセットアップブートディスクを使用したセットアップ手順について説明します。

- 1** 「Windows NT Setup Disk1 <置換版>」をフロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れる
「Windows NT CD-ROM Disc1」をCD-ROMドライブにセットする
- 2** 画面の指示にしたがってテキストセットアップを行う
- 3** 容量記憶装置検出の画面で、[S=検出のスキップ]を選択する



ここで、[Enter=続行]を選択しないでください。自動検出を行うと以下で行うドライバの組み込みができなくなります。

- 4** 「セットアップは、コンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました：<なし>」と表示されますので、[S=追加デバイスの指定]を選択する



- 5 「Windows NTで使用する、追加のSCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラを指定します」と表示されるので、リスト表示されている中から[その他(ハードウェアメーカー提供のディスクが必要)]を選択する
- 6 「次のラベルの付いたディスクをドライブA:に挿入してください。ハードウェアメーカー提供のサポートディスク」と表示されるので、作成した「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、[Enter]キーを押す
- 7 「ハードウェアメーカーから提供された SCSI アダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラをインストールします。」と表示されるので、リストから[IDE CD-ROM (ATAPI)IDE Controller]を選択する
- 8 「セットアップはコンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました:<IDE CD-ROM (ATAPI)IDEController>」と表示されるので、[Enter]キーを押す
- 9 画面の指示に従い、セットアップを続ける。テキストセットアップ中「Windows NT Setup Boot Disk」をセットするように指示されるので、作成した「Windows NT Setup Disk1<置換版>」をフロッピーディスクドライブにセットし、[Enter]キーを押す。また領域確保後に「次のラベルの付いたディスクをドライブA:に挿入して下さい。Windows NT 4.0アップデートディスク」と表示されますので、作成した「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、[Enter]キーを押す
- 10 画面の指示にしたがい、セットアップを続ける
- 11 テキストセットアップのセットアップが終了したら、フロッピーディスクドライブからセットアップディスクを取り出して本機を再起動する。再起動するとグラフィックセットアップが開始されます。
- 12 次の設定を行う



Windows NT Server 4.0とWindows NT Workstation 4.0とでは、設定内容が異なります。

- ・ セットアップ方法の選択
- ・ 個人情報の入力
- ・ サーバーの種類の選択(Windows NT Server 4.0のみ)
- ・ 管理者アカウントのパスワードの設定
- ・ システム修復ディスク作成の選択
- ・ インストールするファイルの選択

- 13** 次にネットワークのインストールを行う
ここでは本体内蔵LANインターフェイスを使用する場合について説明します。ネットワークに参加させる方法を、[ネットワークに参加する]-[ネットワークに接続]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
- 14** Windows NT Server 4.0の場合、Internet Information Serverをインストールするかどうかを選択して、[次へ]ボタンをクリック
- 15** ネットワークアダプタの検出画面が表示されるので、ここでは、[一覧から選択]をクリック
- 16** ネットワークアダプタの選択画面で、[ディスク使用]をクリック
- 17** フロッピーディスクの挿入画面が表示されますので、「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、次のように入力する
ここでは、フロッピーディスクドライブをCドライブとして説明します。実際の環境と異なる場合は読み替えてください。

C: ¥INTEL

- 18** OEMオプションの選択画面が表示されるので、リストから「NEC PC-9821X-B06(互換) PCI Adapter」を選択して、[OK]ボタンをクリック
- 19** ネットワークアダプタの検出画面に、「NEC PC-9821X-B06(互換) PCI Adapter」が表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリック
- 20** 次のネットワークアダプタの構成を行う
- ・ ネットワークプロトコルの選択
 - ・ ネットワークサービスの選択
 - ・ ネットワークの設定の確認
 - ・ ネットワークに必要なファイルのコピー
 - ・ NEC PC-9821X-B06(互換) PCI Adapterの設定
 - ・ ネットワークバインドの調整
 - ・ ワークグループまたはドメインの参加

これで、グラフィックのセットアップの本体内蔵LANインターフェイスを組み込む手順が終了しました。後は画面の指示に従って設定を行ってください。Windows NT 4.0のセットアップが終了したら、「 ドライブをアップデートする」に進んでください。

ドライバをアップデートする

Windows NT 4.0のドライバをアップデートします。「Windows NT 4.0アップデートディスク」には、本機の機能を有効に利用するための最新のドライバが保存されています。ここでは、アップデート手順について説明します。

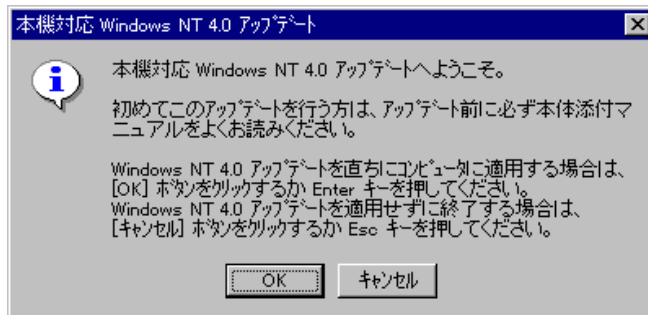
- 1 [スタート]メニューの[プログラム]-[コマンドプロンプト]をクリック
- 2 「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
- 3 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力する
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際の環境と異なる場合は読み替えてください。

```
C: (↵)
CD ¥ (↵)
```

カレントが、Cドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力する

```
UPDATE (↵)
```

- 4 次の画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックして、アップデートを開始する



- 5 コピー終了後、次の画面が表示されたら、[Windows NTに戻る] ボタンをクリック



6 フロッピーディスクドライブより「Windows NT 4.0アップデートディスク」を取り出す

7 Windows NTを再起動させる
[スタート]メニューから[シャットダウン]をクリックして、[コンピュータを再起動する]を選択し、[はい]ボタンをクリック

Windows NT 4.0が再起動したら、続けて「2. 内蔵アクセラレータドライバのアップデート」に進んでください。



- ・ Windows NT 4.0セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、**TAB** キーを押しながら本機の電源を入れると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。
- ・ Windows NT 4.0は、デフォルトでは自動電源断機能が有効になっていません。自動電源断機能を有効にする場合は、「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」をご覧ください。設定してください。

2. 内蔵アクセラレータドライバのアップデート

「Windows NT 4.0アップデートディスク」には、内蔵アクセラレータの最新ドライバが保存されています。ここでは、内蔵アクセラレータドライバのアップデート手順について説明します。

「Windows NT 4.0アップデートディスク」に含まれている内蔵アクセラレータドライバを使って、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、65,536色、TrueColor
800×600	256色、65,536色、TrueColor
1024×768	256色、65,536色
1280×1024	256色

設定は次の手順で行います。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル]をクリック

2 [画面]アイコンをダブルクリック

3 [ディスプレイの設定]タブをクリック

4 [ディスプレイの種類]ボタンをクリック

- 5 [変更]ボタンをクリック
- 6 [ディスク使用]ボタンをクリック
- 7 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されたら、「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
フロッピーディスクを入れたドライブのTRIDENTディレクトリを指定して、[OK]ボタンをクリックします。

C: ¥TRIDENT
- 8 [ディスプレイ]リストボックスから、「内蔵アクセラレータ(Trident Microsystems社製TGUI9682)」を選択する
- 9 [OK]ボタンをクリック
- 10 ドライバ組み込み結果が表示されるので、[OK]ボタンをクリック
- 11 [閉じる]ボタンをクリック
- 12 [閉じる]ボタンをクリック
- 13 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」を取り出し、[はい]ボタンをクリック

3.Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 3 の利用

本機でMicrosoft® Windows NT® 4.0アップデート サービス「Service Pack 3」(以下 Service Pack 3)を適用する場合、必ず次の手順で行ってください。

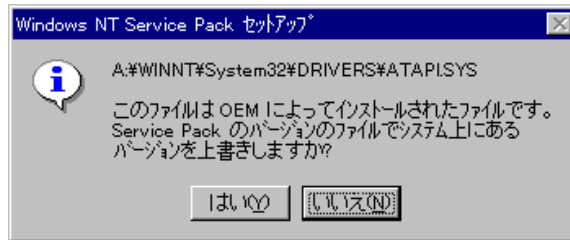


- ・ Service Pack 3インストール時に、ドライバのアップデートを必ず行ってください。
- ・ Service Pack 3をインストールする前に、Service Pack 3の「README.TXT」を参照してください。

- 1 Service Pack 3をインストールする



Service Pack 3セットアップ時に、「バージョンを上書きしますか?」という旨のメッセージが表示された場合は、**[はい]** を選択してください。



- 2** Service Pack 3ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。



- 3** ここでは**[OK]** ボタンをクリックせずに、**[スタート]**メニューから**[プログラム]-[コマンドプロンプト]** をクリック
- 4** Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力する
ここでは、Windows NTをインストールしたシステムドライブをAとして説明します。
実際と異なる場合は、読み替えてください。

```
A:␣  
CD \UPSP3␣
```

カレントが、AドライブのUPSP3ディレクトリであることを確認して、次のように入力する

```
NTUPDATE␣
```

- 5** アップデート終了後、コマンドプロンプトを終了させる
- 6** **[Windows NT Service Pack セットアップ]** のダイアログボックスの**[OK]** ボタンをクリックして、Windows NTを再起動させる



Microsoft® Windows NT® 4.0アップデート サービス「Service Pack 3」についての詳しい内容は、「はじめに」の「ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されている各種サービスにより提供しています。

Windows 2000を利用する

本機で別売のWindows 2000 ProfessionalまたはWindows 2000 Server(以下、Windows 2000)を利用する手順について簡単に説明します。
詳しくは、「システムインストールディスク」内の次のファイルをご覧ください。

¥WIN2K¥README.TXT

セットアップの流れ

本機にWindows 2000をセットアップするには、次の手順で行います。

- 1** Windows 2000をセットアップする
Windows 2000添付マニュアルをご覧ください、Windows 2000をセットアップしてください。
- 2** ドライバやアプリケーションを更新する
「システムインストールディスク」内の「¥WIN2K¥README.TXT」をご覧ください、ドライバやアプリケーションの更新を行ってください。

OS/2を利用する

本機でOS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合の設定や手順について説明します。

OS/2 Warp V3-日本語版、
OS/2 Warp Connect V3-日本語版、
OS/2 Warp 4-日本語版の利用.....

本章にはOS/2インストール時の注意事項が記載されておりますので、OS/2をインストールする前に必ずお読みください。



OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、インストール途中の[OS/2によるこそ]の画面では、必ず[拡張インストール]を選択してください。

また、インストール時に[マルチメディアのソフトウェア・サポート]を組み込むことはできません。[OS/2の設定とインストール]ウィンドウでは、必ず[マルチメディアのソフトウェア・サポート]のチェックははずしてください。インストール完了後、[マルチメディアのソフトウェア・サポート]を組み込んでください。

OS/2をアップグレードする

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版をご利用になる場合、アップグレードが必要です。アップグレードは、次の2通りの方法で実行できます。

- ・ OS/2のインストールを行う場合
 - (1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード
 - (2) OS/2のインストール
- ・ インストール済みのOS/2システムをアップグレードする場合
 - (1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード
 - (3) インストール済みのOS/2システムのアップグレード

(1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード

OS/2インストール用「ディスク」のアップグレードおよびアップグレードユーティリティディスクを作成します。アップグレードは、「ディスク1」の複製に対して行います。コピー元の「ディスク1」は大切に保管しておいてください。

アップグレードでは次のものがが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・ 1.2Mバイトフォーマット済のフロッピーディスク :2枚
(注意:フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。)

これらのフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。

- 「ディスク1(アップグレード済み)」
- 「アップグレードユーティリティディスク」

以下の手順ではCD-ROMドライブを使用します。工場出荷時の状態ではMS-DOSモードでCD-ROMドライブを使用することはできませんので、『ステップアップガイド』「付録 Windows 98でMS-DOSモードを利用する」をご覧ください。

- 1** 内蔵ハードディスクからMS-DOSモードを起動する
Windows 98が起動している場合は、[スタート]メニューから[Windowsの終了]をクリックし、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択する
- 2** 用意した空きフロッピーディスク2枚をFORMATコマンドを使用して、1.2MBに初期化する
DISKCOPYコマンドを使用し、「ディスク1」の複製を作成します。
- 3** 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
- 4** コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブ、カレントディスクをCD-ROMドライブの¥OS2ドライブに変更する

 <CD-ROMドライブ名> :
 CD ¥OS2
- 5** コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードプログラムを実行します。画面の指示に従って、「ディスク1(アップグレード済み)」および「アップグレードユーティリティディスク」の作成を行う
 - ・ OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合
OS2UP3.BAT <フロッピーディスクドライブ名> :
 - ・ OS/2 Warp 4-日本語版の場合
OS2UP4.BAT <フロッピーディスクドライブ名> :

以上で「ディスク1(アップグレード済み)」および「アップグレードユーティリティディスク」の作成は終了です。

本機の電源を切ってください。

(2) OS/2のインストール



- ・ 本章には、OS/2をインストールする時の注意事項が記載されておりますので、OS/2をインストールする前に「ディスプレイの設定」、「CD-ROMの設定」、「拡張電源管理の設定」、「マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストール」を必ずお読みください。
- ・ インストール時の「OS/2によるこそ」の画面では「拡張インストール」を必ず選択してください。

- 1 「(1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード」でアップグレードした「ディスク1(アップグレード済み)」を使用してOS/2をインストールする
- 2 インストール途中で、「フロッピーディスクのみをドライブAから取り出してください。Enterキーを押して、インストールを続けてください」というメッセージが表示されるので、ここで、**[F3]**キーを押し、コマンドプロンプトを起動する
- 3 「(1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード」で作成した「アップグレードユーティリティディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
- 4 コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブをアップグレードユーティリティディスクをセットしたフロッピーディスクドライブに変更してアップグレードを行う
 - ・ OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合
＜フロッピーディスクドライブ名＞：
 - WARP3UP.COM ＜フロッピーディスクドライブ名＞： ＜OS/2インストール先ドライブ名＞：
 - ・ OS/2 Warp 4-日本語版の場合
WARP4UP.COM ＜フロッピーディスクドライブ名＞： ＜OS/2インストール先ドライブ名＞：
- 5 コマンドプロンプト上から「EXIT 画面の指示に従い、インストールを続行する

(3) インストール済みのOS/2システムのアップグレード

- 1 「(1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード」で作成した「ディスク1(アップグレード済み)」を使用してOS/2を起動する
- 2 「OS/2によるこそ」の画面が表示されたら、**[F3]**キーを押し、コマンドプロンプトを起動する

3 「(1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード」で作成した「アップグレードユーティリティディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする

4 コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードを行う

・ OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合

<フロッピーディスクドライブ名> :

WARP3UP.COMD <フロッピーディスクドライブ名> : <OS/2インストール先ドライブ名> :

・ OS/2 Warp 4-日本語版の場合

WARP4UP.COMD <フロッピーディスクドライブ名> : <OS/2インストール先ドライブ名> :

以上でアップグレードは完了します。フロッピーディスクドライブから「アップグレードユーティリティディスク」を取り出し、本機を再起動してください。

ユーティリティディスクのアップグレード

OS/2 Warp 4-日本語版のユーティリティディスクを作成した場合、以下の手順でアップグレードを行ってください。

「ユーティリティディスク」の作成方法は「オンラインマニュアル」の「ユーティリティー・ディスクの作成」をご覧ください。

1 OS/2を起動し、「OS/2ウィンドウ表示」を起動する

2 「ユーティリティディスク1」をフロッピーディスクドライブにセットする

3 コマンドプロンプトから次のように入力し、「ユーティリティディスク1」にアップグレードモジュールをコピーする

COPY <OS2インストール先ドライブ名> : ¥OS2 ¥BOOT ¥NEC1S506 .ADD <フロッピーディスクドライブ名> :

以上でアップグレードは終了です。

ディスプレイの設定

本機で、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、ディスプレイドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

本機に搭載されているウィンドウアクセラレータを使用する場合、「インストール途中のディスプレイ設定」では、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合に「TRIDENT社製TGUI9680内蔵アクセラレータ」、OS/2 Warp 4-日本語版の場合に「TRIDENT社製TGUI9680/9682内蔵アクセラレータ」を選択してください。

インストール途中のディスプレイ設定

- 1 インストール途中で、本機が再起動すると「システム構成」ウィンドウが表示されます。
- 2 ここで、「ディスプレイ」を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



「本体 640×480 256色モード」を選択した場合、WIN-OS/2環境はご利用できません。

OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合は、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」内の「本体 640x480 256色 GRADD」ディスプレイドライバをインストールすると、WIN-OS/2ウィンドウ表示を使用することができます。インストール方法はOS/2に添付されているマニュアル『OS/2 Warp 4-日本語版ご利用にあたって』を参照してください。

解像度の種類

本機内蔵のアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、64K色、16M色*1
800×600	256色、64K色
1024×768	256色、64K色
1280×1024	256色

*1:OS/2 Warp 4 日本語版では、16M色表示は使用できません。

CD-ROMの設定

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、CD-ROMドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

- 1 インストール途中で、本機が再起動すると「システム構成」ウィンドウが表示されます。
- 2 ここで「CD-ROM装置」を選択すると、CD-ROM一覧が表示され、使用したいCD-ROMを選択することができます。



内蔵CD-ROMをご使用になる場合、「その他の専用インターフェイスCD-ROM」を選択してください。

拡張電源管理の設定

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版 をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、別途「OS/2 ドライバディスク」が必要です。「OS/2 ドライバディスク」の「拡張電源管理ドライバ」をインストールすると、ソフトウェアパワーオフ機能が利用できます。

なお、OS/2 インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう以下の手順で設定してください。

- 1 インストール途中で本機が再起動すると、「システム構成」ウィンドウが表示されます。
- 2 「拡張電源管理 (APM)」を選択すると、「拡張電源管理 (APM) のサポート」ウィンドウが表示されます。
- 3 「インストールしない」を選択します。



「OS/2ドライバディスク」は以下の方法で入手できます。

オンラインサービスを利用する

「はじめに」の「ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されているインターネットおよびパソコン通信の各種サービスにより提供しています。

フロッピーディスク送付サービスを利用する

申込先:NECカスタマサービス(TEL:044-813-2400)(2000年5月現在)

OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」の「ソフトウェアパワーオフ機能」をインストールする必要があります。インストール手順については、OS/2に添付されているマニュアル『OS/2 Warp 4-日本語版 ご利用にあたって』を参照してください。

なお、OS/2 インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう以下の手順で設定してください。

- 1 インストール途中で本機が再起動すると、「システム構成」ウィンドウが表示されます。
- 2 「次ページ」ボタンを選択すると、「システム構成 (続き)」ウィンドウが表示されます。
- 3 「拡張電源管理 (APM)」を選択すると、「拡張電源管理 (APM) のサポート」ウィンドウが表示されます。
- 4 「インストールしない」を選択します。

マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストール

本機でOS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストールは次の手順で行ってください。

- 1** インストール途中で、本機が再起動すると [OS/2の設定とインストール] ウィンドウが表示されます。
ここで [マルチメディアのソフトウェア・サポート] のチェックをはずします。
- 2** 全てのインストール終了後、[OS/2 システム]-[システム設定]-[インストール/削除]-[システム構成 機能の追加] アイコンを選択します。
- 3** [システム構成] ウィンドウが表示されたら、[マルチメディア] アイコンをクリックします。
- 4** [装置選択と設定] ウィンドウが表示されたら、[NEC PCM Sound Driver] をクリックし、[追加>>][了解] でマルチメディアを追加します。
- 5** 次に、[OS/2の設定とインストール] ウィンドウが表示されたら、[マルチメディアのソフトウェア・サポート] をチェックします。
- 6** 画面の指示にしたがってインストールを行います。

NetWareを利用する

本機で、NetWare(ファイルサーバ)を利用する場合の設定や手順について説明します。

NetWareを利用する前に

本章の手順を行う前に、「MS-DOS 6.2の利用」をご覧ください、MS-DOS 6.2をアップグレード、インストールしてください。

NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用.....

NetWare 3.12Jを利用するには次の作業が必要です。

- ・ NetWareのアップグレード
- ・ SCSIドライバのセットアップ
- ・ LANドライバのセットアップ

NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- ・ AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSI マネージャ/ハードディスクドライバ)
- ・ AIC6360.DSK (PC-9801-100対応ASPI SCSI マネージャ/
ハードディスクドライバ)
- ・ NECASPI.DSK (ASPIトランスポートレイヤ)
- ・ ASPICD.DSK (ASPI対応CD-ROMドライバ)
- ・ PC98ID.DSK (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)
- ・ NECSTUB.DSK (デバイスドライバサポートモジュール)
- ・ PB4680.LAN (PCI対応ODIサーバドライバ)
- ・ N100B.LAN (内蔵100BASE-TX、PC-9821X-B06対応ODI
サーバドライバ)
- ・ ETHERTSM.NLM(LANドライバ関連モジュール)
- ・ MSM31X.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- ・ XLOAD.EXE (PCI対応NetWareローダユーティリティ)
- ・ LOADER.EXE (PCI対応NetWareローダ)
- ・ POFF3X.NLM (電源制御ユーティリティ)

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。
・アプリケーションCD-ROM(本機添付)

- 1** NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動する
- 2** NetWareのSYSTEMファイルを、手順1でMS-DOSを起動したドライブにインストールする
インストールの手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。



インストールが終了すると、自動的に「SERVER.EXE」が実行されますが、アップグレードを行うため、サーバコンソールから「DOWN」と入力した後、「EXIT」と入力して終了してください。



SYSTEMファイルをインストールしたドライブおよびディレクトリを確認(メモを取るなど)しておいてください。

- 3** 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブおよびカレントディレクトリを変更する

<CD-ROMドライブ名> :

CD ¥NW312

- 4** 次のように入力して、アップグレードを実行する
<ドライブ名>、<ディレクトリ名>には、NetWareのSYSTEMファイルをインストールしたドライブ、ディレクトリを指定する

UPNET312 <ドライブ名> : ¥ <ディレクトリ名>

(このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません。)


例 UPNET312 A: ¥SERVER.312

- 5** 「NetWare3.12Jのアップグレードが終了しました。」というメッセージが表示されたら、カレントドライブおよびカレントディレクトリを手順2でインストールしたドライブおよびディレクトリに変更する

- 6** 本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06を使用する場合は、ここで手順2でNetWareをインストールしたドライブのディレクトリにある「NW312.TXT」を他の媒体にCOPYするか、または印刷などを行って内容が参照できるようにしておく

NW312.TXTにはNetWare 3.12Jファイルサーバのインストールの詳細が記載されています。

7 コマンドプロンプトから次のように入力する

```
XLOAD LOADER.EXE SERVER.EXE /LD 
```

8 NetWareの「SERVER.EXE」を実行して、ファイルサーバをインストールする インストールの手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。

9 SCSI インターフェイスボードのセットアップを行う PC-9821X-B02L、PC-9801-100をお使いの場合、セットアップの方法は「SCSIドライバのセットアップ」をご覧ください。

10 B4680インターフェイスボードのセットアップを行う SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lをお使いの場合、セットアップの方法は、「LANドライバのセットアップ」をご覧ください。SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06L以外のB4680インターフェイスボードをお使いの場合は、B4680インターフェイスボードに添付のマニュアルをご覧ください。

11 本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06のセットアップを行う 詳細は手順6のNW312.TXTを参照してください。

12 電源制御ユーティリティのセットアップを行う セットアップ方法は、後述の「電源制御ユーティリティのセットアップ」を参照してください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

SCSIドライバのセットアップ

SCSIドライバには、次の4種類があります。

- ・ AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)
- ・ AIC6360.DSK (PC-9801-100対応 ASPI SCSIマネージャ/
ハードディスクドライバ)
- ・ NECASPI.DSK (ASPIトランスポートレイヤ)
- ・ ASPICD.DSK (ASPI対応CD-ROMドライバ)

A I C 7 8 7 0 . D S K

Adaptec社の提唱するASPI(Advanced SCSI Programming Interface)に対応したSCSIマネージャで、PC-9821X-B02Lをお使いの場合に使用します。使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

```
LOAD [パス名] AIC7870 [コマンドオプション]  
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)
```

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

SLOT = PCIのデバイス番号に16を加算した値を指定することができます。省略した場合、デバイス番号の候補が表示されますので、その中から選択して番号を指定することもできます。

VERBOSE = SCSIアダプタの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)。

A I C 6 3 6 0 . D S K

Adaptec社の提唱するASPIに対応したSCSIマネージャで、PC-9801-100をお使いの場合に使用します。使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

```
LOAD [パス名] AIC6360 [コマンドオプション]  
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)
```

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

PORT = PC-9801-100で使用するI/Oポートベースアドレスを指定できます。省略した場合、候補が表示されますので、その中から選んで番号を指定することもできます。

SYNC = ドライバ初期化時の同期転送ネゴシエーションの有無を指定できます(デフォルトはON)。

ON 全デバイスに対して同期転送ネゴシエーションを行います。

OFF 同期転送ネゴシエーションを行わず、BIOS設定に従います。

VERBOSE = 本ドライバの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)。



・「SBACKUP.NLM」を使ってバックアップを行う場合、「TAPEDA1.DSK」をロード後、「SBACKUP.NLM」をロードしてください。また、DIBI- ドライバは、DIBIDA1をご利用ください。

・ハードディスク以外の装置(CD-ROM、DAT)については、別途ドライバが必要です。たとえば、CD-ROM装置には「ASPICD.DSK」またはサードパーティ製ASPI仕様CD-ROMドライバが必要です。

ASPICD.DSK

Adapttec社の提唱するASPIに対応したCD-ROMドライバです。
 使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

```
LOAD [パス名] ASPICD
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)
```



ASPI仕様のSCSIマネージャがロードされていない場合、CD-ROM装置を認識できません。

LANドライバのセットアップ

B4680インターフェイスボード(SV-98/2-B05/B06、およびSV-98/2-B05L/B06L)および本体内蔵LANインターフェイス、PC-9821X-B06を使用する場合のセットアップ方法について説明します。

NetWareのインストール方法や用語などについては、NetWareのマニュアルをご覧ください。

B4680インターフェイスボードのセットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなLANDライバのロード行を追加します。

```
LOAD [パス名] PB4680 [コマンドオプション]
```

LANDライバをロードする際に指定できるコマンドオプションは、FRAME、BOARD、NAME、NODEの4種類です。

FRAME LANドライバが使用するフレームタイプを指定します。
 FRAMEオプションに指定可能な値は次のとおりです。

```
Ethernet_802.2
Ethernet_802.3
Ethernet_SNAP
Ethernet_II
```

各フレームタイプの詳細は、NetWareのマニュアルをご覧ください。1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てる場合には、BOARDオプションとともに指定してください。FRAMEオプションを指定しない場合はデフォルト値としてEthernet_802.2となります。



FRAMEのタイプがファイルサーバとワークステーションで異なると通信ができませんので、注意してください。

BOARD 1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てるときに指定します。1つの物理ボードに1つのFRAMEしか割り当てない場合は必要ありません。BOARDオプションの値はユーザによって決められます。

BOARDオプションで指定できる値の範囲は、1～9999です。

たとえば、1つの物理ボードに4つのFRAMEを割り当てる場合、次のように指定します。

```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_II BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_SNAPBOARD=1
```

NAME 物理ボードに複数のFRAMEを割り当てた際、プロトコルとバインドを行うための名前を定義します。

たとえば、次のように指定します。

```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1
NAME=E_8023
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1 NAME=E_8022
BIND IPX TO E_8023 NET=XXXX
BIND IPX TO E_8022 NET=YYYY
```



NET= で指定される値(上記例では、XXXXとYYYY)は、1～8桁の16進数です。詳細については、NetWareのマニュアルをご覧ください。

NODE ユーザがノードアドレスを指定するためのオプションです。NODEオプションを指定した場合、指定したノードアドレスのローカルビットが自動的に設定されます。

例 00004C000001 (指定したアドレス)

02004C000001 (使用されるアドレス)

0010 (2進数表現)

ローカルビット



通常、指定する必要はありません。NODEオプションがない場合、LANドライバはボード上のROMのノードアドレスを使用します。ROMのノードアドレスから変更の必要性が生じた場合のみ指定してください。

複数枚ボード実装時のLANドライバのロードについて

本ボードを2枚以上実装した場合は、それぞれのボードに対してLANドライバをロードする必要があります。

たとえば、3枚のボードを実装した場合は、AUTOEXEC.NCFファイルに次のようなLANドライバのロード行を追加します。

```
LOAD A:PB4680          1枚目のボード
LOAD A:PB4680          2枚目のボード
LOAD A:PB4680          3枚目のボード
```

また、STARTUP.NCFファイルに次のような行を追加してください。

```
SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG=200
```

「MEG=」には、設定可能な最大値を設定します。詳細は、NetWareのマニュアル、またはSETコマンドで確認できます。

最大値はNetWare 3.12Jでは「200」、NetWare 4.1Jでは「300」です。



本インターフェ이스の最大実装可能枚数は、本機のPCIスロット数に制限されます。

本体内蔵LANインターフェイスまたは、PC-9821X-B06のセットアップ

本体内蔵LANインターフェイスまたは、PC-9821X-B06のセットアップの詳細は、NW312.TXT(NetWare 3.12Jファイルサーバのインストールの詳細)を参照してください。

LANドライバのロードについての注意事項

PC-9867およびPC-9868のインターフェイスボードを使用する場合、LANドライバ(PC4680.LAN)は、ほかのLANドライバより先にロードしてください。

AUTOEXEC.NCFにLANドライバの設定をしている場合は、PC4680.LANのロード行をほかのLANドライバのロード行より前に記述してください。

電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWare
ファイルサーバをシャットダウンできるようになります。

電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

```
LOAD <パス名> P0FF3X [コマンドオプション]
```

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

省略時	電源スイッチをOFFにすると、約1分後にファイルサーバのシャット ダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。
LOCK	LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFに しても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソ ールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャッ トダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、 手動でファイルサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。

NetWare® 4.1J(ファイルサーバ)の利用.....

NetWare 4.1Jを利用するには次の作業が必要です。

- NetWareのアップグレード
- SCSIドライバのセットアップ
- LANドライバのセットアップ

NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSI マネージャ/ハードディスクドライバ)
- AIC6360.DSK (PC-9801-100対応 ASPI SCSI マネージャ/
ハードディスクドライバ)
- NECASPI.DSK (ASPIトランスポートレイヤ)
- ASPICD.DSK (ASPI対応CD-ROMドライバ)
- PC981D.DSK (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)

- ・ NECSTUB.DSK (デバイスドライバサポートモジュール)
- ・ PB4680.LAN (PCI対応ODIサーバドライバ)
- ・ N100B.LAN (100BASE-TX、PC-9821X-B06対応ODIサーバドライバ)
- ・ ETHERTSM.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- ・ MSM.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- ・ POFF4X.NLM (電源制御ユーティリティ)

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:1枚
このフロッピーディスクには「NetWare4.1Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1 NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動する
- 2 用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブに、「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする
- 3 MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントドライブおよびディレクトリを変更する

 <CD-ROMドライブ名> :
 CD ¥NW41
- 4 次のように入力する

 UPNET41 <フロッピーディスクドライブ名> :
 (このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません。)
- 5 「NetWare 4.1Jのアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、アップグレードディスクの完成です。
- 6 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールする
インストール手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。



PC-9801-100、PC-9821X-B02L、内蔵ハードディスクや内蔵CD-ROMをお使いの場合、インストール中に表示されるディスクドライバの選択画面で、**[INS]**キー(リストにないドライバのインストール)を押して、**[F3]**キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C: ¥

ディスクドライバの一覧が表示されますので、その中からドライブを選択してください。



SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lまたは本体内蔵LANインターフェイス、PC-9821X-B06をお使いの場合、インストール中に表示されるネットワークドライバの選択画面で、**[INS]**キー(リストにないドライバのインストール)を押して、**[F3]**キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライバ名を指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C: ¥

ネットワークドライバの一覧が表示されますので、その中からドライバを選択してください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

- 7** NetWareのインストールが終了したら、サーバのコンソール画面で次のように入力してインストールユーティリティを起動する

LOAD INSTALL

- 8** [インストールオプション]の画面で、「プロダクトオプション」を選択する

- 9** [その他のインストール操作]の画面で、「リストにはないプロダクトのインストール」を選択した後、**[F3]**キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリのパスの指定ウィンドウが表示された後、「アップグレードディスク」のドライブとディレクトリを指定する

例 C: ¥

- 10** ファイルのコピーが終了したら、後述の「電源制御ユーティリティのセットアップ」をご覧ください。AUTOEXEC.NCFファイルを書き替える

SCSI ドライバのセットアップ

「NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用」の「SCSIドライバのセットアップ」をご覧ください。

LAN ドライバのセットアップ

本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06のセットアップの詳細は、アップグレードディスクのNW4X.TXT(NetWare 4.1Jサーバのインストールの詳細)を参照してください。

その他のLANDライバのコマンドオプションについては、「NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用」の「LANDライバのセットアップ」をご覧ください。なお、LANDライバのロード行のパス名は記述しないでください。

電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。

電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWareファイルサーバをシャットダウンできるようになります。

電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルのSYSボリュームをマウントさせる記述の後に、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

```
LOAD POFF4X [コマンドオプション]
```

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

- | | |
|------|--|
| 省略時 | 電源スイッチをOFFにすると、約1分後にファイルサーバのシャットダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。 |
| LOCK | LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFにしても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャットダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、手動でファイルサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。 |

IntranetWare/NetWare® 4.11J(ファイルサーバ)の利用.....

IntranetWare/NetWare4.11J(以降はNetWareと呼びます)を利用するには、次の作業が必要です。

NetWareのアップグレード

NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- ・ PC98ID.DSK(内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:1枚
このフロッピーディスクには「IntranetWare/NetWare4.11Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1** NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動する
- 2** 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブに、あらかじめ用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブにセットする
- 3** MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントドライブおよびディレクトリを変更する

```
<CD-ROMドライブ名> :  
CD ¥INW
```

- 4** 次のように入力する

```
UPINW <フロッピーディスクドライブ名> :  
(このコマンドの最後に¥をつける必要はありません)
```

- 5** 「IntranetWare /NetWare4.11Jアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、アップグレードディスクの完成です。

- 6** 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールする
インストール手順については、NetWareの「インストール」マニュアルをご覧ください。



内蔵ハードディスクや、内蔵CD-ROMドライブをお使いの場合、以下の手順に従ってください。

- 1 インストール中に表示されるサーバドライバの選択:概要画面で、「選択したディスク / L A N ドライバの追加選択あるいは変更」を選択し、PC98 I D . DSKを選択してください。
- 2 ディスクドライバの選択画面になります。「選択したドライバの選択解除」を選択してください。ドライバ名一覧が表示されますので、その中からPC98 I D . DSKを選択してください。
- 3 「追加ドライバの選択」を選択してください。[INS]キー(リストにないドライバのないインストール)を押して、[F.3]キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例 アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C: ¥

ドライバの一覧が表示されますので、その中からPC98 I D . DSKを選択してください。

NetWare® 3.12J/4.1J(クライアント)の利用....

NetWare 3.12J/4.1Jのクライアント環境は、NetWare付属のWSINST.BAT (3.12Jの場合)またはINSTALL.EXE(4.1Jの場合)を使用してインストールすることができます。

本体内蔵LANインターフェイスを使用する場合

本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06を使用する場合は、以下の手順でクライアントアップグレードディスクを作成してください。なお、インストールの詳細はこのアップグレードディスクのNWODIDOS.TXT(DOS ODIクライアントインストール詳細)を参照してください。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:1枚
このフロッピーディスクには「NetWare クライアントアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

1 1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに、「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする

2 コマンドプロンプトから次のように入力する

```
<CD-ROMドライブ名>: 
CD ¥NWCLIENT 
UPNWCLI <フロッピーディスクドライブ名>: 
```

例 CD-ROMドライブがQドライブで、フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

```
Q: 
CD ¥NWCLIENT 
UPNWCLI C: 
```

(このコマンドの最後に「¥」をつける必要はありません)

3 「NetWareのクライアントアップグレードディスクを作成しました。」というメッセージが表示されたら「NetWare クライアントアップグレードディスク」の完成です。NetWareのインストール作業の途中で、このフロッピーディスクを使用します。

を選択し、「NetWare クライアントアップグレードディスク」の¥(ルート)ディレクトリを指定する



LSL.COMは下記のバージョン以降のものを使用する必要があります。

LSL.COM 2.16

LSL.COMのバージョンが上記より古い場合は、ドライバディスクの¥(ルートディレクトリ)ディレクトリにあるものを使用してください。

その他のソフトウェアを利用する

本機で、別売のソフトウェアを利用する場合の設定や手順について説明します。

N₈₈ - 日本語BASIC(86 X MS-DOS版) Ver6.2の利用.....



- ・ N₈₈ - 日本語BASIC(86 X MS-DOS版) Ver. 6.2は、Windows NT上では動作保証していません。
- ・ 本機では、N₈₈ - BASIC(86)およびN₈₈ - 日本語BASIC(86) Ver 6.3は利用できません。

テキスト画面についてのご注意

テキスト画面を使用する場合、WIDTH命令を使用して表示する<桁数>を40桁に設定することはできません。

グラフィック画面についてのご注意

グラフィック画面を使用する場合、SCREEN命令を使用して<画面モード>を白黒モードまたは高分解能白黒モードに設定することはできません。

Windows 98上でのご注意

Windows 98上で使用する場合は、MS-DOSモードを起動してご利用ください。
Windows 98のMS-DOSプロンプトを起動して使用することはできません。
次にMS-DOSモードを起動させる手順を説明します。

- 1** Windows 98の[スタート]メニューで[Windowsの終了]をクリック
- 2** [Windowsの終了]画面から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択する
- 3** [はい]ボタンをクリックして、MS-DOSモードを起動させる

MS LAN マネージャの利用.....

この章では、本機でMS LAN マネージャを利用する際に必要となるアップグレード作業の手順と強化機能について説明します。

MS LAN マネージャのアップグレード

本機で、本体内蔵LAN インターフェイス/MS LAN マネージャ リモートアクセスサービスを利用する前には、次の手順でアップグレードを行ってください。

本機で、本体内蔵LAN インターフェイス/MS LAN マネージャ リモートアクセス サービスを利用するにはあらかじめ、次のソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認してください。

- ・ 日本語MS-DOS 6.2のインストール/アップグレード
『MS-DOSを利用する』をご覧になって、インストール/アップグレードを行ってください。
- ・ 以下のいずれかのLAN マネージャ
 - ・ 日本語マルチベンダLAN マネージャ 2.1A MS-DOSクライアントパック
 - ・ 日本語マルチベンダLAN マネージャ 2.1A サーバパック内のMS-DOS LAN マネージャワークステーション
 - ・ 日本語マルチベンダLAN マネージャ 2.1c

ただし、本体内蔵LAN インターフェイスを利用する場合、LAN マネージャのネットワークアダプタドライバの設定を「ドライバなし」でセットアップしてください。
また、CD-ROMドライブが利用できるよう設定を行ってください。

MS-DOS LAN マネージャおよび、MS LAN マネージャ リモートアクセス サービスのインストール/構成方法については、次のそれぞれのマニュアルをご覧ください。

- ・ LAN マネージャ 2.1Aをご使用の場合
 - 『MS-DOS LAN マネージャ 2.1 セットアップガイド』
 - 『MS-DOS LAN マネージャ リモートアクセス サービス管理者ガイド』
 - 『MS LAN マネージャ 2.1A ご使用に際して』
- ・ LAN マネージャ 2.1c をご使用の場合
 - 『MS-DOS LAN マネージャ 2.1 セットアップガイド』

『MS-DOS LANマネージャ リモートアクセス サービス管理者ガイド』

『Microsoft Windows NT Server 3.51 の内容について』

本体内蔵LANインターフェイスドライバのアップグレード

次の手順でアップグレードを行います。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・ フォーマット済みのフロッピー - ディスク:1枚
このフロッピー - ディスクには、「LANマネージャアップグレードディスク(機種名)」と書いたラベルを貼っておきます。機種名には、お使いの機種名を書いてください。

1. アップグレードディスクの作成

ただし、下記の「MS LAN リモートアクセスサービスのアップグレード」でアップグレードディスク作成済みの場合、本操作は必要はありません。

- 1** 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動する
- 2** 「アプリケーション CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、フォーマット済みのフロッピー - ディスクをフロッピー - ディスクドライブにセットする
- 3** コマンドプロンプトから次のように入力して、アップグレードディスクを作成する

```
XCOPY <CD-ROMドライブ名>:¥LANMAN <フロッピー - ディスクドライブ名>: /S  
⏎
```

例 CD-ROMがQドライブ、フロッピー - ディスクがBドライブの場合

```
XCOPY Q:¥LANMAN B: /S ⏎
```

2. 本体内蔵LANインターフェイスドライバのセットアップ

- 1** 「LANマネージャアップグレードディスク」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをLANマネージャをインストールしたドライブに変更する

```
<ドライブ名>: ⏎
```

例 LANマネージャをAドライブにインストールしている場合

```
A: ⏎
```



- 2** コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをLANマネージャをインストールしたディレクトリに変更する

CD <ディレクトリ名> 

例 LANマネージャをLANMAN.DOSディレクトリにインストールしている場合

CD LANMAN.DOS 

- 3** コマンドプロンプトから次のように入力してLANマネージャのセットアッププログラムを実行する

SETUP 

- 4** [表示 / 変更]メニューの[ネットワークドライバの登録]を選択し、[新規設定]を選択する

- 5** [ネットワークワークアダプタドライバ]画面が表示されたら[その他のドライバ]を選択する

- 6** [ドライバまたはプロトコルファイルのコピー]ダイアログボックスが表示されるので、[LANマネージャアップグレードディスク]をセットしたドライブを指定し、[了解]を選択する

<ドライブ名>:

例 「LANマネージャアップグレードディスク」をBドライブにセットしている場合

B:

- 7** [その他のネットワークアダプタドライバ]ダイアログボックスに[PC-9821X-B06(互換)Intel EtherExpress PRO/100B]と表示されるここで、[了解]を選択すると、必要なファイルのコピーを行います。

- 8** [ネットワークプロトコル]ダイアログボックスが表示されたら、以降の操作は通常のLANマネージャセットアップと同様に行う

- 9** セットアップが終了したら、本機を再起動する

MS LANマネージャリモートアクセスサービスのアップグレード

次の手順でアップグレードを行います。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・フォーマット済みのフロッピー - ディスク:1枚

1. MS LANマネージャリモートアクセスサービスのインストール

MS LANマネージャリモートアクセスサービスをハードディスクにインストールします。

MS LANマネージャリモートアクセスサービスのインストール方法は、『MS LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド』をご覧ください。


2. アップグレードディスクの作成

ただし、前記の「本体内蔵LANインターフェイスドライバのアップグレード」でアップグレードディスク作成済みの場合、本操作は必要ありません。

1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動する

2 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、フォーマット済みのフロッピー - ディスクをフロッピー - ディスクドライブにセットする

3 コマンドプロンプトから次のように入力して、アップグレードディスクを作成する

```
XCOPY <CD-ROMドライブ名>:¥LANMAN <フロッピー - ディスクドライブ名>: /S 
```

例 CD-ROMがQドライブ、フロッピー - ディスクがBドライブの場合

```
XCOPY Q:¥LANMAN B: /S 
```




3. リモートアクセスサービスのアップグレード

- 1 作成した「LANマネージャアップグレードディスク」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをフロッピー - ディスクドライブに変更する

<ドライブ名>:

例 「LANマネージャアップグレードディスク」をBドライブにセットしている場合

B:

- 2 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを¥LANMANディレクトリに変更する

CD LANMAN

- 3 コマンドプロンプトから次のように入力してアップグレードプログラムを実行する

INSTRAS <ドライブ名>:<LANマネージャのディレクトリ>

<ドライブ名>、<LANマネージャのディレクトリ>には、それぞれMS-DOS LANマネージャをインストールしたドライブとディレクトリを入力する

例 ドライブAの¥LANMAN.DOSディレクトリにLANマネージャをインストールしている場合

INSTRAS A:¥LANMAN.DOS

- 4 ファイルのコピーが終了すると、自動的にリモート アクセス サービスのセットアッププログラムが起動するので、[構成]を選択し、ポートとモデムの再構成を行う
- 5 セットアップが終了したら、本機を再起動する

MS LANマネージャの強化機能

ここでは、「MS LANマネージャのアップグレード」の手順に従ってアップグレードしたMS LANマネージャの強化機能について説明します。

MS LANマネージャで本体内蔵LANインターフェイスを利用する

本機では、本体内蔵LANインターフェイスを利用して100Mbpsの高速転送を利用することができます(ただし、100Mbps対応のマルチポートレピータ、ネットワークケーブル使用時のみ)

本機で本体内蔵LANインターフェイスを利用する前に、上記で作成した「LANマネージャアップグレードディスク」にある「README.TXT」をご覧ください。

MS LANマネージャリモートアクセスサービスで38400bpsの通信速度を利用する

MS LANマネージャリモートアクセスサービスでは、38400bpsまでの通信速度が利用できます。Windows 3.1上でご使用の場合は、19200bpsより高速な通信速度は使用できません。

- ・ PC-9801-101 RS-232C(第2～第3回線用)拡張インターフェイスボードを使用する場合は、インターフェイスボードに添付されているドライバはインストールしないでください。
- ・ PC-9861K、またはPC-9801-101拡張インターフェイスボードをご使用の場合は、それぞれのインターフェイスボードでサポートされている最高の通信速度までご利用になれます。
- ・ モデムカード2400(PC-9801N-J01) FAXモデムカード(PC-9801N-J05)を使用する場合は、次の点に注意してください。
 - ・ 活線挿抜機能は使用できない
 - ・ 通信速度は、それぞれのPCカードでサポートされている最高通信速度まで使用できる
- ・ FAXモデムカード(PC-9801N-J05)を使用する前には、FAXモデムカードセットのFAXモデムカードメニュー(MODEMSET.EXE)を使用して、RS-232C回線番号をCOM2またはCOM3に設定してお使いください。
FAXモデムカードメニューの使用方法については、FAXモデムカード添付の『FAXモデムカードセットご使用に際して』をご覧ください。

TCP/IP通信制御ドライバの利用.....

MS-DOSおよびWindows 3.1環境において、TCP/IP通信制御ドライバを使い本体内蔵LANインターフェイスを利用するには、次の手順に従いインストールを行う必要があります。

本機で動作可能なTCP/IP製品は次の通りです。

- TCP/IP通信制御ドライバ(Windows版 Ver1.0)以降
- インターネットソフトウェアセット(エン트리 Windows版 Ver1.0)
- インターネットソフトウェアセット(スタンダード Windows版 Ver1.0)

また、次のソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認してください。

- ・ 日本語MS-DOS
- ・ Windows 3.1




- ・ TCP/IPとMS-DOS LANマネージャを同時に使用する場合は、LANマネージャのセットアッププログラムを使用してインストールしてください。詳しくはTCP/IPのマニュアルを参照してください。
- ・ TCP/IPをNetWareと共存させる場合は、NetWareのインストール終了後、TCP/IPのマニュアルに従ってインストールしてください。

以下の手順では、次のものがが必要です。準備しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・ フォーマット済みの2HDフロッピーディスク : 1枚
このフロッピーディスクには、あらかじめ「ネットワークアダプタディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

1. ネットワークアダプタディスクの作成

- 1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動する
- 2 「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブに、フォーマット済みの2HDフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力して、ネットワークアダプタディスクを作成する

```
XCOPY <CD-ROMドライブ名>:¥LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>:¥ /S 
```

例 CD-ROMドライブがQ、フロッピーディスクドライブがBの場合

```
XCOPY Q:¥LANMAN B:¥ /S 
```

2. TCP/IP通信制御ドライバのインストール

TCP/IP通信制御ドライバのマニュアルに従いインストールを行います。

- 1 インストールプログラムを起動する
- 2 使用するネットワークアダプタの選択画面で、「その他のボード」を選択し、1で作成した「ネットワークアダプタディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
- 3 以降はインストールプログラムの指示に従う



本体内蔵LANインターフェイスを使用時には「RAMウィンドウアドレス」を使用しませんので、以下のファイルの修正は必要ありません。

- ・ MS-DOS 6.2でUMBを使用する場合、CONFIG.SYSファイルの EMM386.EXE /E オプションの設定。
 - ・ Windows 3.1をエンハンスドモードで使用する場合、SYSTEM.INIファイルの“EMMExclude”パラメータの設定。
-

プラグ&プレイサポートソフトウェアの利用.....

MS-DOS 6.2およびWindows 3.1環境でプラグ&プレイ対応ボードをプラグ&プレイモードでご利用になる場合は、別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアが必要となります。本機でプラグ&プレイサポートソフトウェアを利用するには、必ず以下の手順でアップグレードを行ってください。

1. アップグレードディスクの作成
2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード

1. アップグレードディスクの作成

以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。

- ・ アプリケーションCD-ROM(本機添付)
- ・ 2HDのフロッピーディスク：1枚
2HDフロッピーディスクには、あらかじめ「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

- 1** 本機の電源をONにして、内蔵のハードディスクからWindows 98を起動する
- 2** [スタート]メニューから[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]を起動する
- 3** CD-ROMドライブに「アプリケーションCD-ROM」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントディレクトリを変更する


<CD-ROMドライブ名>:

CD ¥PNP
- 4** 「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする
このときフロッピーディスクは書込可能状態にしておいてください。
- 5** FORMATコマンドを使って「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」を初期化する
コマンドプロンプトから次のように入力する

FORMAT <フロッピーディスクドライブ名>: /U /F:1.44

<ドライブ名>には、「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をセットしたフロッピーディスクドライブを指定します。

- 6** アップグレードモジュールを「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」にコピーする。コマンドプロンプトから次のように入力する

FBACKPNP <フロッピーディスクドライブ名> : 

2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード


- 1** 別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールする
インストールが完了すると、「本機を再起動してください。」という内容のメッセージが表示されますが、再起動させずにコマンドプロンプトの状態にしてください。
インストールの手順については、『プラグ&プレイサポートソフトウェアコンフィギュレーションユーティリティユーザズガイド』を参照してください。

- 2** 「1. アップグレードディスクの作成」で作成した「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントドライブを変更する

<フロッピーディスクドライブ名> : 

- 3** コマンドプロンプトから次のように入力してアップグレードを行う

- ・プラグ&プレイサポートソフトウェアのDOS版をインストールした場合

UPPNP <ドライブ名1> : ¥<プラグ&プレイインストールディレクトリ名> 

- ・プラグ&プレイサポートソフトウェアのWindows版をインストールした場合

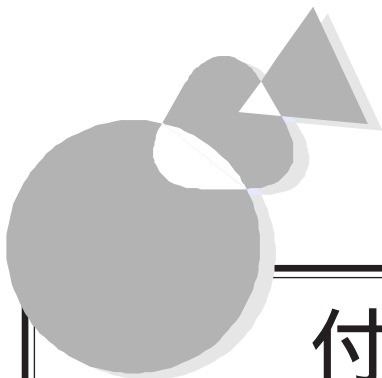
UPPNP <ドライブ名1> : ¥<プラグ&プレイインストールディレクトリ名>
<ドライブ名2> : ¥<Windows 3.1ディレクトリ名> 

<ドライブ名1>には、プラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールしたドライブを、<ドライブ名2>には、Windows 3.1がインストールされているドライブを指定します。

例 プラグ&プレイサポートソフトウェアをBドライブの¥PLUGPLAYディレクトリに、Windows 3.1をBドライブの¥WINDOWSディレクトリにインストールしている場合

UPPNP B : ¥PLUGPLAY B : ¥WINDOWS 

- 4** アップグレード終了後、本機を再起動する
プラグ&プレイサポートソフトウェアがご使用になれます。



付録

本機を利用するための補足情報です。

固定ディスク起動メニューの利用

FAT32ファイルシステムの利用

索引

固定ディスク起動メニューの利用

ここでは、本機で固定ディスク起動メニューを利用する上での必要事項について説明します。

固定ディスク起動メニュー

[固定ディスク起動メニュー]では、ハードディスクのどの領域(ドライブ)から、システムを起動するかを選択することができます。

[固定ディスク起動メニュー]を表示させるには、キーボードの[**Tab**]キーを押しながら、電源を入れてください。このとき、「ピピピ…」と音が鳴るまで[**Tab**]キーを押したままにしてください。

ただし、固定ディスク起動メニューを表示させてシステムを起動するには、次のうち、どれか1つを満たしている必要があります。

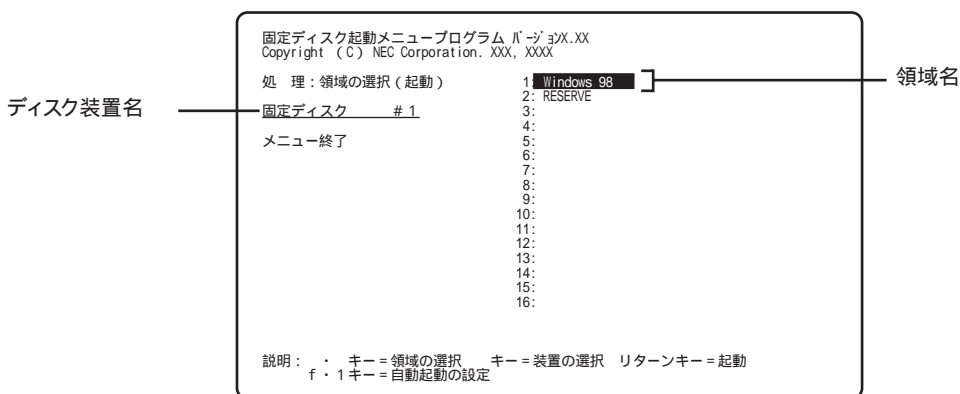
- ・ B00T可になっている領域が複数ある場合
- ・ 本機内蔵ハードディスク以外に別売のハードディスクを増設した場合

本機はご購入時には1つの領域が確保されていますので、[**Tab**]キーを押しながら電源を入れても、固定ディスク起動メニューは表示されず、内蔵ハードディスクのWindows 98が起動します。

B00Tを変更するには、[FDISK オプション]の機能を利用します。[FDISK オプション]は、MS-DOSプロンプトの画面から、

FDISK 

と入力してください。表示された画面で、[2. 状態を変更]を選択してください。あとは画面の指示に従って、領域のB00Tを「可」にしてください。



固定ディスク起動メニュー



[固定ディスク起動メニュー]の画面では、どのディスク装置のどの領域(ドライブ)からシステムを起動するかを選択できます。

画面左には、ディスク装置名が表示されており、同じインターフェイスごとに1から順に装置番号が付けられます。また、画面右には下線が付いた装置内の領域名が表示されています。

システムを起動するには、、、、キーで起動したい装置、領域に反転表示を合わせて、キーを押します。

なお、[FDISK オプション]の[4. 領域情報を表示]で「BOOT」が「不可」になっている領域や、「状態」が「スリープ」になっている領域は選択できません。

自動起動の設定

[固定ディスク起動メニュー]を表示しないで、あらかじめ指定したハードディスクの指定した領域から自動起動することができます。自動起動の設定を行うと、次回起動時からは固定ディスク起動メニューは表示されません。

自動起動の設定を行うには、次のように操作してください。

- 1 [固定ディスク起動メニュー]が表示されているときに、自動起動したい領域を反転表示させ、キーを押す
- 2 「選択した領域を自動起動に設定しますか(Y/N)?」というメッセージが表示されるので、キーを押す
キーを押すと自動起動の設定は行われません。
- 3 次のように表示されて、自動起動に設定される
 - ・ 領域名の横 「*」
 - ・ 画面右下 「*は自動起動に設定された領域です」

なお、複数の領域を自動起動に設定することもできますが、この場合の優先順位は次のようになり、最初に認識された領域から起動します。

内蔵固定ディスク(装置番号小 大)

SCSI固定ディスク(装置番号小 大)

光ディスク(装置番号小 大)

自動起動の変更/解除

自動起動の変更/解除は、固定ディスク起動メニューで行います。
自動起動に設定されていると、固定ディスク起動メニューは表示されませんので、次のような操作で固定ディスク起動メニューを表示させます。

- 1** 装置の起動時にキーボードの **[TAB]** キーを押し続ける
- 2** 「ピピピ…」という音が鳴ってから **[TAB]** キーから指を離す
- 3** 固定ディスク起動メニューが表示されたら、次のように操作する
 - ・ 変更する場合
[f・1] キーを押して自動起動を解除した後、「自動起動の設定」と同じ操作を行ってください。
 - ・ 解除する場合
自動起動を解除したい領域名を反転表示させ、**[f・1]** キーを押します。

FAT32ファイルシステムの利用

本機にインストールされているWindows 98では、FAT32ファイルシステムをサポートしています。ここでは、FAT32ファイルシステムの概要や設定方法について説明します。

FAT(File Allocation Table)ファイルシステム(以降、FAT)は、MS-DOSや従来のWindowsで使用されている基本的なファイルシステムです。

FAT32ファイルシステム(以降、FAT32)はFATを拡張したファイルシステムで、次のような特長があります。

- ・ 従来のFATでは、2GBの容量を超える領域を扱えませんでした。FAT32では理論上2TB(2,047GB)の容量まで扱えます。



FAT32に関する情報は、[Windows]フォルダのgeneral.txtにも記載されています。

FAT32を使用する場合の注意

本機の出荷時のハードディスクの領域はFATです。通常は、FATのまま使用してください。FAT32を使用する場合は、次の注意事項を確認してご使用ください。

- ・ 本機に添付されているアプリケーションやご使用になっているソフトウェアによっては正しく動作しない場合があります。
 - ・ スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、[システムツール]グループにあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、[ドライブスペース]でFAT32のドライブを圧縮できません。
- ・ FAT32は、本機にインストールされているWindows 98でのみ使用できます。

FAT32の設定方法

FAT32を利用するには、FDISKコマンドを使用して領域を作成、または[ドライブコンバータ (FAT32)]を使用して領域を変換します。

FDISKコマンドは、ハードディスクに領域を作成したり、削除したりするプログラムです。

[ドライブコンバータ (FAT32)]は、FATファイルシステムのハードディスクをFAT32ファイルシステムに変換します。



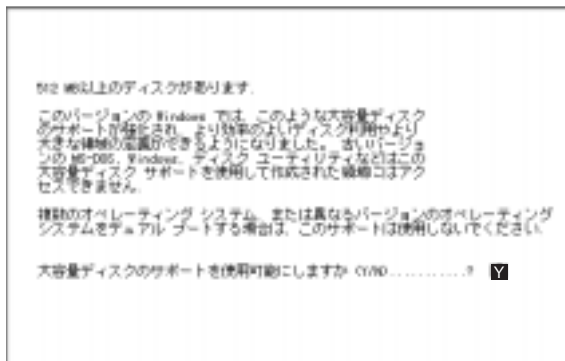
領域を削除すると、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルもすべて削除されます。大切なデータやファイルがある場合には、必ずフロッピーディスクなどの別の媒体に保存してください。

FDISKコマンドでの設定

[FDISK オプション]は、Windows 98を起動して、MS-DOS プロンプトの画面から次のように入力します。

FDISK 

ハードディスクの容量が512MBを超える場合は、大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認する、次のようなメッセージが表示されます。



Y を選択した後、領域 **ただし、512MBを超える領域** を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。

FDISKコマンドで領域を作成した後、Windows 98を再起動してドライブをフォーマットすると、領域が利用できるようになります。

[ドライブコンバータ(FAT32)]での設定

既にあるドライブをFAT32ファイルシステムに変換する手順は、『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』または、Windows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』の「第5章 高度な機能」の「FAT32ファイルシステムを使う」をご覧ください。

索引

記号

98Timer	14, 17, 30, 65, 70, 73
98Timerの削除	65
98Timerの追加	73
98環境設定ユーティリティ	71
98プレーヤ	2, 13, 62, 63, 65
98プレーヤの削除	65
98プレーヤの追加	74

A

ADDRRV コマンド	48, 58
AVI	12

C

CDプレーヤ	3
CDを再生する	3
CD-ROMドライブ	3, 5, 10, 46
CD-ROMトレイ	5, 10

D

DISKCOPY コマンド	110
DMITool	29, 30, 35, 38, 63, 66, 70
DMIToolの削除	66
DMIToolの追加	73
DMI	29, 36
DMTF	29
DOS環境設定ユーティリティ	71
DOSコマンド	71
DOS APインストーラ	48, 49, 54, 56
DOS APインストーラの注意事項	55

F

FAT32ファイルシステム	191
FDISKオプション	83, 93, 98

G

general.txt	191
-------------	-----

J

JPEG	11
------	----

M

Masty Data Backup	24, 62, 63, 67, 70
MIDI	12
MIFブラウザ	29, 36, 66
MPEG1.0	2
MPEG動画	12
MPEG動画を再生する	12

MS-DOSを利用する	108
MS LANマネージャの利用	177

N

N ₈₈ -日本語BASIC	176
NECAI FEP	71
NECREAD.TXT	146
NEC Soft MPEG1.0	2, 12
NEC Soft MPEG1.0に関する注意事項	13
NEC Soft MPEG1.0の削除	69
NEC Soft MPEG1.0の追加	74
NetWareを利用する	161

P

pcANYWHERE32 EX	41
pcANYWHERE32 EXの削除	68
pcANYWHERE32 EXの追加	74
PWS	38

R

README.TXT	146, 151
------------	----------

S

Service Pack 3	152
----------------	-----

U

USKCGMコマンド	71, 72
------------	--------

V

VirusScan	62, 63
VirusScanの削除	67
VirusScanの追加	75

W

Windows 2000を利用する	153
Windows 3.1を利用する	121
Windows NT 3.51を利用する	130
Windows NT 4.0の利用	144
Windows NT Setup Disk1<置換版>	144, 145
WWW Extension	29, 37, 66

あ

アプリケーションを削除する	62
アプリケーションを追加する	70
アンインストール機能を使って削除する	68

う

ウイルスの検査	19, 22
ウイルスを除去する	21

え

英語モードフォントへの切り替え	46
エクスプローラ	12, 67
エマージェンシーディスク	22

お

オーディオCD	2, 3, 4, 6
オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する	9
オーディオCDを聴く	4

か

海外ゲーム対応ユーティリティの削除	68
海外ゲーム対応ユーティリティの追加	77
カスタム再セットアップ	89
カラオケCD	2, 6, 8

こ

固定ディスク起動メニュー	188
コントロールパネルを使って削除する	63
コンピュータウイルスに備える	19

さ

再セットアップする	80
削除したアプリケーションを追加する	70

し

システムビューア	29, 30, 36
自動的にウイルスを除去する	21
自動電源OFFタイマー	18
自動電源ONタイマー	14, 17
自動電源ONリング	17
手でウイルスを除去する	22

す

スキャンワクチン	19
スキャンディスク	31, 80
スクリーンセーバ	7

つ

通信ポート	15
-------	----

て

ディスクドライブ	31
デバイスドライバ	12, 51, 54, 58

と

ドライブコンバータ(FAT32)	191, 192
------------------	----------

に

日本語モードフォントへの切り替え	47
------------------	----

ね

ネットワークコンピュータ	34
ネットワークドライブ	31
ネットワークプリンタ	31
ネットワークプロトコルの設定	42

は

パスワード	16
バックアップ	24
バックアップCD-ROM	70, 81, 185
パワーオンパスワード	17
ハードディスク	17, 24, 102, 188

ひ

標準再セットアップ	85
ビデオCD	2, 3, 6, 8, 13
ビデオCD(カラオケCD)を見る	6

ふ

フォトCD	2, 3, 10
フォトCDを見る	10
フォトCDポートフォリオ	2, 11
プレイバックコントロール(機能)	3, 6, 7, 8, 9
ブートウイルス	20
プロダクトの選択	70

ほ

ボーカール音声	7
---------	---

め

メディアプレーヤー	8, 12, 13
-----------	-----------

ゆ

ユースフルバックを削除する	64
ユースフルバックを追加する	72
ユースフルバックユーティリティ	72

よ

予約を解除する	9
---------	---

り

リモート電源制御	39
リモートビューア	34, 35

98 MATE

ソフトウェア操作ガイド
98MATE
(Windows 98インストール)

初版 2000年6月

NEC

P

808-884762-001-A

このマニュアルは再生紙(古紙率:表紙50%、
本文100%)を使用しています。